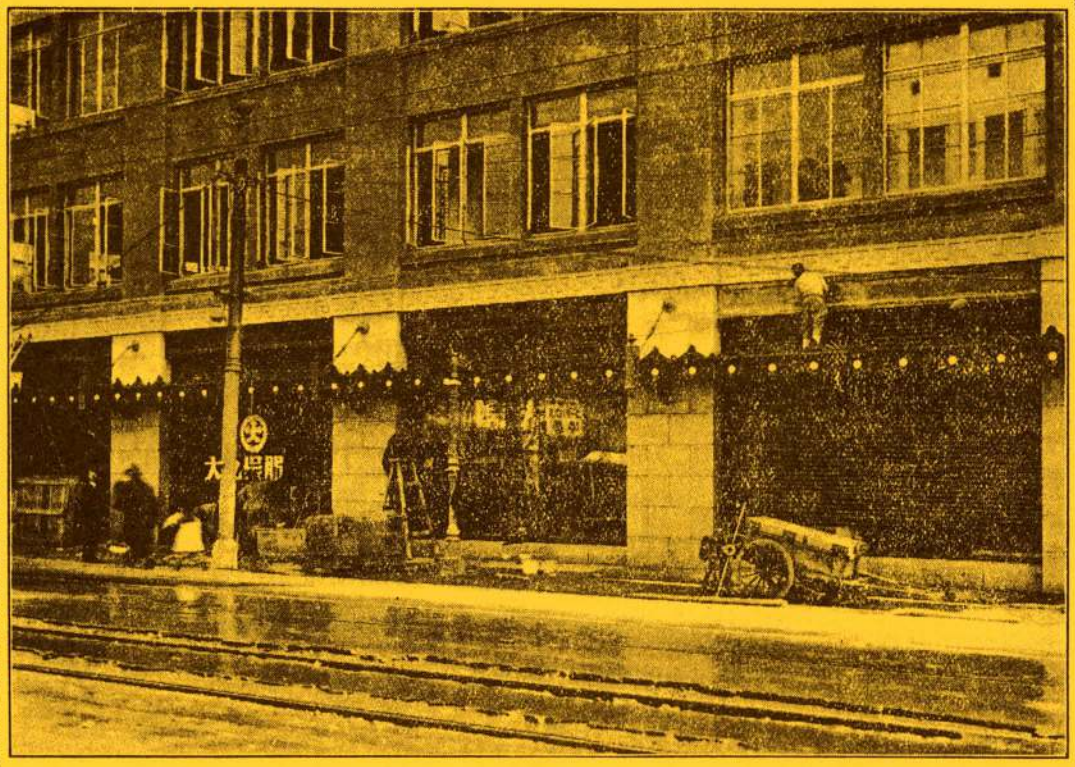
大正六年九月十四日　第三種郵便物認可
昭和二年八月一日發行（毎月一回一日發行）

建築と社會

第拾輯　第八號

日本建築協會

昭和二年八月一日



Koobe Daimaru Gofukuten.
Kantoku : Okabe Kentiku-zimusyo.
Sekoo . Oobayasi Gumi.

Haba 16 syaku Takasa 13 zyaku no *Shutter* 9 kasyo wo hitori de akemawari sukosimo taigi de nai N.K.B. Kusaribiki no subarasisa !

Goomei Kwaisya Hanken Seisakusyo.
Oosakasi Konohanaku Okizima Kitanotyoo 11.
DENWA: TOSABORI 4020.

Dairiten : {**Mitui Bussan Kabusiki Kwaisya.**
Sanki Koogyoo Kabusiki Kwaisya.

特許第七九三五號（延長許可）

大野式防火捲上ヶ戸

（特許大野式シヤッター）

這般の大震火災に於て兼て御定評を蒙り居り候日常開閉の至便、防火耐熱力優秀にして内外國同種類品中最も御安心相願はれ得可きものなることは左記事實に依り能く之を證明致候

一捲上ヶ戸の閉鎖が咄嗟の間に完全に行はれたること

一戸鈑の連鎖堅牢にして烈火に面したる場所に於ても戸鈑各個の脱落、鎖鎖の破壊を來したるものなかりしこと

一戸鈑と戸鈑との間、戸鈑と溝金との間、上方捲込口煙返し等の密着充分にして間隙を生じたるものなく能く火炎熱風の浸入を阻止し防火の効を奏したること

以上數多の實蹟に徴し更に一段の注意を拂ひ御期待に副ひ可申確信の下に努力罷在候處幸ひ御承認を辱ふし他製品取換の御注文を始め有數建築物の復興工事新建築物防火設備等着々御採用を蒙り居候、何卒多少に拘らず御用命被仰付度奉希候

資合會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地（電話高輪 長五五七番 三三二番）

出張員詰所・上福島中二丁目六〇 電話土佐堀二七二五番

繪口

同潤會アパートメントハウス　其一
同潤會アパートメントハウス　其二
同潤會アパートメントハウス　其三
同潤會アパートメントハウス　其四
同潤會アパートメントハウス　其五
同潤會アパートメントハウス　其六
同潤會アパートメントハウス　其七
同潤會アパートメントハウス　其八
同潤會アパートメントハウス　其九

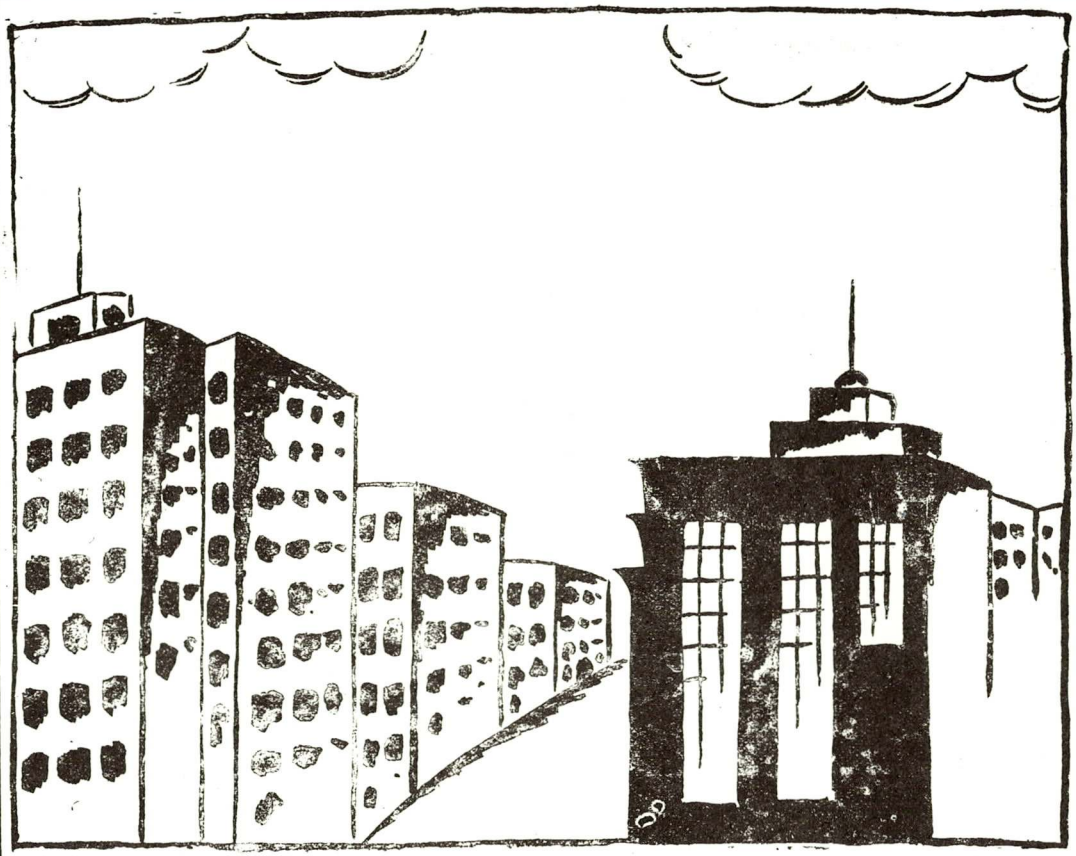
◇◇◇

▼都市の癌腫……佳山生…一
▼不良住宅地區の保健狀況と改良問題……大阪市衛生試驗所長　醫學博士　藤原九十郎…二—八
▼不良住宅地區改良問題……大阪市都計部計畫課長　岡崎早太郎…九—一六
▼工業地區内特別地區のこと……會員　加藤善吉…一七—二三
▼都市と住宅問題（堺市に就て）……堺市都計部總務課長　磯村遠…二三—二六
▼ガルテン・コロニーに就て……大屋靈城…二七—三〇
▼アパートメントハウス建築の新傾向……會員　葛野壯一郎…三一—四三

▼現代的文化住宅アパートメントに就て……市立都島工業學校建築科生徒 小山秀雄……四五—五〇
◇◇◇
▼時事……五一—五六
▼京都共同火災支店新築工事概要……五七—六八

新築紹介

▼京都・共同火災支店外觀
▼京都・共同火災支店玄關
▼京都・共同火災支店客溜
▼京都・共同火災支店平面
▼別府・白洲家別邸外觀（一）
▼別府・白洲家別邸外觀（二）
▼別府・白洲家別邸居間
▼別府・白洲家別邸平面
◇◇◇
▼別府白洲家新築工事概要……六九
▼編輯後記……七〇
◇◇◇
▼日本建築協會々報……



I.S

伊奈製陶株式會社

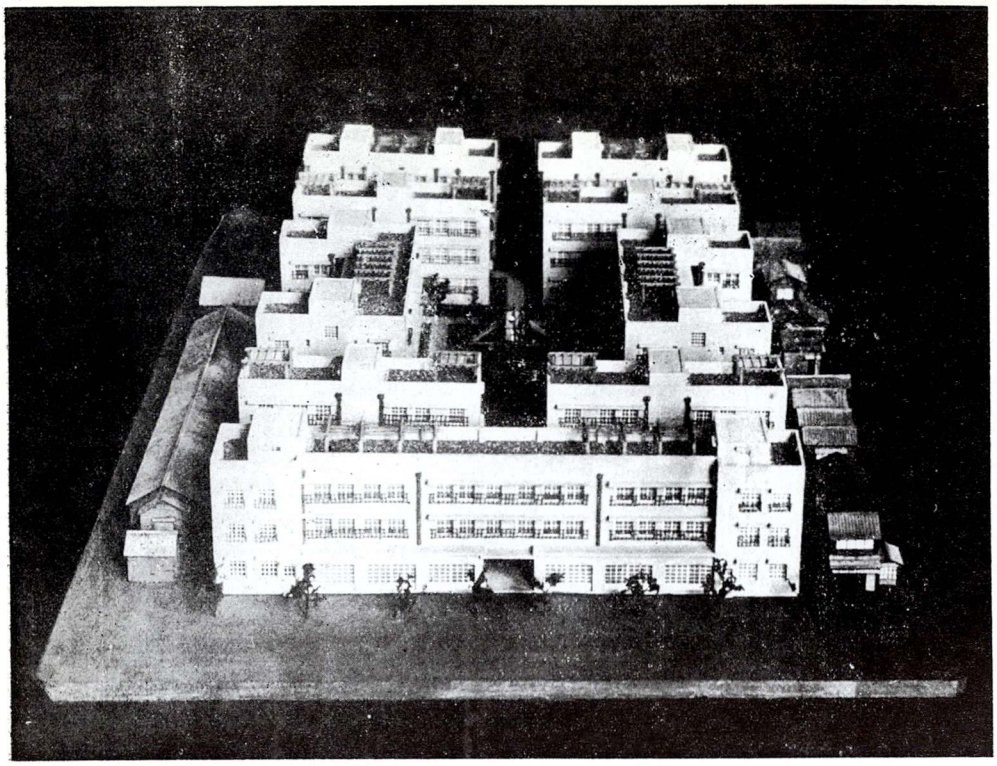
本社　愛知縣常滑町　電　二〇〇五・七

土木工事用

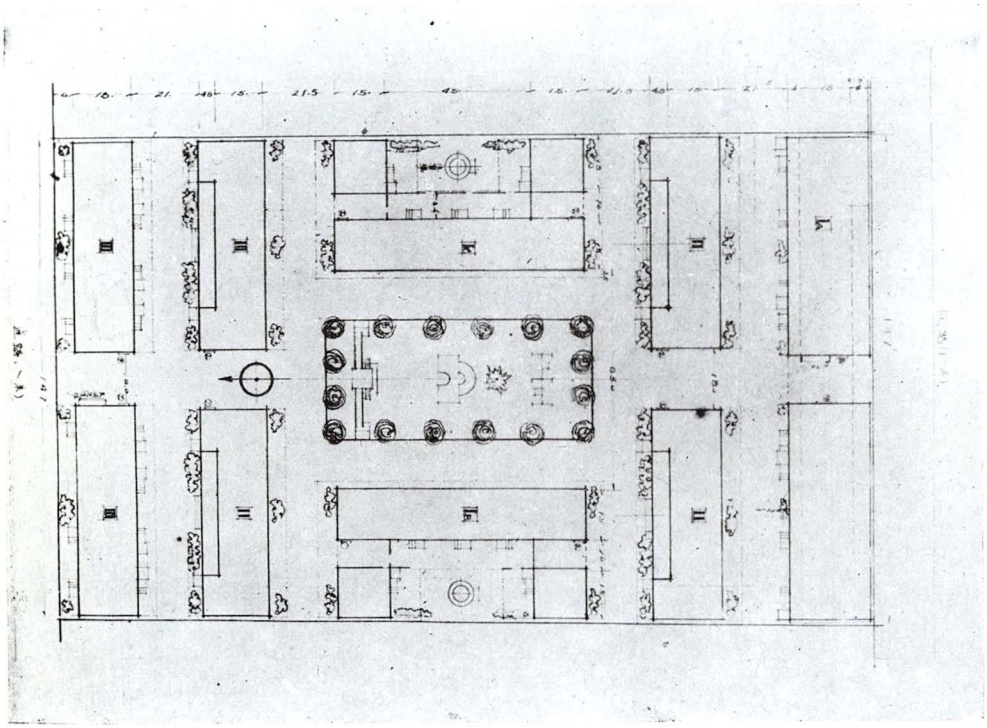
各種高級陶管
并地中電纜管

建築工事用

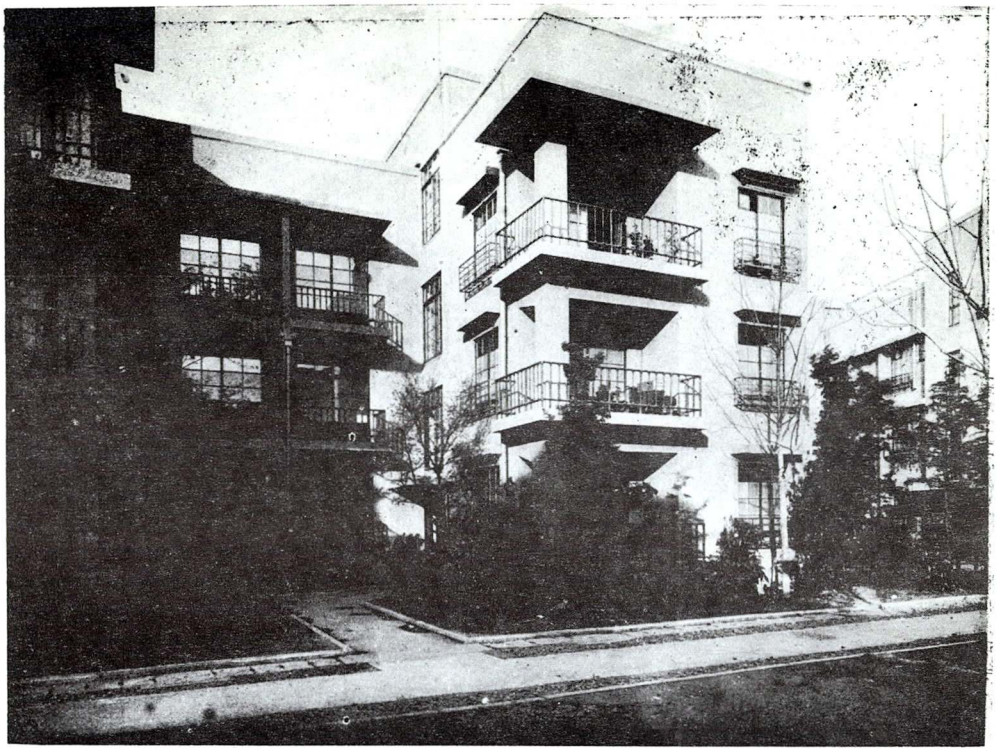
テラコッタ
タイル
モザイク
タペストリ
スクラッチ



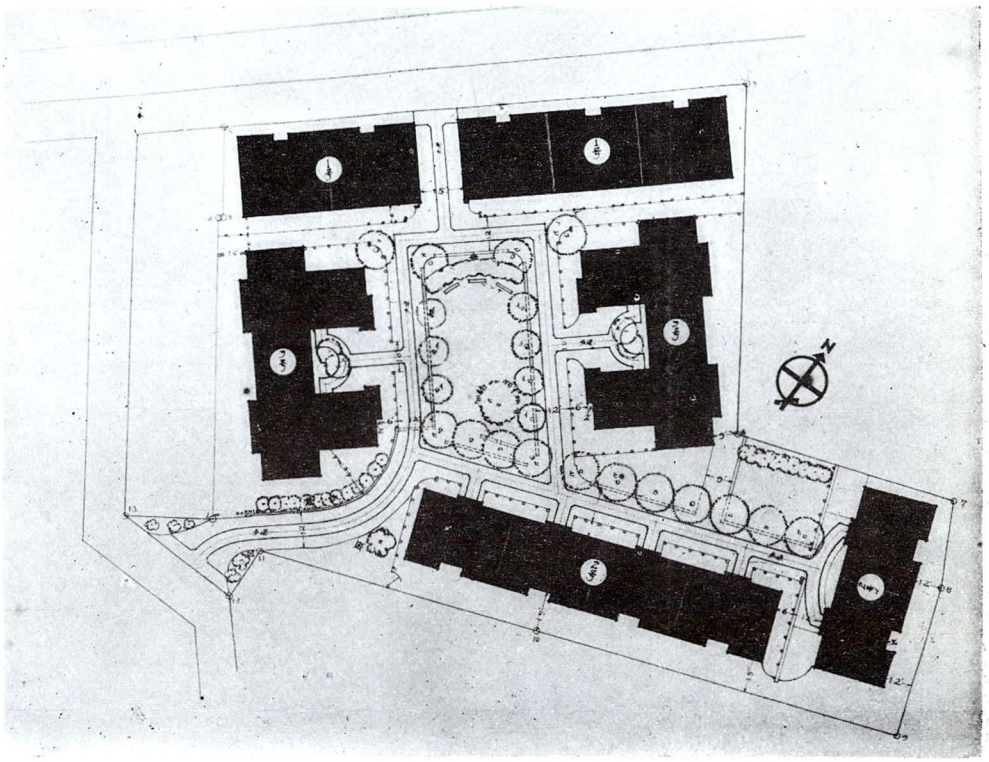
同潤會アパートメントハウス（其一）



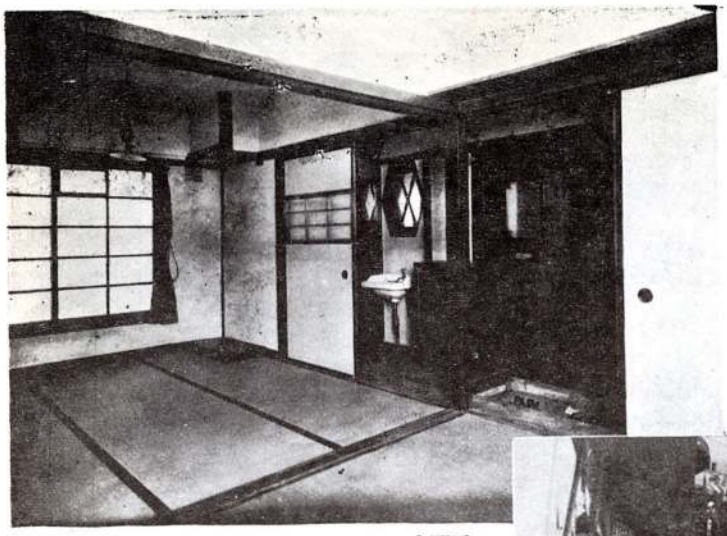
同潤會猿江共同住宅配置圖（其二）



同潤會中之鄉アパートメントハウスの一部(其三)



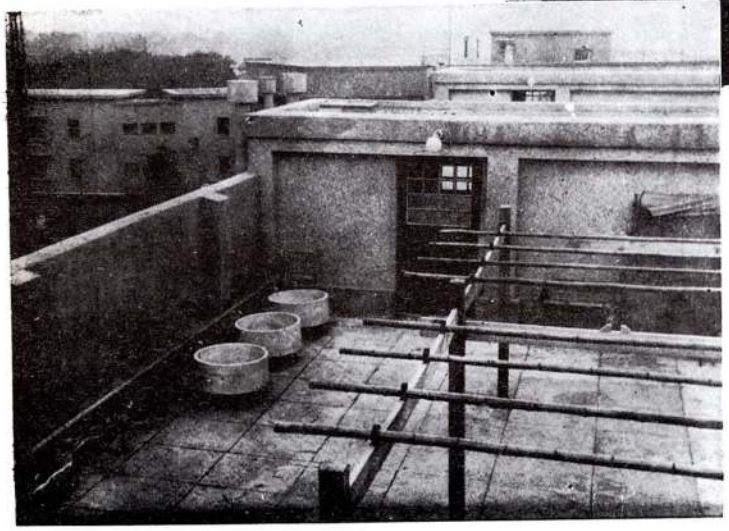
同潤會中之鄉アパートメント配置圖(其四)



同潤會アパートメントハウス室内圖（其五）

同潤會アパートメントハウスの内部（其六）

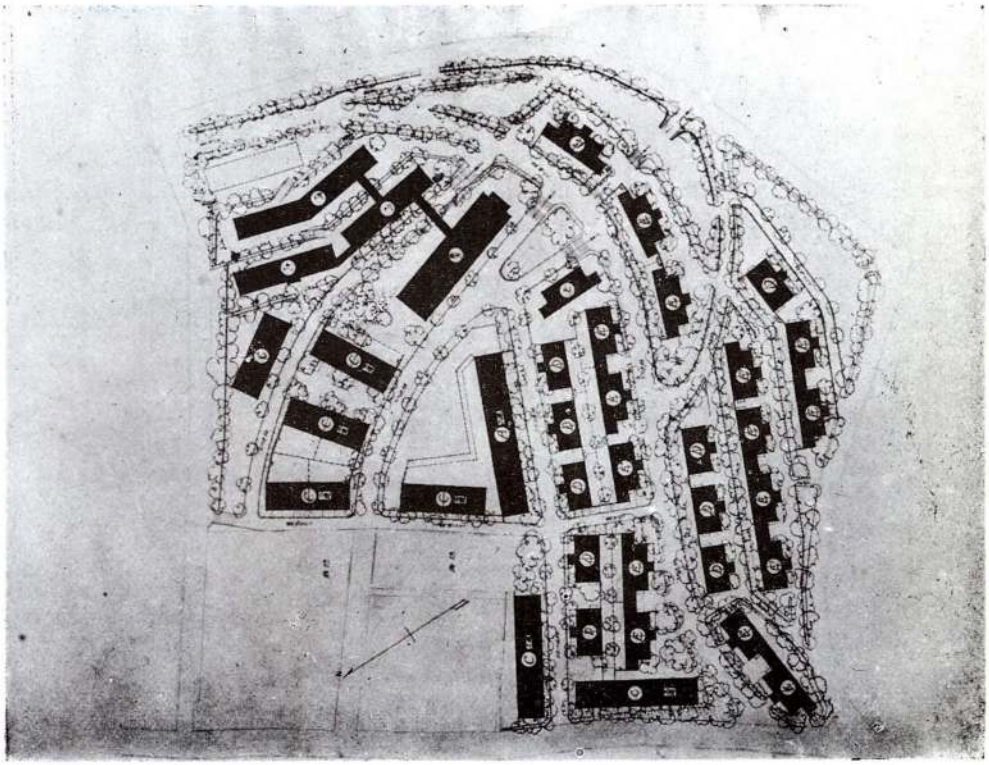




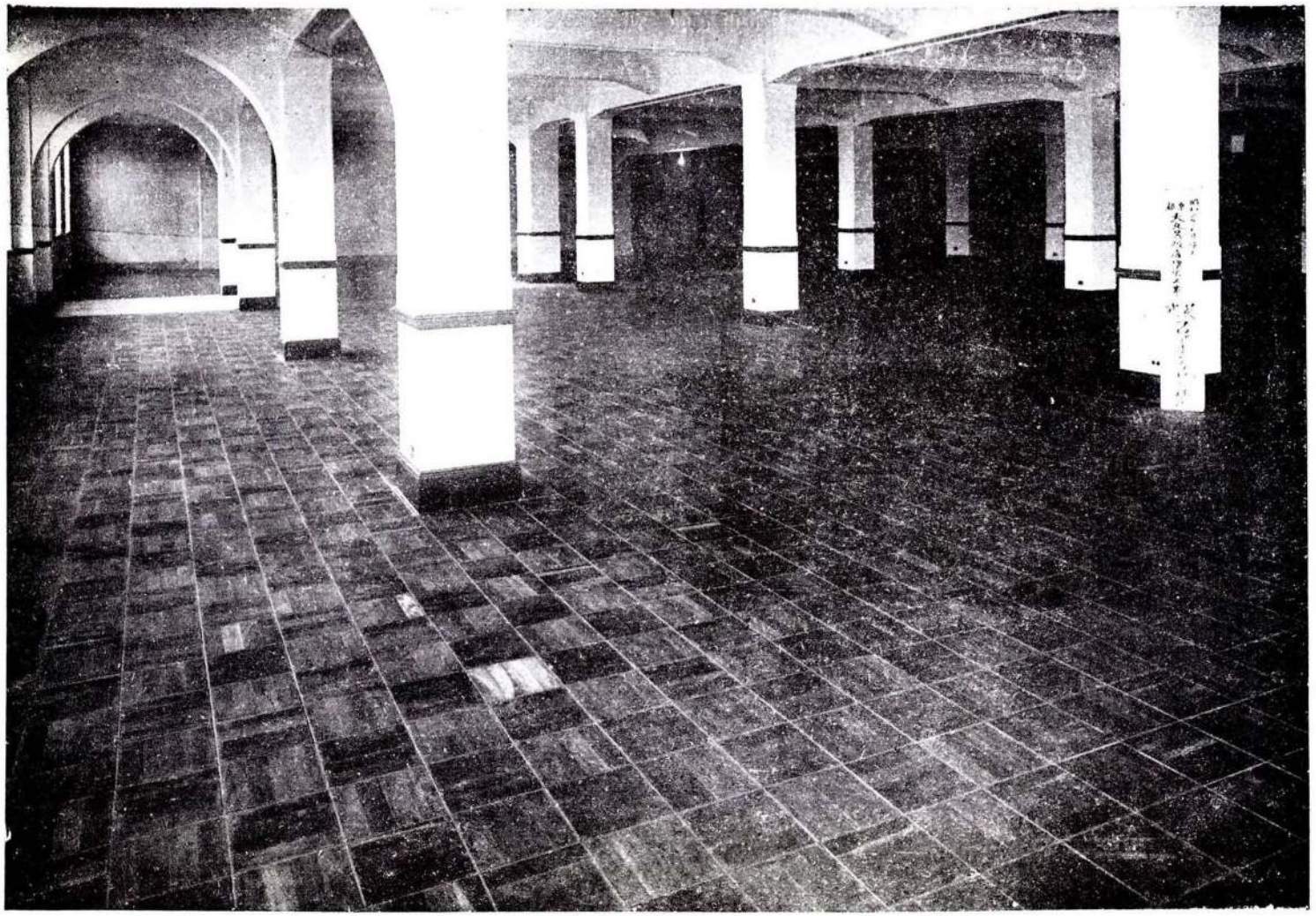
同潤會アパートメントハウス屋上洗濯場（其七）



同潤會青山アパートメントハウスの全景（其八）



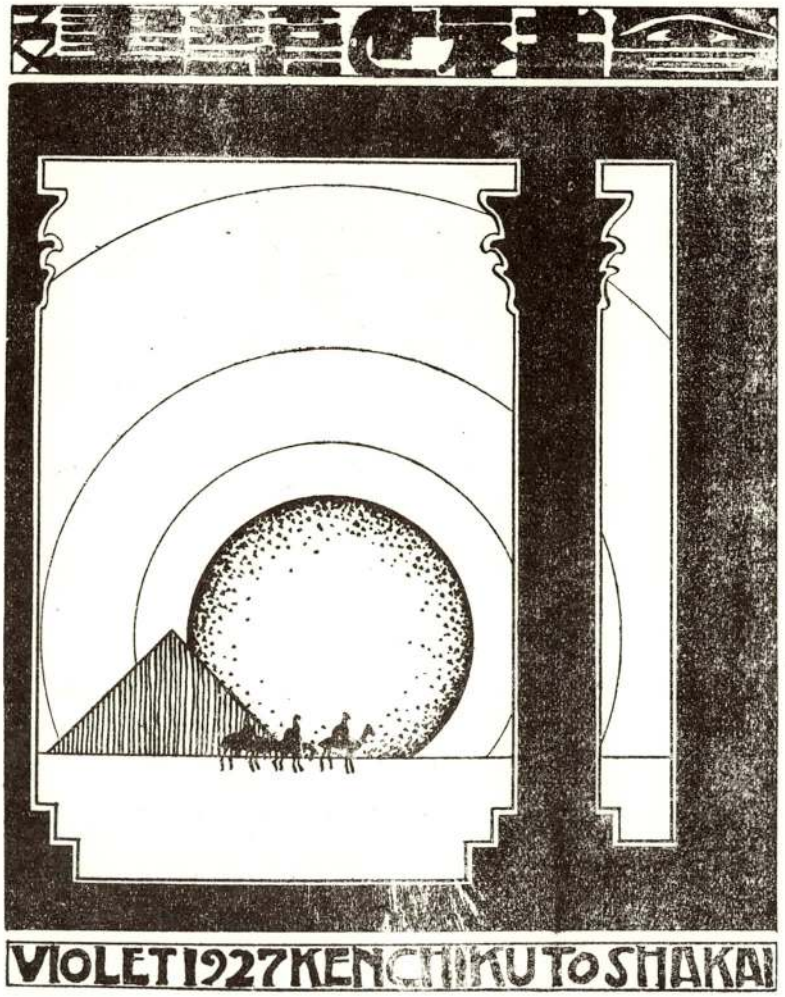
同潤會澁谷アパートメントハウス配置圖（其九）



京都大丸呉服店増築工事　葵式**フローリレグブロツク**舗床

大阪市港區境川町四丁目四十番地　電長西四一九六
東業營業所　東京市京橋區銀座尾張町二ノ二二
電銀座（57）七八七七二三〇

葵　商　會



都市の癌腫

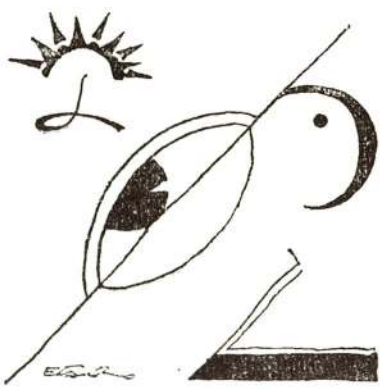
都市に於ける不良住宅地區を宮殿に於ける則屋ごしての視方は既に時勢遅れの感なき能はず、如何ごなれば現代に於いては已に斯くの如き場所をも淨化するだけの文化に到達し居ればなり。

都市をして如何に文化を向上せしむるご雖不良住宅地區を現在の儘存在せしめては其の都市は到底健全なる都市ご稱する能はず、所詮癌腫保持者たるを免がれざるなり。

此時に當り吾國大都市の不良住宅地區改良法の發布を見たるは旱天の慈雨に遇ふの感あり、只吾人を以て言はしむれば同法の出現のあまりに遲きを遺憾ごするものにして本法の如きは今日を俟ずして疾に制定せられ居るべきものに非ずやご思惟す、然りご雖出ざるに勝るこご萬々なり。

此の法令を見るに未だ完璧ご申すべからず種々考慮の餘地ありご思惟せらるゝもソは漸を追ふて改善の途なきに非らず先づ本法を適切に活用して都市の癌腫を醫せんこごを切望して止まざる次第なり

（二、七、二九、）　佳山生



不良住宅地區の保健狀況と改良問題

大阪市立衛生試驗所長
醫學博士 藤原九十郎

不健全なる都市の有力なる表徴は、過密家屋 Overhousing と過群居住 Overcrowding とである。即ち家屋の密集、人口過群の結果として當然の表現である住宅の不良化と自由空地の缺乏とは、共に都市に於ける百般の弊害の根源であつて、幾多の重大なる病弊が、此邊に釀成せらるゝ事については敢て喋々するの要はあるまい。此の意味に於て、現代都市の病弊たるものを根絶し、之れが健全なる發達を期するには、この二大病根の纖滅を企圖する事が先決問題にして、少くとも今日の都市計畫事業なるものも其の主たる目的が都市改善に存するならば、何事を措いても之れを等閑視すべきものでない事も餘りに明かである。然るに大正八年に都市計畫法施行せられ、その翌年には市街地建物法施行令が公布せられて、爾來八閲年、其の間都市の事業に要したる費用は決して少しとは云ひ得ないが、其の根本病根の纖除に向つて、何事かを遂行し得たかは甚だ疑義深きものがある。而も彼の市街地建物法の如き其の目的が不良住宅の發生を豫防するものなるに拘らず、其の取締施行範圍は久しく比較的安定せる當時の行政區域内に限られ、時々刻々發展し、而も最も不良化する傾向を多分に有する市の接續町村に對しては、縱令それが都市計畫區域内と雖も其の儘に放任して、取締法施行されて後尚數年間、其の旺なる不良化を傍觀せしが如きは、余等が最も不可解に堪へざる處であつた。——これを見ても不良住宅改良に對し、これまで如何に無關心であつたかが大凡窺れるのである。漸くにして一昨年頃より其の取締施行範圍を計畫區域内に擴大し、而してまた本年に到りては政府は不良住宅地區改良に關する法令を發布し、六大都市に對して、之れが改良を企圖せしめ樣として居る。こは茲數年に亘つて、余等が鶴首して待設けたるものであつて、一日も速かに之れが達成を期せられ、眞の都市改善の實を擧げん事を希ふて止まない次第である。

ただ之れが運用に當つては、最も合理的なる方法に從ひ、彼等の衣食住生活の現狀を斟酌し、而も生活の惡化を未然に

豫防し得る様の施設を以てせねばならぬ。若し不幸にして其の運用を誤り、折角の施設に遺憾の點があつたならば、反つて不良なる成果に終ること明かにして、こは具眼者の大いに懸念する所である。

余は茲に先づ所謂不良住宅地に於ける罹患、死亡其の他の保健狀況に就いて、余等が實地に調査し得たる處を述べ、然る後不良住宅地區改良に關して、二、三の卑見を具陳して見たいと思ふ。

第一　不良住宅地區の保健狀態

都市が結核の巢窟であり、乳兒の死亡率が甚だ高いと云ふても、其の割合は決して都市全體に一樣ではない。或る區域にては特に甚だしいが或る部分にては必しも不良と認め得ざるものがある。例へば大阪市が比較的高き乳兒死亡率を有すると云つても、之れを各地域別に仔細に見る時は甚だしき差違があるのに驚く。即ち彼の中心部である船場、島の内、上町方面に於ては一般に甚だ低くして、これを歐米の先進文明都市に比すればいまだ稍々高き方ではあるが、本邦の都市としては最も低き部に屬し、出生百につき一〇内外であるのに不衛生地域と思はるゝ地區に於ては其の三倍以上の死亡率を見るものさへあつて、都市の衛生狀態が不良なる所以は、かゝる不良地區が存するためと云ふても過言ではないのである。この意味から見ても、不衛生地區の改良が都市改善の根本であると云ふ事が、肯せられるのである。

勿論實際に於ける都市の生活は極めて復雜で、かゝる出生或は死亡の樣な統計に於てさへ幾多の疑義があつて遽かに信を措き能はないもの多く、統計調査方法の如何によつて、其の價値は大いに殺かれるものである事は事實である。即ち眞の保健狀況を知らんには、少くとも實地に臨んで市民生活の內狀を調査して、患死者移動の狀態を確實に知り、健康障碍原因のより眞實に匠きものを、補促する事によつて初めて達せらるゝ筈である。この意味からして余等は市の中心部と周圍部の、ある箇所を選定し、實地につきて居住狀況を初め滿一ケ年に亘つて各世帶別に罹患、死亡、生產の狀況並に療養方法等に關して比較的徹底したる調査を遂げ以て其の比較を確證し得たのである。而して其の撰定の箇所は周圍部、中心部共に二箇所宛都合四箇所であるが、就中比較的不衛生地域とする周圍部の西九條方面に就いて詳しく述べて見たい、尤も此の方面は本市の所謂不良住宅地區と見做されて居るものよりも、數等良好の方にて、之れを不良地區の標準として見做すには餘りに良好すぎるものである。即ち余等が改善を急務とする、不良住宅地又は不衛生地域は、この地域よりも更に〳〵甚だしきものある事を記憶せねばならぬ。今この西九條と中心部の船場方面とを撰んで、兩者の保健狀況を比較して見よう。

一　不良地區の居住狀況

先づ家密並に住密狀況に就て見るに、調査全地域一〇に對する住宅の敷地及建坪の割合は周圍部（西九條以後乙部と稱す）の方は反つて中央部（船場以後甲部と稱す）よりも家密でない樣であるが、一戸當り又は一人當りの敷地及び建坪の割合を見ると乙部の方が遙かに住密である。又其の住宅の小な

るは勿論で一戸當り平均三疊以下のものは甲部では一割に足らないのに、乙部の家は其の八割强がそたである。即ちかゝる地域では小住宅内に多人數が居住するものであつて一人當りの疊數の如き平均二枚未滿に居住するものは甲部は僅かに一割强であるが、乙部では五割二歩がそれであり、又一疊以下に相當するものは甲部にはないが、乙部の方では七・二%、一疊半以下に相當するものは三四・八%に當り、如何に過住なるかが窺はれる。特に寢室に關する調査に於て見ると、一人當の寢室疊數が一疊以下なるは甲部が一・八%であるが、乙部は一八・六%、一疊半は五九・七%である。即ち乙部にては八割近くが一疊半にして茲にも如何に過密なる事が窺知し得るわけである。

今體性年令別に於て、一人當りの所要面積二疊を衛生學上の限界として本調査其の他の調査成績を見るに、此の限界以上に居住するものは甲部は四二・六%、乙部は一六・七%にして殘りはその以下に居住するものなる事が判る。

次に住宅殊に寢室の衛生狀況につき採光及び換氣の良否如何を見るに、換氣に於ては一時間一回半以下を不良と見做すも兩者とも割合に少く、甲部は僅かに四・九%、乙部は一四・四%に當り、又採光の關係に於ても、甲部は一六・八%なるに、乙部は二五・四%である。一般に周圍部に於ける家屋が、其の構造甚だ粗末にして、換氣、採光共に良とすべきものは反つて甲部よりも多いが、亦不良なるものも同樣に多い事は注目すべき事である。

甲部	換氣	良	一二・〇	八三・一	四・九	一二・八
		中				
		否				
	採光	良	七〇・四	一六・八		
		中				
		否				
乙部			三五・六	五〇・〇	一四・四	二三・二
			五一・四	二五・四		

二、不良地區の保健狀況

斯くの如き住密生活の結果はまた種々の方面に反映し就中死亡、罹患率に於て極めて顯著なるものがある。先づ死亡率に於て見るに、乙部と甲部と其の差の甚だしきに驚く居住者千人に付き死亡の割合は甲部は七・〇なるに、乙部はその三倍强即ち二四・〇である。尤もこの差の餘りに甚だしき理由に就いては單に其の原因を彼等の不衛生生活のみに帰する譯には行かない。何となれば船場方面の七・〇%の如き餘りに少いのは、其の居住者の體性年令別の關係即ち男子の使用人が全構成人口の殆ど半ばを占めて居る事が可なり重大なる原因となつて居ると信ずるからである。然しながら西九條方面の高き死亡は不良住宅に於ける不衛生生活に因するものである事も決して否み能はざる處である。

罹患率の關係如何と云ふに、各戸に就き滿一ケ年間毎日係員(醫師を充つ)が訪問して各月の罹患につきて詳細に糺したるもので、其の調査成績の萬全を期する事は出來ないが、比較的信用し得べき結果なりと云ふ事は出來る。之れによると人口百人に付き罹患數は甲部二六・四%であるのに乙部は三五・一%であつて甚だ高く、而かも一罹病の罹患持續日數も乙部の方、甚だ長きのみならず、罹患に對する死亡割合も亦同樣に大である。即ち平均罹患日數は甲部の二十五日に對し乙部は三十七日で一倍半長く、罹患百に對する死亡も甲部は二・六五であるのに乙部は六・七五と云ふ高率を示して居るのである。

	千人ニ付死亡率	百人ニ付罹患ノ割合	一疾病ノ罹患日數	罹患百ニ付死亡
甲部	七・〇	二六・四	二十五日	二・六五
乙部	二四・〇	三五・一	二十七日	六・七五

即ち不衞生地區に於ては罹患並に死亡率共に高く、罹患日數も長く、且つ罹患に對する死亡の割合までも大なる事は如何に其の保健狀態の不良なるかを想見して餘りありと云はねばならぬ。以上の調査成績の樣な事柄は之れを外國の文獻に徵すれば、數多之れを擧ぐるに何等痛痒を感じないものであるが、我國都市に於ける調査としては寡聞にして、未だこれあるを知らず、且つ其の調査方法に於て稍々誇り得るものありと信ずるが故に、茲に擧げたわけである。勿論前述の如く吾が大阪市に於ける不衞生地區に於ては前記の乙部より更に〳〵甚だしきものなる事を略記せねばならない。

第二　不良住宅地區の改良と發生豫防策

都市に於ける不衞生地區が、保健統計上如何に不良にして病弊の根源となれるかは既に述べたる通りである。而してかゝる地區に於ける保健上の被害は如何なる原因に基くかと云ふに、これ決して單に一、二を擧げて明示し得るものではない。即ち不良住居の問題の外に尙ほ主なる原因としては衣食上の問題があり、或は居住者の敎養程度の問題、或は貧富の問題等擧げ來れば其の因となるものは種々枚擧に遑なき事ではあるが、茲には唯不衞生地區の改良並に更により必要なりと思はるゝ其の發生豫防策の一、二について少しく卑見を述べて見たいと思ふ。

一、住宅の衞生要項と罹患率

不衞生地區の改良は何と云つても、今日八ケ間敷き不良住宅の改良に先づ初まらねばならぬ。即ち都市を一個の有機生體と見做す場合に、住宅が眞の呼吸を司る肺胞にして、空地は肺臟なりとは、余等が常に唱ふる處で、自由空地が如何に必要なるか、住居の不良が如何に保健上の障碍を惹起するものなるかは、恰も人間に於て肺臟の健否が其の生命を支配する事に想ひ及べば容易に了解出來る事と思ふ。

住宅の衞生要項中、主なる問題は、第一は其の大きさ即ち一人當りの氣積の問題であり、次には換氣の良否　採光の如何、防暑、防寒上の關係、即ち方向の問題等であるが、尙更に最も必要なる事は、室内の乾濕の問題である。即ちこれら條件の良否の程度に從つて、居住者はその保健上に幾多の影響を蒙りつゝあるわけである。今前述の保健調査に於てかゝる住宅の衞生要項と罹患率の關係を見たる處によれば次の通りである。

◎一人當りの立積の大小と罹患率

（各居住人口百に對する罹患の割合）

	疊一枚未滿	一枚半未滿	一、五―二枚	二枚―三枚	三枚以上	計
男	三八・三三	三九・七九	三一・七八	三〇・六六	二一・七一	三二、〇〇
女	四三・五三	三八・八二	四一・〇七	三六・九七	一五・〇五	三五・四二
計	四〇・八六	三九・三三	三五・六九	三三・四一	一八・七七	三三・五六

◎採光の良否別と罹患率

（各居住人口百に對する罹患の割合）

	不良	中等	良	計
男	三八・一六	三一・八〇	二七・五三	三二・〇〇

女	三七・八二	三五・七四	三二・三六	三五・四二
計	三八・〇〇	三三・九七	二九・三六	三三・五六

◎換氣の良否と罹患率（各居住人口百ニ付）

	否	良	計
男	三四・四八	三二・〇六	三一・一〇	三二・〇〇
女	三九・五八	三六・九四	二九・九二	三五・四二
計	三六・七六	三四・三七	三〇・六一	三三・五六

◎住宅の乾濕と罹患率（各居住人口百ニ付罹患の割合）

	濕潤	中等	稍乾燥	計
男	三六・六二	二九・八〇	一八・三七	三二・〇〇
女	四三・八七	三〇・四二	二三・五三	三五・四二
計	四〇・〇三	三〇・〇五	二一・〇〇	三三・五六

二、敷地の乾燥は不良住宅發生豫防の隨一

斯くの如く一人當り立積の大小、換氣、採光の良否と罹患の割合との間に密接なる關係あるは、余等の調査に依つても明かであるが、更に最も深き關係ありと思はるゝは其の乾濕の度合である。即ち前表にも示せる如く濕潤住宅居住者は其の罹患率は乾燥住居に比し約二倍だけ高いのである。故に勿論住宅それ自身の構造が衛生的なる可きは云ふまでもなき事であるが、住宅濕潤の源たる敷地・環境の問題は更により重大にして、決して等閑視出來ないものである。斯の所謂不良住宅地區と稱せらるゝものが、殆ど高燥の地には見當らずして、多くは低地にして、汚水は常に停滯し、土地は常に陰濕なる場所たるは、普く人の知る處である。斯る低濕地に於て如何に莊麗なる住家を營むと雖も、決して保健的に安全なりと云ふ事は到底出來ない。即ち住宅の濕潤は敷地の乾濕に支配され、居住者の保健障碍の因を作る。かく住宅の改良も其の根源に遡つて敷地の改良に始まらねばならぬ。其の基を絶たずしては、決して其の目的は達し得ないであらう。

茲に於てか余等が甚だ不可解に堪へないのは、さきに市街地建築物取締りの法あり、近くは不良住宅地區改良法案が制定せられたりと雖も、不幸にして不良敷地の取締りに關する規定を見ない事である。今日大都市郊外に日々建築されつゝある住宅を見よ、昨日まで水田であらざれば水草の繁茂せる溝の如きに、僅か半日か一日の作業による薄層の地盛りにて早や建家されて居るが如きは實に言語同斷の至りで保健上決して許容すべからざる問題である。斯る濕潤なる土地に建てられたる家に對して、如何に嚴格なる市街地建築法の取締りはあつても、其の保健上の効果たるや實に疑はしきものである。法の力によらざれば萬づの改善が不可能なる我國に於ては、住宅敷地に關する取締法を速かに設け、人工土(made soil)又は濕潤地に直ちに建家する事を嚴禁すべきものである。

三　住宅の樣式を如何にするか

次に考ふべきは改良さるべき住宅の樣式を如何にするかと云ふ問題である。木造ならざれば不可なりとする人もあれば一方には又鐵筋建築を可とする側もある。勿論現時の都市建築に於て見るが如き、耐震耐火の住宅は、保安經濟上からすれば至極結構な事ではあるが、果して細民の住宅として不可なきかについては、遽かに余等の贊し得ざる所である。其の

理由如何と云ふに、斯る硝子張りの箱の中に住む可く彼等の衛生的敎養がまだ不足して居る事が其の一である。住宅の衛生に關して最も無識なるものを、換氣の不良なる硝子箱の中に壓し込めた場合に、如何なる不幸を招來するかは、古來其の例に乏しからざる處である。住居の保安耐久は勿論必要な事ではあるが、其の內容物たる人間の身體が家よりも一足先に崩壞する樣な事では決して住宅としての目的に副ふものではあるまい。また彼等の今日迄の習慣からすれば、粗末なる鐵筋造りは如何にも柔か味のない、落ち付きの惡く、かゝる處に於て果して十分なる休憩が得られるか、どうか、斯る鐵筋コンクリート造の床面に、ぢかに疊を敷くが如き、幾多衛生上の障碍を招くものであるは明かな問題である、而して粗末なる鐵筋コンクリート造の住宅を、溫みある住み心地よきものたらしむるには、全部の床面を板敷となし、疊敷の床は少しく高く上ぐるを要し、又裝飾其の他に相當の費用をかけねばならぬ譯であるが、僅かの政府の補助金を目當てにして行ふ工事に、斯る設備は到底望むべくして不可能な事であらう。全く柔か味も、落付もない、鐵の箱然たるものになり易き事は想像するに難くない處である。要するに彼等が從來の弊屋に居住せる如き幼稚なる住居觀念を改め得ざる限り、鐵筋コンクリート造の住宅は、まだ〳〵保健上甚だ危險の伴ふものと云わねばならぬ。余等が恐れる事は、彼等に斯る住居を與ふる事によつて、十九世紀中葉頃の歐米都市の保健的惡化時代の再來を見るにあらざるやと、云ふ事である。余は不幸にして斯る慘狀を繰返す事の可能性を否定し得ないのである。また若し防火耐久等種々の關係上どうしても、鐵筋コンクリート造となさねばならぬ、かゝる場合に當つては余等は幾多の希望を有する。先づ第一に室壁材料の撰擇について、宜しく十分の考慮を拂はねばならぬ事である。即ち現在の日本建築等に於ける、衛生上より見たる多くの美點を十分配せねばならぬ、例へば紙障子の利用、自然換氣孔の設置また長きヒサシ等は、我國の如き夏向きの生活にふさわしく出來て居る住宅の居住者に對しては、必ず考慮すべきものであらう

四　密住の制限

不良住宅發生の豫防としては、一室內の居住者又は一人當りに要する最低限度の立積、疊數を定むる事である。倭屋に多人數が群居生活をなす傾向は不良住宅地區に於ける、最も普通の現象で、これがまた保健的惡化の大因をなす事は疑ひなき事實である。而も我國の市街地建築物法に、密住生活の制限に關しては、何等の規定がないのは最も遺憾とする處で、これなくしては決して住居の保健取締りの効果は擧げ得られないと思ふ。尤もこの取締の實行は、極めて難事であつて、住宅檢查員制度などを採用せねばならぬ譯であるが、現今の警察の戶口調查などを利用するならば左程困難な事ではないと思ふ。特にこれは密住の傾向ある不良住宅地區に於て嚴に取締り其の惡化を豫防すべきものである。

五　社會施設の必要

不良住宅地區改良として他に考究すべき問題は、救貧施療の問題である。病が貧の原因となり、貧が病の因となるは古來明かなる事である。生活の不良化も其の根源を糺せば彼等

の貧なるが爲めと云へない事はない。此の意味に於て不良住宅地區改良と同時に救療方面に關する施設が附帶施設として特に必要となる。例へば産院、乳兒院、托兒所及施療病院等の社會施設が十分に徹底されねばならぬ。

この間の消息も今次の保健調査によつて最も明かに示されて居る。

療養方法率

	入院治療	自宅醫療	醫藥外服藥	單なる靜養	轉地
甲部	七・七六	五〇・二一	一四・六七	九・四五	一七・九二
乙部	一・五三	三七・三六	三五・三〇	二五・四八	〇・三三

即ち乙部が罹患率高く罹患日數長く、死亡の割合も大なる事は前述の通りであるが、其の療養方法を見る時、更に感を深ふするものがある。今假りに療養方法を入院治療、自宅醫療醫藥外の服藥(賣藥)、單なる靜養及び轉地療養の五つに分ちて前述の罹患者について調査を行ふに、乙部に於て入院治療は甲の七・七六%に對し僅かに一・五三に過ぎず、又自宅醫療も甲部五〇・二一なるに、乙部は三五・三〇であるが反之醫藥外の服藥及び單なる靜養は甲部(二四・一二)に少くして、乙部(六〇・七八)に甚だ多い。これ等の事は乙部に於ける罹病が、其の罹患日數の點から見るも決して輕症にあらざる事が證せらるゝに拘はらず、貧の爲めに治療を十分に施し能はず、其の結果死亡率が餘程高くなれるものと考へねばならぬ。

是等は單に一例に過ぎないが、不良住宅地區改良に當つて斯くの如き社會施設が必ず同時に附帶さるべきものなる事を立證して餘りありと云わねばならぬ。



不良住宅地區改良問題

岡崎早太郎

一　所謂不良住宅地區

社會政策てふ事の流行に伴れ不良住宅改良の聲が喧しくなり遂に不良住宅地區改良法と謂ふ法律までが出來た。

所謂法律に謂ふ、改良を要する不良住宅地區とは、衛生、風紀、保安等に關し有害又は危險の虞ある住宅の密集せる一團地であり。改良施設として行ふべき事業は土地の區劃形質の變更、道路下水の施設、地上物件の除却、其の他地區改良の爲に必要な施設である。さり乍ら良と不良とは畢竟二個以上の同種の物を比較し、品評したまでの對話であつて個々別々には良もなければ、不良もなき筈だ。今少し具體的に說明しなければ法律を適用し得る乎。得ない乎の判斷ができ兼ねる場合が出來する。知らず立法機關の認めて以て不良と稱ふる住宅は如何なる程度のものであらう乎。

良の部に入る乎。不良の分に屬する乎は別とし、私の觀た住宅の一團地に普通離れのした一地區がある。所謂普通離れのした住宅地區は其の面積は一萬五六千坪から二萬坪の間であらう。而して地勢概ね平坦で、低濕地其の大部分を占むるに拘らず、汚水及雨水の排除に要する設備が頗る惡るい。加之路幅は狹く、路面は汚泥や塵芥が充滿して、滅多に乾燥せず、殊に路線に一定の系統がないから街並が甚しく不規則だ然も其の細徑隘路の兩側には矮小な、不潔な平家が併列して居るのだから採光、換氣、通風が十分であらう筈がない。斯う謂ふ場所に棲息する人間が約一萬五千人に上り、そが共同生活の用に充つべく出來た。木賃宿と稱する家屋が二百餘軒ある。その外家族的生活の爲にする長屋もある。木賃宿でも長屋でも疊敷六枚も敷ける部屋は最廣、最大の大廣間だ。普通寢食の爲に三疊敷の一間を一家族で專用する如きあれば無

類の饗澤三昧と謂はれる。かう謂ふ有樣だから一軒の家に一家族が獨占的に居住する者は絶對にないと謂ふてよからう。大抵は六疊の一間位あれば三四家族が同居生活して居る。その家族が亦謂はゆる貧乏人の子澤山だから疊一枚に平均三人位の割合とならう。起きて半疊、寢て一疊と謂ふは人間の忍び得べき最小、最低の居室、寢室の割合を謂ひ表はした標語であるから。この實況を知らない人達は横三尺、縱六尺の間すなはち疊一枚の上に如何して三人も四人も寢られやう乎と思ふであらうけれども。こゝでは脚と脚とを反對に差し込み合はせ。或は互に重なり合ふて寢るが當然の寢方と心得て居る。否、獸的放縱に男女無差別のゴロ寢を事とし。生れて以來獨り〳〵離れて寢た事のない徒が大多數を占むる彼等仲間では。皮膚と皮膚とが接觸したり。男女互に息を吹き掛け合ふ位に特殊の觀念を惹き起す者なき又奇とするに足らないのである。

◇

長屋生活者の外に二百軒に餘る木賃宿に間斷なく宿泊する四五千人の常客がある。宿泊料は普通三十錢であるから一人一ケ月金九圓に當る。さり乍ら所謂宿泊料は食費を含まず單に雨露を凌ぐだけの屋根代……すなはち純乎たる家賃に外ならない。この家賃を寢ては一疊の割合で計算すると疊一枚に付月九圓であるから。七間三十疊位の普通の住宅にすると驚く勿れ一ケ月の家賃二百七十圓となり。大阪に於ける現今の市價五十圓乃至六十圓に比し五倍内外の高價となる。顧みて如何に住宅難に惱みし當時でも。これ程高價の家賃を貪りし惡家主はなかつたであらう。然るに斯かる不潔にして不廉なる木賃宿が所謂寢ては一疊の制限を超ゑて常時客止め滿員の繁昌であるから驚かざるを得ない。然も經濟とか損益とかに無關心な彼等は之が社會の常態だと信じて他を知らないから敢て一言の不平も謂はず。平氣で高價な宿泊料を拂ひ。茲に起臥するのみでなく。一夜泊りの風來客は寧ろ稀有だと謂はれ居る。否、親子夫婦手を携へて五年も八年も引續いて居住する常客が其の大多數を占めて居るとの事である。

かゝる生活に齷齪たる彼等の職業はと謂へば極めて簡單である。就中男子の大部分は何時もこの界隈に習慣的に開かれる勞働者市場とでも謂ふやうな場所に毎朝その身體を連びて三十人なり、五十人なりが不規則な集團を作り只管買手の出現を待つて居る。そこへ朝の五時頃になると請負人の下請人とでも謂ふ式の者が來て募集を始める。即ち何所に塵埃運搬があつて値段が何程で何人要る。あすこに泥溝浚がある。穴堀人足が要る。土運びは如何か。煉化人夫は如何程と謂ふ按配に大聲で人數と價格を示して應募者を引纏めて行くのである。かくして夫々其の日の職に就くのであるが偶には賣れ殘りが出來て、勝手に各所に出掛けて立坊となり、荷車の後押をする等。自前稼を行る時もある。而して彼等は毎日夜の六時―八時頃までには汗と垢と塵埃に塗みれ。疲勞と困憊とに全身綿の如くなり、重き足を曳きずり乍ら歸來する。然も其の儘前後不覺に熟眠でもする乎と思ひきや、さに非ず、幾何ほどでも錢さへ持てば直に刺戟昂奮の勇氣を盛り返して女色を漁さり。飲酒を爲し。賭博に耽けるを常とするから如何しても無事に納まる筈がない。之が爲には撲り合も始まれば、

摑み合ともなり。遂には傷害、致死と謂ふやうな大事件を惹起することも屢々ある。

◇

男子の職業や素行が斯くの如きに對し、女の方は如何と看るに之は又格別で紹介に價する特殊職業の持合せがない、強ひて擧げむとするも性慾の提供以外には何ものもない、終には男子と同じく勞働市場に身を賣つて。夫婦共稼の實を擧ぐる奇特者あるも、幷は百人に一人か二人かに止まり其の大多數は男子通有の慾望たる性慾を充たすべく、そが提供を唯一の職とする供肉專業者たるを喪はない。然も其の目的が男子の收入を引當に餌を漁するにのみなし、倫理とか、貞操とかの觀念は爪の垢ほどもない。ところが貯蓄心の欠乏てふ一事は斯う謂ふ社會の共通點であるから、半日一日に費ひ切れない多額の錢でも拾へば兎も角、それでない限りは眞實の其の日暮らし、否その時暮らしだから宵越の錢の如きは滅多にあらう筈がない。若し雨の三日も降らうものなら一家は忽ち喰ふことが可能なくなる。こうなると一戸を構へて獨立の生計を營む等と、下手に固くならないだけに簡單に埒が明く。例へば既に子の有る夫婦間でも。お前どこかへ行つて食つて來いと主人が謂へば、妻亦快く承諾して小錢でもあり相な男子を探し、肉を供して食を漁さる。そして天氣回復と共に歸來し。平氣で手柄顏に別後の經過を吹聽する。夫れが若し間違つて臨時的が其の儘永久的と化つても留守居の主人毫も意に介しない。のみならず自己亦自由に新しき後所を採用して空席を補充する。かくして夫婦の離合に一定の常軌がないから強姦とか、貞操蹂躙とかの問題の起らないのは固より野合、姦通が自ら一つの婚姻形式だと思ふて居るのである。故に之が爲に起る紛擾は一時は激烈を極はめても其の解決は存外簡單である。

◇

要するに夫婦と名の付く男女でも機會さへあれば何時でも他の男女と原始的亂交を實行して憚らないのだから夫婦關係の觀念が至極淡白である。すなはち『夫婦とは繼續的に行はるゝ性交度數が他の男女より比較的多き男女の關係である』位にしか考へて居らない。夫婦の關係が既に斯やうであるからには生れた子の父親が正確に誰である乎の判明しやう筈がない。同時に其の母親までが際限なく出たり這入つたりするのだから幼兒の方では父母共に確知することは不可能事だ。從て親として、子に對しての謹愼もなければ。慈愛もないのだから。子の方でも親なる者の意義が分らないから。親を敬愛する眞情の起らう筈がない。かくて境遇の感化は自ら醜惡なる異常な發達に荒むで隙さへあれば他人よりも手近き親の錢を盜み出し。飴玉や駄菓子の買喰を事とする。その遊戲の如きも幼時より盜人氣質を帶び來りて。掻拂の眞似。ゆすり文句の眞似。强盜ゴッコ、喧嘩ゴッコの類に絶大な興味を有して居る。而して彼等が十二三にもなれば性慾に關し驚くべき發達を遂げ。早熟的行爲を發揮して人前をも憚らない。現に十三の小女の姙娠を奇とせざる位だから。十四五歳を超ゆる處女は藥にしたくも無いであらう。

私が見て以て世間離れのしたと謂ふ住宅地區の概況は以上

の通りであつた。私は之が良住宅か不良住宅か。將又要改良住宅か不要改良住宅かを知らない。然も若し之が不良住宅であり、要改良住宅であるとすれば。果して改良可能か不可能かを決定するが先決問題ではない乎。

二　改良は可能か不能か

私の例示した住宅…謂はゆる世間離れのした一團の住宅地區が不良住宅であり。要改良住宅でありとすれば之が改良は如何にすれば良からう乎。勿論改良の施設として行ふべき必要な事業は多々あるであらう。然も之に關し法律の規定する事業の種類を顧みるに(一)土地の區劃、形質の變更。(二)道路及下水の施設。(三)地上物件の除却。(四)以上の外地區改良の爲必要なる事業。(五)地區内居住者の居住に充つべき住宅の建設等であつて。純乎たる土地及家屋の改良に外ならない。由來人間の生存に缺ぐことの可能ない要件としては衣食住の充足だとせられてある。殊に支那古への聖人は衣食足りて禮節備はる、とさへ謂ひ放つたでない乎。すなはち衣と食とを第一義的とし。住宅は第二義的としたのだ。然るに不良住宅改良法は衣食以上に住宅を重要視し。土地と家屋の改良を以て第一義的の急務とした。蓋し支那聖人をして謂はしむれば本末顚倒だ位の批難を加へるであらう。本末顚倒の批難は支那人の評論で何にも私の關與する事項ではないが。この場合に於て疑問とする所は土地と家屋の改善のみを以てして斯かる住宅地區改良の目的が達し得らるゝであらう乎。

想ふに所謂不良住宅地區と雖も始めから不良住宅を造り。その地區を擧げて不潔ならしむべく施設計畫した譯ではあるまい。必ずや善良にして廉價な住宅を供給し。依て以て簡潔な生活を爲さしむべく目論見しものなることは何人も等しく首肯するところであらう。然も幵が現狀の如く頽廢し。世人をして誰れ憚らず不良住宅地區と叫ばしむるに至りしに付て何等か特殊の原因なくてはならない。蓋し生活の簡易と家賃の低廉は偶々經濟界の慘敗者を誘致し。自ら貧乏人の巢窟と化り。勢の趣くところ懶惰無賴の徒が出入し。滔々として風俗を低下し。遂に現狀に導きたるに非ざるなき乎。若し夫れ現時に於ける家賃の昂騰。高き宿料の前拂を求むる如きは實は風俗惡化に對する防禦策の變態と見るが至當ではあるまい乎。換言すれば住宅地區の不良化は。土地の區劃、形質や。道路及下水道の不完全や。家屋構造の不良等のみに原因せず實に居住者その人の職業、素行、敎養等專ら其の境遇が然らしめたと謂ふも敢て誣言ではあるまい。然るに今や之が改良の方法として。單に土地の區劃整理を行ひ。道路及下水道を設備し。更に現存の家屋及物件を除去し。之に代ふるに清新な住宅を以てせむは。之を爲さゞるに比し優ること萬々ならむも。斷じて不良地區絶滅の方法ではない。況や風俗の頽廢その極に陷れる現住者の全部を。その身、その儘に、この新地域、新住宅に收容するを唯一の目的とするに於てをや。必ずや數年ならずして新なる施設を不良化し去らむは識者を待たずして豫言し得るであらう。

◇

不良住宅地域の改良に付ては更に大なる疑問がある。そは改良の目的が所謂地域内現住者の扶苦與樂にある乎。又は地

區外居住者の除害爲安にある乎の問題が夫れだ。

若し前者なりとすれば彼等は現在の生活を至大の苦痛とし之を離れて。より以上の安樂鄕に入ることを熱求しある乎如何か。

蓋し彼等の現在は殆ど原始的生活を營み。食慾と性慾とを除けば。他は物質的にも、精神的にも。思想と感情と希望とを有しない。單に眼、耳、鼻、舌、身、意の接觸作用から來る衝動に因り。一時的に喜怒哀樂の表現はあらむも。過去に對する追懷もなければ。將來に向つての希望もない。すなはち現狀を社會の常態と觀念し。何等の苦痛を感じないと同時に敢て樂鄕を希ふの志もない。總て社會が救濟的施設として所謂改良事業を行ふも。彼等に取りては拔苦與樂でも何でもないのである。更に之を所謂不良住宅地區の地主、家主側から謂はしむれば。法外に高き家賃、宿料を取位つるに拘らず。一言半句の苦情も謂はず。毎日お初穗的に前金もて拂ふて呉れて一錢一厘の貸し倒れも出來せず。剩さへ雨漏りがしても。壁が破れても一切修繕を求むる者もない位だから維持、保存及改良に關し勞費の支出が少ない。その上家屋稅、地租等の稅率が最低級なるが爲に結局收入が安全で。支出が少く旁々比類の稀な一大寶庫たる實質を具備して居る。然るに其の地區内の土地が收用せられ。家屋物件までを喪失するは莫大の損失だと謂ふであらう。要するに家主も店子も共に共に迷惑こそすれ。喜悅する所ではないから結局救濟とはならない。人に迷惑と損害とを加ふる行爲は摩可不可思議を敎義とする浮屠宗でも救濟とは謂はないからである。

反之地區外居住者の爲に害惡と危險とを除くを以て所謂改良の目的なりとすれば。先づ以て土地及地上物件の設備不良に原因し。衛生上、風紀上將又保安上地區外に及ぼす害惡と危險とが有る乎、なき乎から詮議する必要がある。なるほど斯かる場所に居住する者の常として。衛生上の注意とか。惡疾流行の豫防とかには全く無關心である。否、土地及家屋の設備と謂ひ。居住者の放縱と謂ひ。恐ろしき病毒の發生所。傳染病の根據地と見らるべきのみならず。味さへ良ければ虎烈剌の病毒でも。チブスの黴菌でも爭ふて食に供せむ位の勢だから。一見して病毒の傳播を媒介することなきかと疑ふ者あるは必ずしも無理ではないが其の實際に於て傳染病の勃きは實に奇蹟的である。蓋し乞食に下痢と感冒なきと同じく周圍環境から來る自然的作用に因り自ら一種の免疫性と化つたのであらう。傳染病の關係が如斯とすれば他は風紀上の害惡と保安上の危險のみである。彼等の素行、風儀の醜態は前に紹介せしが如く言語に絶するものありとは謂へ。そは所謂其の地區内に於てのみの行爲にして。地區の圈外にまで蔓延し影響することは極めて少いから深く憂ふるの必要はない。觀し來れば之を改良するも。改良せざるも地區外者には何等利害の影響はないのである。強ひて有りとすれば。近所に不良住宅ありてふ感覺の問題のみであらう。然に尙ほ之を忌避せむとせば設備の改善や。家屋の改造よりも。居住民の全部に散開を命じ。殘存の有形物は之を擧げて燒却し。彼等をして又歸還することを能はざらしむるの外はあるまい。然るに之を行ふの勇氣なく單に土地を改良し。家屋を新築するのみに止まらず。剩さへ從來居住せる不良、無賴の徒を悉く其の新住

宅に收容するは。彼等が舊不良住宅地區で爲せし行爲を。更に新改良住宅地區で繰返さしむる所以で。害惡の蔓延と危險の憂慮を除去する施設と謂ふことは可能ない。

◇

更に起る疑問は不良住宅地區内の居住者は文明都市の生活から除き得ない副産物ではあるまい乎。否彼等の常職たる塵埃の搬去。泥溝の浚渫。不潔場所の掃除。その他下級の勞働的作業に從事する者の絶滅は都市生活上大なる障害となるのではない乎。如何に都市計畫が行はれ。都市が美化すればとて。塵芥、汚泥の如き不潔物の原素が全滅する譯ではないから。之が洒掃。運搬及處分等の爲にする勞働作業は絶對に必要である。或は文化の進歩に伴ひ下等動物や、器具、機械に依て行はれ人間の勞力を要しない時代が到來するかも知れない。然もそは遠き將來に期し得べけむも。今直に之等に賴らむことは不可能事だ。今後なほ五十年や。百年の間は泣く々々でも彼等の手足の活動に待たねばなるまい。この點に於て今日只今のところ到底も彼等の散開を行ふことは出來まい。さればと謂ふて彼等をして改良住宅の主人たらしむべく敎化し。善導し。秩序付むとする如きは之れ畢竟、痴人夢を說くの類にして。その實現なきは自明の事實であらう。若し果して然らば現存の不良住宅地區に對しては。或は遊廓地の如く或は交通遮斷地の如く。成るべく外界と接觸するの機會を減少するに努め。今後新に這般地區の出現を極力防止することは賢明な策ではなからう乎。

三　新不良住宅地區の防遏

所謂不良住宅地區の絶滅を期せむと欲せば二種の方面から研究し。且つ實行に努めなくてはなるまい。何をか二種の方面と謂ふ。一は現行の不良住住地區改良法の命ずる所に遵ひ所謂改良施行を行ふと共に其の地區内に居住する者を敎化し指導し。其の放縱を縮め。其の素行を正し。其の生活を改むる等。部落風俗の一新を期するにあらむ。民風の改善は如何なる政治を以てするも百年の歲月を要すと謂ふ難中の難事に屬し。到底も一朝一夕に奏功を期することは可能まい。さり乍ら無得に自然に放任し置く譯にも行くまいから。努めてこの方針に向つて進行する。之れ又一つの方法たるを失はないであらう。他の一は前章に於て既に其の一端を述ぶるが如く斯かる部落的地區の發生を防ぐにある。然し不良住宅部落の發生は專ら過群雜居の生活に原因する。過群雜居の防遏は今後住宅地として開發せらるべき地域内に於て。建築制限を勵行する以外に之を求むべき良途はないであらう。

我市街地建築物法は。住居地域に於ける土地の建築に關し四割を下らない空地の留保を要求してゐる。この四割が住居地域に於ける空地として適當か如何かの問題は別個の研究に委せむも。既に法律を以て四割の空地留保を必須要件とする以上は所管官憲は勿論、土地所有者、建築主、建築師等は擧つて之が存置に努むるところあらねばならない。然も現に之が勵行せられあるかに付ては頗る疑なき能はない。聞說、某地方の地主等は初期の建築に當りては。型の如く四割以上の空地を留保し認可を得て一家を建築する。それが第二回目には曾て規定に依り留保した四割の空地のみを元地積がら分割して別成の一宅地と爲し。剩さへ巧に賣買、讓渡の形式に於

て所有者の名義を變更し。その新宅地に付き單に四割の空地を殘して第二回目の新建築を爲す。而して其の建築成るの後再たび、三たび同一の手段に依り空地のみを分割。別年として叙上の行爲を繰反し。空地に建築の充實するを見なければ止まないと謂ふ。かくの如きを認容するに於ては第一回の建築當時に留保した四割の空地。すなはち總地積一千分の四百に當る土地は三回目に至り遞減して一千分の六十四と爲り。更に第四回目に至れば一千分の二十五六。即ち千坪に付僅に二十五坪餘の空地を殘すに過ぎないことゝなる。斯くて空地留保の良制度も其の實際に於て全く其の効果を喪失し。不良住宅地區發生の原因を惹起するのである。借問す建築に關する行政を管掌する機關は果して斯かる不正手段を防遏するに必要なる策ありや如何。

◇

法網を潜りて違法、不正を敢行するは必ずしも市街地建築物法に依る建築の場合のみではない。他の法制に對しては更により多くあるかも知れない。只之を制止し。之を防遏する手段方法の存否に因りて其の被害の範圍に廣狹があるのみだ而して市街地建築物法の場合は。かゝる行爲の整行が過群雜居の風を馴致し。不良住宅地區の播種となるから當局官憲は社會と共に惡風根絶に全力を注がなければなるまい。所謂之が防止策としては第一に地籍に關する制度を改善し。地籍に關する行政と建築に關する行政との聯絡統一を圖らなくてはならないのである。

想ふに明治、大正の二世は我文物制度の革新時代であつた事物の革新、制度の完備は擧げてこの二世の賜ものに外ならない。然るに地籍に關する制度のみは毫も改善進歩の跡なく死熱時代に取り落されたる觀あるは夙に識者の遺憾とする所である。勿論時代の要求に依り。土地の農業上の利用を增進する爲に行ふ耕地整理の制度は出來た。市街地に於ける土地の改善としての利用を增進する爲に行ふ土地區劃整理の法制は不完全ながら出現した。その他森林法の制定と謂ひ。公有水面埋立法の發布と謂ひ。土地收用法の施行等々々と斯務に關する法制は積むで山を爲すの多きを見る。然も地籍に關する行政事務を總括的に統一する機關もなければ法律もない。或は地租條例を以て地籍統轄の法律となし。土地臺帳を以て地籍臺帳と主張する論者もある。さり乍ら地租條例と土地臺帳規則に依りて地籍を紊亂し。收拾不能の現狀に導きたる過去の歷史に顧み誰が斯かる主張に首肯する者あらむ哉。蓋し思はざるの甚しきであらう。

◇

由來土地臺帳は地租徵收を目標に調製した公簿であつて。地籍の整理、維持を目的とした地籍臺帳ではない。地租は所有者又は何々として土地臺帳に登錄した起名者より徵收すると定めた地租條例の正文から見ても地租の賦課、徵收原簿なることが判明る。現に無租地が有租地となれば登錄し。有租地が無租地となれば土地臺帳から削除する。すなはち有りと有らゆる土地の全部を登錄するのでなく。有租地のみを登錄した帳簿だ。加之に之に登錄する事項は悉く地租の賦課、徵收に必要な範圍に限られ。他に及ぶことを許されない。而し

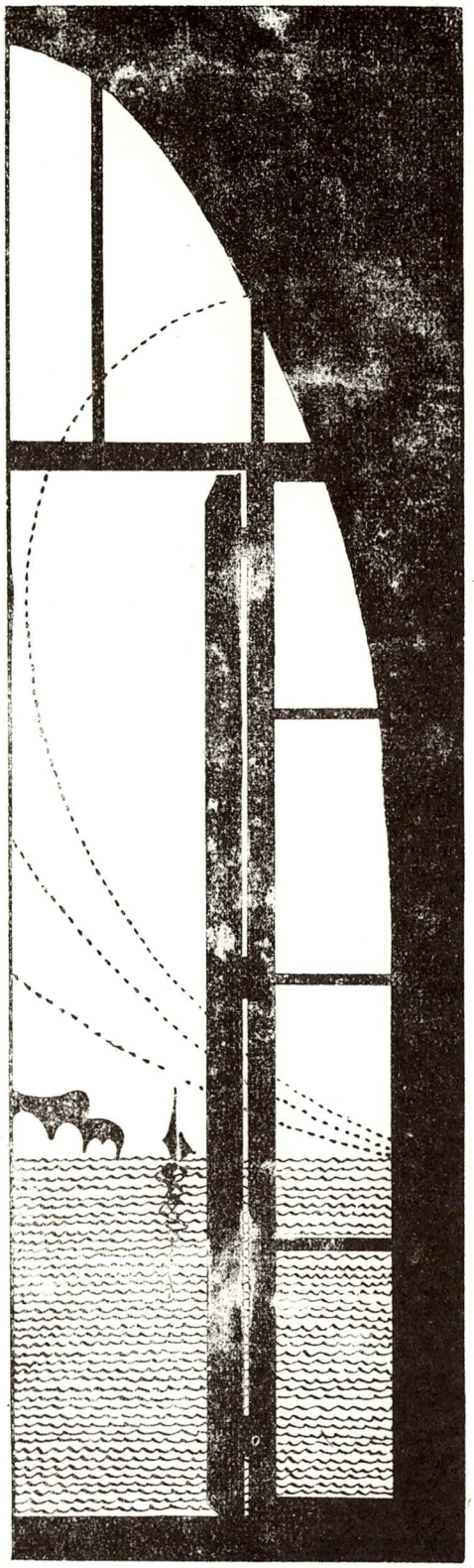
て其の記名者は租稅を納付する義務は負擔するも。第三者に對抗可能る權利者ではない。然るにも拘らず土地臺帳すなはち地籍臺帳などゝ主張する徒の如きは眞に世間を愚にするの極ではあるまい乎。若し假りに地租條例が地籍法であり。土地臺帳が所謂地籍臺帳であつたとしても。これ等は地籍の整理及維持に關する行政に秩序あらしむべく統一を期する制度では斷じてない。原始的形狀を其の儘の土地は兎も角。既に耕地整理法、土地區劃整理に關する規定等。新なる法制に據りて區劃形質を整理改良した土地に對してすら分裂、併合が勝手に行はれ。殆ど整理後の形狀を遺さざるまでに破壞せらるゝも之を防ぐことは不可能ではない乎。

◇

土地の分合を絶對に禁止し。開拓當時の形狀を萬古末代まで存置すべしとするは。社會上將た經濟上素より忍び能はざる所であらう。土地の面積に何等の制限なく。其の形狀に一定の規畫なく。其の用途亦自由なるに於ては或る程度まで所有者等の自由處分に任するの必要は之を首肯するに躊躇する所以でない。然も新なる法令の適用に依り莫大な費用と、時日と、勞力とを消費し。法定の用途に從ひ。一定の規畫に準據し。利用上聊かの支障なからしむべく分合交換を敢行せる土地。すなはち耕地若は宅地として使用すべく。區劃、形質の整理せられたる土地に對しては。併合は强ち之を謂はず。最小區劃以下の面積、形狀に分裂を許すべき筋合ではあるまい。然るに現行の地租條例や、土地臺帳規則は斯かる行爲に對し。何等制限を加ふべき規定を缺くが故に。土地所有者等は單に一片の申告を以て自由に之を行ひ得るである。

顧みれば都市計畫事業は大小の都市を通じて普遍的に行はれつゝある。所謂都市計畫は都市の交通、衛生、保安及經濟に關し。永久に亘り公共の福利を增進する所以なれば。之が施行する以上、今後新に不良住宅地區の出現する如きことは萬々ないであらう。さり乍ら現存の要改良住宅地區の如きも最初より不良化する目論見を以て建築した所以ならざることは既に述ぶる通りである。然も之が不良化せる所以は要するに過群、雜居を制限すべき制度上の缺陷に歸せざるを得ない今や過群生活を防遏すべく都市計畫法があり。地域制度を行ひ。都市建築物に一定の秩序あらしむべく市街地建築物法が施行せらる。不良住宅地區出現の如きは亦意に介するの要なき觀はある。然れども地籍に關する行政と。建築に關する行政とが其の統轄機關を異にし、相互に連絡を缺き。加ふるに土地の分合が自由に行はるゝ現制を以てする。この狀態に於て未だ樂觀を許さざる點なきを得ない。かゝる制度上の缺陷は獨り都市不良住宅地區出現に便するのみならず。都鄙を通じて產業上に影響する所尠からぬであらう。須らく地籍の整理維持に關する法制を確立し。之が施行は町村に在りては農林行政機關に。都市にありては建築行政と共に都市の行政機關に其の權限を附與するの擧に出づべきである。かくの如くして土地、就中建築敷地の分合に付き凱勁な制限を設け。嚴正に勵行せしむるに於て今後新に所謂不良住宅地區の出現を防遏し得らるゝであらう。否、既存の不良住宅地區に施設を加ふる以上の急務は寧ろこの方面の改善ではあるまい乎。

（昭和二年七月十八日稿）



工業地域内特別地區のこと

═呪ふべき都市の煤煙よ═
═斯して都人の健康を計れ═

會員　加藤善吉

一はしがき

あつい、あつい、この眞夏に斯くの如き題を持ち出して今更こと新らしく述べるのは一層のむしあつさを加へるやうで甚だ相濟まない次第であるが、先般の本協會の例會に大阪に於けるこの工業地域内特別地區の指定促進に關して議題となつたので種々の議論があることを期待したのであるが餘り一般に直接關係がないので本地區の性質を了解せられない方も

あつたやうであるから茲にくだけてその大要を述べさして貰ひ參考に供したいと思ふのである。

二　特別地區とは

吾々が毎日の都市生活で一番いやな氣分を漂ふものは工場より發する煤煙と惡臭である、殊に大阪は煙の都として自他共に許してゐる大都市である、この煙の都に働らく吾々が毎日阪急電車に身をまかして大阪に近づくと新淀川邊より大阪の天地は濛々たる煤煙で覆はれてゐるのを見る、これは一面工業の隆盛を物語り工場の煙突より出づる煤煙の濛々たる光景は壯觀とも言ひ得るであらうが、吾々にはその不愉快さ加減たらない、而し吾々は既にその渦中に投じて久しい、ために痲痺してゐるが尚それである。ましてや大阪驛に下車した人の始めての印象やおして知るべきである、かく言ふわたくしも始めての印象は今もなほ腦裡にこびりついて居つて到底ぬけそうでもない、人間の直觀の印象と云ふものは僞はらざるものである、宗教では人間の意識にのぼつたら宗教でないと云ふがそれ程始めての印象と云ふものは大切である。であるから何等かの方法に依つてこの不快な狀態を除去し或は減少しなければならぬ。

◇

勿論煤煙は工場よりのみではない近代高層建築物の增加に伴つて其の煖房用の煙突より發する煤煙もその一部をなしてゐる否中樞地に於けるそれは寧ろこの方が多いであらう、これがために煙の點から言へば商業地域も宛然冬期は工業地域と化するの狀態を現出する、將來益々高層建築物の增加甚だしきものあるは自明の理であるから是非とも煤煙防止に對しては策を講せねばならないのである。大阪に於ては既に府市當局と其他の識者間に煤煙防止調査會と云ふやうなものが企られ調査研究に着手せられたやうであるがこれは時宜の處置として誠に結構なことである。然しこれは只單に煤煙のみであるが之れに反して工場は大體を通じて惡瓦斯惡臭を伴ふものであるから一層始末が惡い、前者はその煖房をして電化し或は瓦斯化するに於ては防止することも必ずしも不可能でなからうがこれとても經濟上果して可能なるや否や疑はざるを得ない、後者は種々な保安上の危險と衛生上の有害を伴ふものであるから之れを豫防し或は其の危險有害を減少するのは工場を一定のところに集めてその弊害を都市全體に及ぼさしめないやうにする外に途はない、かくすることに依つて工業政策上の利便を得、危險有害を除去し延いて工業の能率を增進し得るのである、之れが即ち我が市街地建築物法に認められた地域の制度である。

◇

大阪に於ては市街地建築物法に基いて大正十四年七月に住居地域、商業地域、工業地域が指定せられ今や着々として實施せられてゐることは既に熟知せらるゝところであるが未だ工業地域内特別地區は指定されてない。地域に關しては既に種々の雜誌に散見し且つわたくしも雜誌「建築世界」紙上を驅りて大正十四年一月より約一ヶ年の間毎月號に連載し述べつくしてゐるから述べないが之等三種の地域の内で工業地域の

中でも工場の性質、事業の内容に依つては保安上危險又は衞生上有害の程度の高いものがある、これ等は同じ工業地域内に於てもその程度の低いものと同じにして置くことは宜しくないので別に地區を定めて更に一箇所に集めて危險有害の及ぶ範圍を限定する趣旨より出たものが即ちこの特別地區の制度である。本地區も一種の地域であるが只我が市街地建築物法は之れを地區と名づけ獨立した地域名を與へずして工業地域内特別地區としたのであるが、米國に於ける都市は同じ工業地域であつてもこれを二三種に區別し工業の性質に依つて分ちてゐる、例せば「クリーブランド」市の如きはこれを大工業地域、半特殊工業地域、特殊工業地域の三地域に分類し又シカゴ市に於ては工業地域を三別して第一グローブ、第二グローブ、第三グローブとしてあるが如きそれである。即ち我が市街地建築地建築物法の立前から地區と稱するのであるが一種の用途であることは明かである。

◇

同法第四條に於て

第四條　工場、倉庫其ノ他之ニ準スヘキ建築物ニシテ規模大ナルモノ又ハ衞生上有害若ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノハ工業地域内ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ建築物ニシテ著シク衞生上有害又ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノニ付テハ工業地域内ニ於テ其ノ建築ニ付特別地區ヲ指定スルコトヲ得

とあるこの第二項の規定に依つて大正十二年七月二十八日内務省令第二十三號「市街地建築物法第四條ノ規定ニ依ル工業地域内特別地區規則」が出てこの地區内でなければ建築することの出來ない建物の種類を擧げてある。

三　特別地區内に限り許された建築は

大阪のやうに未だ工業地域内特別地區の指定のないところでは工業地域内であればどんな建築も許されるのであるが若しこの特別地區が指定されると規則の定むるところに依つてこの地區でなければ或る特別の有害危險の著しいものは建築することが出來なくなる、即ちこれは工業地域内に限り許される建築物の内でまた特に有害危險の著しいものをしてこの地區に限りその建築を許すのである。今この地區内でなければ建築することの出來ないものを擧げれば（例外あり）

一銃砲火藥類取締法施行規則の火藥庫

二左に揭ぐる事業を營む工場

（イ）銃砲火藥類取締法の火藥類の製造但し銃砲火藥類取締法施行規則第四十四條第二項の火工品を除く

（ロ）硝化纖維法、「セルロイド」、鹽素酸鹽類、過鹽素酸鹽類、「ピクリン」酸、「ピクリン」酸鹽類、黃燐、過酸化「カリウム」、過酸化「ナトリウム」、硫化炭素、「エーテル」、「アセトン」、「ベンゾール」、「キシロール」、「トルオール」又は、「テレピン」油の製造

（ハ）石油類、鹽化硫黃、硫酸、硝酸、弗化水素、「クロ

ール」、石灰、「チアン」化合物、砒素化合物、水銀化合物、亞硫酸鹽類及動物質肥料の製造並動物質原料の化製

三前各號に掲くるものを除くの外地方長官著しく保安上危險又は衞生上有害の虞ありと認め命令を以て指定する物品の製造、貯藏又は處理に供するもの

であるがこの特別地區を更に二種に別ち甲種特別地區と乙種特別地區としてある。

即ち

一甲種特別地區は保安上危險の程度著しく強いもの即ち爆發性、引火性の物品の製造、貯藏又は處理に供する建築物の用途に對する指定であつて、此の地區内に限り許される建築物を擧げれば

一前記第一號又は第二號(イ)若は(ロ)に該當するもの

以上の外地方長官が著しく保安上危險の虞ありと認め命令を以て指定する物品の製造、貯藏又は處理に供するものはこの甲種特別地區内に限り建築を許されるのである。而し大阪ではまだこの指定はない。

二乙種特別地區は衞生上有害の程度の著しく強いもの即ち有臭有毒な物品の製造、貯藏又は處理に供する建築物の建築はこの乙種特別地區に限り許される。即ち

一前記第二號(ハ)に該當するもの

以上の外地方長官が著しく衞生上有害の虞ありと認め命令を以て指定する物品の製造、貯藏又は處理に供するものはこの地區内でなければ許されない。

而し大阪ではまだこの命令による指定はない。

以上のやうに分れて居るが若し一つの工場で甲乙兩種の特別地區内に指定された物品の製造貯藏又は處理をなすやうな場合は地方長官がその建築すべき地區を指定することになつて居る筈である。

尙ほ建築物の高さ、敷地内に存すべき空地、居室の採光等に就ては特に制限がないのであるから、工業地域一般の制限を受け又現在のこの種建築物に對する處置等も一般の地域の受けるものと同樣であることは勿論である。

四　米國都市に於けるこの種の分類は

米國の都市に於ては我が國の地域制のやうに工業地域が一種でなく二三の種類に分たれてある、即ち我が國に於ける工業地域内特別地區を認めて其の危險有害の程度に依つて之れを分ちたやうに米國に於てはこれを明かに地域として分ちてある今左に一二の都市の分類を掲げれば

一クリウブランド市

本市は工業地域を左の三種に分ちてある、即ち

一大工業地域―この地域に於ては有害工業を除く凡ゆる大工業を網羅するものであつて尙住居地域、商業地域内に許されるものは勿論許される、而してこの地域は交通運輸の便利な位置に於ては益々發達する性質のものである。

二半特殊工業地域―この地域に許されるものは汽罐工場鐵工場又は廢鐵工場であつて之等は普通必ず騷音、煤煙又は臭氣を放つものであるから千二百呎の距離にま

で其の影響を及ぼすために他の工業と隔れなければならない。

三特殊工業地域―この地域は遠距離にまで害毒を及ぼすところの工業を指定する地域であつて即ち皮革工場、膠工場、家畜置場、屠殺場、セメント工場等の類を抱容するところの地域である故にこの地域は市域より遙かに距つたところに置く。

二「シカゴ」市

本市に於ては工業地域に於ける用途を第三種に分ちてある。

第一用途――これは工業地域内何れの部分にも許される

第二用途――これは住居及アパアトメント地域に四百呎以上を隔てなければならぬ、即ちこの用途は特別の種類、塵埃、瓦斯、煤煙、火氣及臭氣の發生する工業動作を含むもの

第三用途――これは住宅地域及アパアトメント地域まで二千呎の距離を置かねばならぬ而してこの用途は膠、セメント及製粉工業、石油精製、製革其の他これに類する製造工業の有害動作を含む。

五　地區指定の調査と方針

前既に述べたやうに特別地區は立派な地域であるから其の指定に當つては地域の指定と同じく十分の調査と研究を要するは勿論である。又これは必ず指定せねばならぬと云ふ譯でないが指定に際しては甲乙の區別せざる特別地區を指定すべきや或は甲種特別地區のみか乙種特別地區のみに依るか、若くは甲乙兩種の特別地區を指定すべきやを決定せねばならぬこれは指定すべき都市の狀況に因ることであるが、これが決定すれば更にその位置の選定に當つても之れ又愼重な考察を要する。即ち特別地區の種類の決定に就ては其の都市に於ける工業地域内に非れば建築することの出來ない工場中より特別地域内にのみ許されるものを再別して調査し之等を基礎として種々な條件の本に周到な考察を廻らして決定し、その位置の選定は土地發達の現狀及沿革、地勢、天象、水陸運輸機關の狀態、又は之等工場に從事する從業員の住居問題等を考慮せねばならぬ。

只之れを著しく危險有害なりとして距離病舍のやうな考の下に置くわけには行かない、換言すれば特別地區と雖も偏く鐵道水運並に幹線道路の連絡を採ると共に日常生活上の便宜を備へ且つ相當の娯樂休養の設備をなし出來得れば健康的な住居地域との連絡を圖つて從業員の健康上遺憾なきやう勉めることが必要である。

位置の選定に當つては特に風向及地勢を考慮して決定を圖らねばならぬ、又特別地區の敷地面積等に關しては特別地區にのみ許さるべき現在の工場敷地面積を基準として將來のこの種工場の增加の趨勢、將來の發展の狀態を洞察してその數及敷地面積を定めねばならぬ。元よりこれの推定は至難の問題であるが參考として出來る限りの講究を要する。

六　東京に於ける指定の例

今東京に於ける例を見るに指定當時に於ける東京府下に於て甲種特別地區に限定せられるものは其の數七十二其の敷地

面積の總計六〇、〇〇〇坪、乙種特別地に限定されるものは其數二百三十四、その敷地面積の總計二九〇、〇〇〇坪である、而して將來これが各二倍乃至三倍に達するものとの豫想の下に指定されてゐる。

位置に關しては東京の工業地域は南北の二團地に分たれ即ち北部の一團地は隅田川以東放水路に至る江東の地と其の北方之れに連絡する舊荒川流域一體の平野とを合せた一圓の土地と、南部の一團地は大崎、品川に於ける目黒川下流の流域と大井、大森方面に於ける海岸一帶の低地並に芝浦埋立地の一部である。この如き工業地域に於て特別地區は甲種を市の北郊志村と東郊葛西村東半部の二團地を擇び乙種は市の東郊砂村、小松川町及葛西村西半部の三團地に擇ばれたのである東京は其位置宜しきを得て居る。

七　大阪に於ける狀態

大阪に於ては工業地域内特別地區の指定は地域の指定と同時に行はずして暫らく保留してあるかたちである。大阪に於ては他の都市と其の狀態が大に趣を異にし南に堺市を控へて居るので本地區の指定に關しても之れを閑却する譯に行くまい。而して大阪に於ける工業地域の配置を見るに四團地に分れて居る即ち北方の一團地は神崎川の沿岸一帶の平野であつて他の三團地は寢屋川沿岸の下の辻放出から國有鐵道城東線に至る一帶の地、元城北村の西部から澱川を超えて中津川沿岸を經て安治川下流の沿岸に連る一帶の低地及大阪灣に面する尻無川、木津川下流の流域一圓の地である。

◇

以上のやうな工業地域の配置を大觀して大阪に於ける特別地區はどの方面に擇ぶべきや。東京の工業地域は二團地に劃然と分れ從つて特別地區の指定に當つてもその位置の撰定に左程の困難を感じないであらうと思ふが、大阪は商工業都市として亂雜なる發達をなし來つた關係上工業地域の指定に當つても幾分現狀を尊重する意味に於てこれに捕はれたのではないが四團地に分れて指定されてある。勿論地勢の然らしむる處でもあるが斯の如き分布にあるので其の位置の撰定上幾多の苦心を要することであらうと思はれる。都市計畫大阪地方委員會に於ては既に特別地區内に非れば建築することの出來ない種類のものゝ調査は勿論其他本指定に必要な種々な基本調査も完了してある筈である。

而して堺市も大正十五年十月から市街地建築物法の適用を受けて居るので之れに伴つて地域も近く指定を見ることであらうから茲に於て始めて大阪に於ても愈工業地域内特別地區の指定をなし著しく危險有害なるものを集團せしむるを必要とすると云ふことになれば（勿論必要であることは異論はなからうが）早晩其の指定を見ることであらうと思ふ。この工業地域内特別地區の指定はその市民に直接影響するところのものは或範圍に限られるであらうが、これとても地域指定當時と同樣御互が市民として其の位置其の種類等に就て深き注意を拂ふべき問題であらふと思ふ。

（二、七、一八稿）



都市と住宅問題（堺市に就て）

堺市都市計畫部
總務課長　磯村遠

私は日本建築協會の御依頼に依りまして都市と住宅問題に就て（堺市に於ける）極めて簡單に卑見を述べて見たいと思ひます。

但し御斷りして置かなければならない事があります、それは日本建築協會より十九日の午前十時頃に電話がかゝつて廿二日が締切だから其積りで出して貰ひたいと云ふ事でありまして日數が少いので詳しく述ぶる事が出來ませんので遺憾に存じますが、其邊は惡からず御諒察を願ひたいと思ひます。

扨、我國の人口問題につれて食糧問題の解決等も矢釜しい折柄、我堺市に於ても此狹隘なる土地に對して人口の集中する事亦甚しいのであります、今堺市の地勢は皆樣御承知の如く北は大和川と云ふ一つの川をへだてゝ日本の大商工業都市である大阪市に接し、東は反正、仁德の二大御陵を介して泉北郡に接し、南は大阪、堺の住宅地とも稱すべき濱寺町及神石村に接し、西は大阪灣に面して居ります、此堺市の總面積は〇、九八三方里（四、六〇七、七五六坪）であります。

之は現在の堺市の行政區域でありますが、此中で所謂堺舊市と云ふのは大居川を以て圍まれて居る面積〇、二五五方里（一、一九七、七六〇坪）であります、其他は所謂堺新市とも云ふべきものであつて大正九年の十月一日に泉北郡の向井町面積〇、三〇〇方里（一、三八三、八三五坪）と湊町面積〇、〇六六方里（三〇八、〇九九坪）を合併し、亞で大正十四年十月一日舳松村面積〇、一七四方里（八一一、五一四坪）大正十五年十月一日三室村面積〇、一九四方里（九〇六、五四八坪）これだけの新町村を合併し市域を擴張したのであります、それで此舊市と新市との人口の增加の比率を簡單にあげて見たいと思ひます、今大正九年十月一日當時と大正十四年十月一日の國勢調査を基準にして其增加を示しますと左の通りであります。

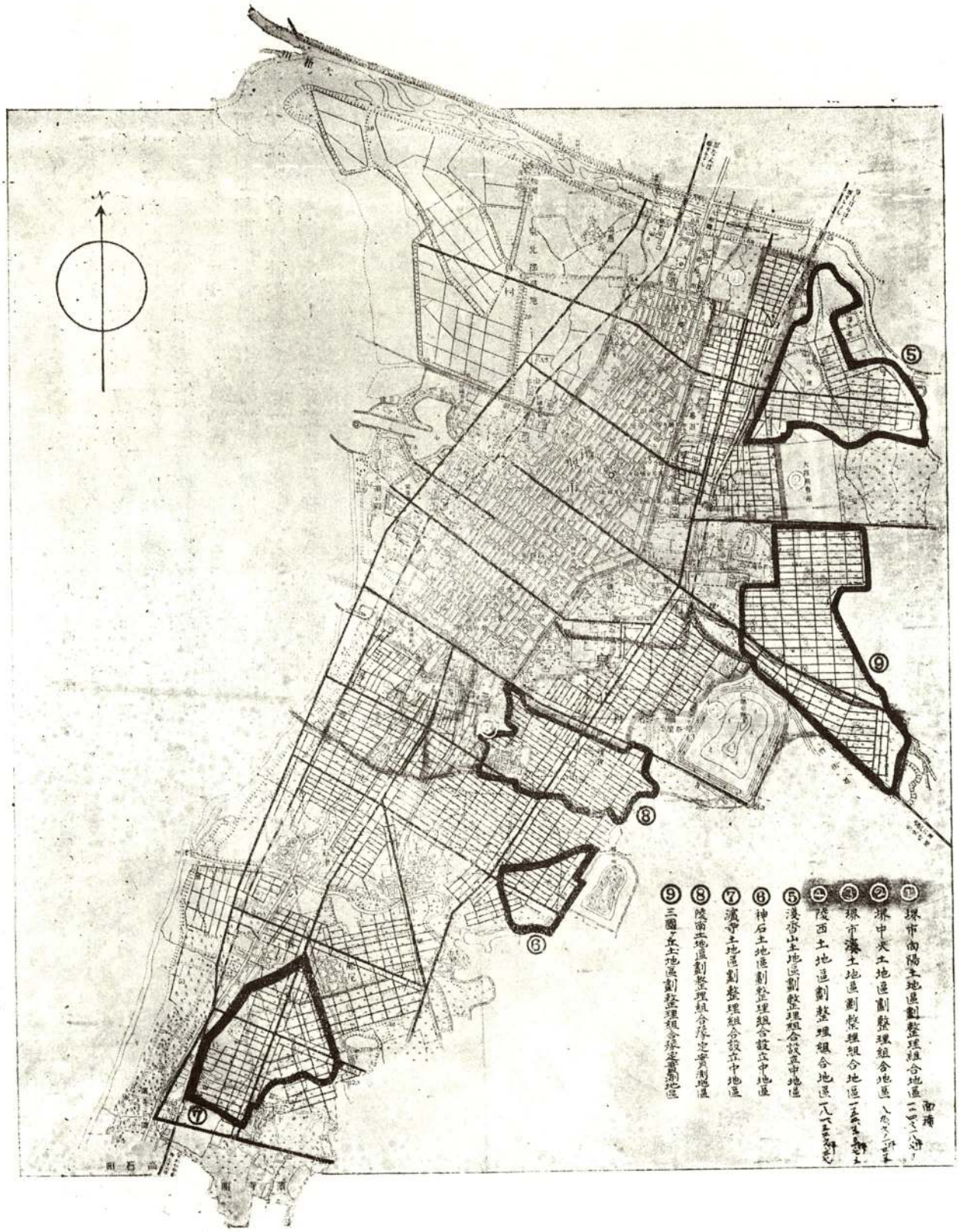
人口

	大正九年十月一日	大正十四年十月一日	百分比
堺舊市	六八、七一八	七〇、二五八	百人ニ對シ　二人
舊向井町	六、六七〇	一七、〇七六	百人ニ對シ一五六人
舊湊町	七、二九〇	九、五一〇	百人ニ對シ　三〇人
舊舳松村	四、六七六	六、一三一	百人ニ對シ　三一人
舊三室村	一、七一八	四、一六九	百人ニ對シ一四四人
計	八九、〇七二	一〇七、一四四	

右の表に示すが如く堺舊市としては五ヶ年間に百人に對し二人の增加と云ふ有樣で、所謂人口の飽和狀態に達し之以上の人口のあふれは即、舊向井町、舊湊町、舊三室村、舊舳松村に流れまして五ヶ年間に百人に對し百五十六乃至三十と云ふ驚くべき人口の增加を示して居るのであります。堺市としては此點に最も注意を加へ、都市計畫としては新市に對する計畫を先にし舊市を後にすると云ふ根本計畫を樹立致しました、處で新市に對する計畫は所謂區劃整理で進むと云ふ事に致しまして別紙圖面に示しました通り、大體新市の地勢、人情、慣習等を斟酌し且つ區劃整理の實行上最も經濟的にして且效果の多いと云ふ點から十萬坪乃至二十萬坪を限度として出來上つた土地區劃整埋組合が即ち向陽、中央、湊、陵西等でありまして、其他目下認可申請手續中のものもあります。今此向陽、中央、湊、陵西の面積を申しますと、向陽十二萬四千六百十八坪、中央八萬九千六百一坪、湊十五萬二千五百一坪、陵西十八萬一千五百三十六坪でありまして、是等の組合は殆んど近く工事の竣功を見んとして居ります、而も是等の組合地區は地域制の上から申しますと殆んど住居地域内でありまして道路は幅員最小三間、最大八間と云ふ事になつて居ります、「ブロック」の大さは短軸は二十間乃至二十四間、長軸は六十間乃至七十間と云ふ設計になつて居りまして、是等の區劃整理は殆んど立派に建築敷地が近く一二ヶ月の間に完成する事になつて居ります、勿論將來宅地としての利用を考へて居りますからして下水の問題、水道の問題等は總て考慮に入れて設計が出來上つて居るのであります。

右に述べた樣な有樣で、此土地區劃整埋の地區内に是から如何なる建築物を建築せしめるか或は建築するかと云ふ事が私の都市と住宅問題に關しまして述べんとする處でありまして吾々爲政者は勿論、本誌の讀者並日本建築協會の會員各位に於て一大考慮を煩したいのであります。

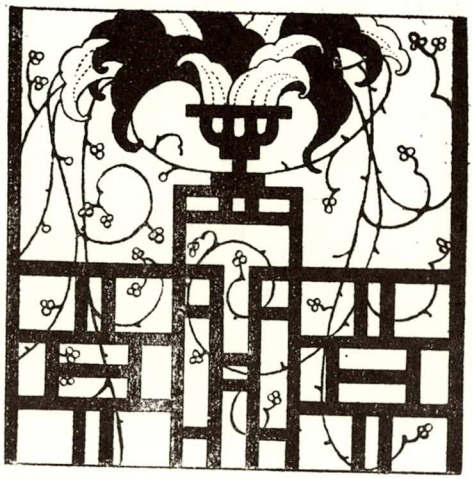
それは他でもありません、是等の土地區劃整理は地區内の各地主が一大犧牲を拂つて相當の經費を負擔し、市も亦之に伴ふ經費を支出して如何なる建築物が出來ても差支ない處の建築敷地を造成したのであります。處で飜つて我國の現狀を以てしては一般の（特殊なものを除く）地主は、此建築敷地に其都市に相應したる、又其經費に相當する建築の設計と云ふ點に至つては殆んど無智（過言かも知れないが）と云つてよい有樣で、又爲政者も此建築敷地を如何に利用せしめるかと云ふべきに就ては餘り注意が拂はれて居らない樣に思ひます。一例を申せば此建築敷地に對して昔から行はれつゝあります處の所謂建賣建築家屋、即ち至つて粗雜な長屋を建て建築敷地と建物との調和がとれないと云ふ有樣であります。又一方から云へば、地域制の上に於ては建築面積と敷地との空地關係は六對四の割合でありますが、之も只漫然と四割の土地を字の如く空地として置くと云ふ事は都市の土地の經濟的利用と云ふ點から考へても非常に不利益だと思ひます。之は要す


①堺市南陽土地區劃整理組合地區
②堺中央土地區劃整理組合地區
③堺市濱土地區劃整理組合地區
④陵西土地區劃整理組合地區
⑤浅香山土地區劃整理組合設立中地區
⑥神石土地區劃整理組合設立中地區
⑦濱寺土地區劃整理組合設立中地區
⑧陵南土地區劃整理組合設立予定地區
⑨三國ヶ丘土地區劃整理組合設立予定地區

るに地主が住宅と云ふものに對する智識の欠乏から低級なる建築請負業者等にのみに信頼し、つまり此土地に對し只適當な家屋を設計して貰ひたいと云ふ位の程度の人が大多數を占むる結果ではないかと思はれます。そこで私は、日本建築協會或は其他の團體に於て各都市相應の住宅の模範設計、懸賞募集或は住宅展覽會、若くは土地區劃整理地區内の各地元を集めて其方面の即ち都市の實質的の土地の經濟的利用と云ふ智識を普及する講演會等諸計畫を樹てゝ其方面に是等の人々を誘導すると云ふ事が爲政者としても亦建築事務に從事せらるゝ協會各位としても緊要な事で、之等に對する御努力が所謂都市百年の大計の基礎をなす所以のものではなからうかと思ひ、茲に卑見を述べて各位の御留意を乞ひたいのであります

一寸御斷する事は建築に對して經費を增加せしむると云ふ事の意見でないと云ふ事を附加して置きたいと思ひます、それは從來の建築にしても例へば一戸に對し參千圓とするものなれば其參千圓に對し從來の方式をすて文化生活其他を加味したる設計でやつて貰ひたいと云ふ意味であります。

（完）



ガルテン、コロニーに就て

大屋靈城

都市の住宅問題に就て何か書けとの相談をうけましたが何分暑いのでペンと頭との聯絡がうまくとれません爲に出來上つたものが却つて江湖の頭痛の種を蒔く樣なことに成つても と思ひ議論を抜きにして茲に六月號に「自由空地を加味した都市計畫」と題して少し都市問題に對する意見を述べました際に「獨乙のシュレーベル、コロニー」(Schreber Garten Kolonie)を都市の下層階級の住宅樣式に加味する事はどんなものだろうかと云ふ事を記しました。今回はそのシュレーベル氏の考案に成るコロニーに就て少し述べて見ましょう。

一 スラムの改善

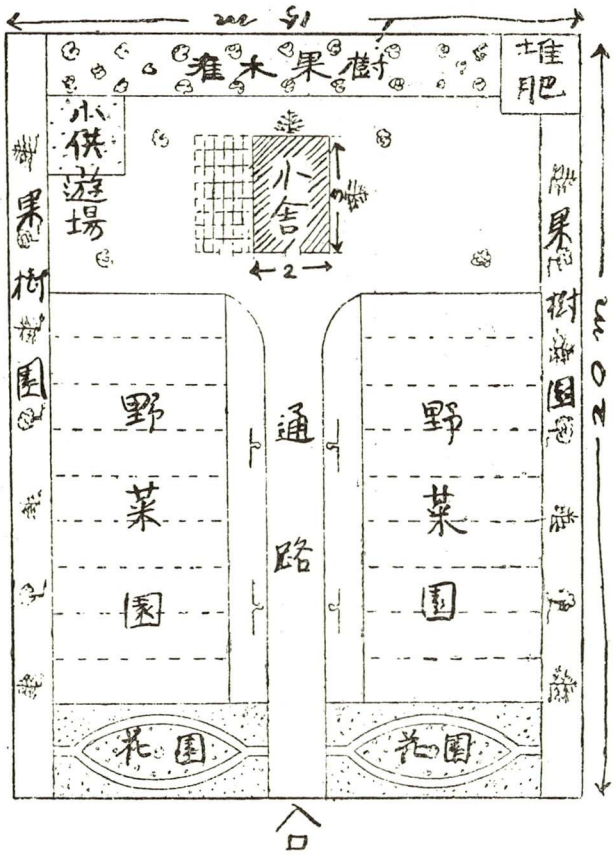
都市改良の最も重大な使命はこのスラムの改善にある。スラムは獨り其自身が非衛生的であり「惡をなすに易き」場所と成り易い地區であるのみならず、都市全體の病患である。衛生上から云つてもあらゆる傳染病は多くこのスラムに發生しスラムに培養されて都市全體に傳播する場合が多い。都市から非衛生地區が消滅する曉には傳染病は對岸の火事視してもよい位の輕い恐怖をしか市民に與へぬやうに成る。又道德上から視ても一番人間味を少なく持つ樣な殘忍性や社會の秩序を亂す樣な思想がこのスラムの中に最も多く培はれて居る中に最現代の社會を怨み現代の都市施設に反感を持つ者さへも見出すであらう。特にスラムに住む人々は土着心や愛鄉心と云ふ如き思想にうすく日夜食慾の滿足にのみ汲々たる有樣である。爲に敎育の程度も低く殊にライヒスと云ふ如き貧民窟特有の病氣に侵されて不完全な精神と體格の持ち主と成つて居る。この中に住む子供等は徹しくこの病氣に感染性が强いから忽ちにして畸形兒に成つてしまふのである。英國では久しい以前からこの病氣に就て深い研究が行はれ全く貧民窟特有の病氣である事を確かめて居る。而もこれは食物の關係から來るより環境の關係から來る病氣であると云ふ斷定をも

つきとめて居る。我國のスラムにはこのライヒスと云ふ如き病氣はないらしいがこれに類似のものがあると醫學者は云つて居る。

二　ガルテン、コロニー

スラムの非衛生的であるに比してこのガルテンコロニーの衛生的であることは申すまでもないが陽光線の潤澤なる供給と新鮮なる空氣の豊富なる交流によつてライヒスの如き病氣を未然に開ぐことが出來て而も土着心、愛鄉心を喚び起し健全なる思想を培うことの出來るものは全くこのガルテン、コロニーである。獨逸の諸都市を訪れた人は町はづれに無數に列んで居る豚小舍然たる小家屋が果物や蔬菜の畑の中に點々と隱見するのを見たに違ひない。これが即ちガルテン、コロニーである。時に百戸又は二百戸位一ケ所に群をなし時には三〇戸位のも見當る土地は多く三十年位の長期で割合に安い地代を以て借りて建てられたものであるがその期間内に買收したい者には賣つてもよいと云ふ如き契約も出來る。多くはラウベン、コロニー又はガルテン、コロニー等の名で呼ばれて居るがもとシユレーベル氏の考案になるものであるからこれをシユレーベルのガルテン、コロニー（Schreber Garten Kolonie）と稱するのである。

シュレーベルガルテンの一例

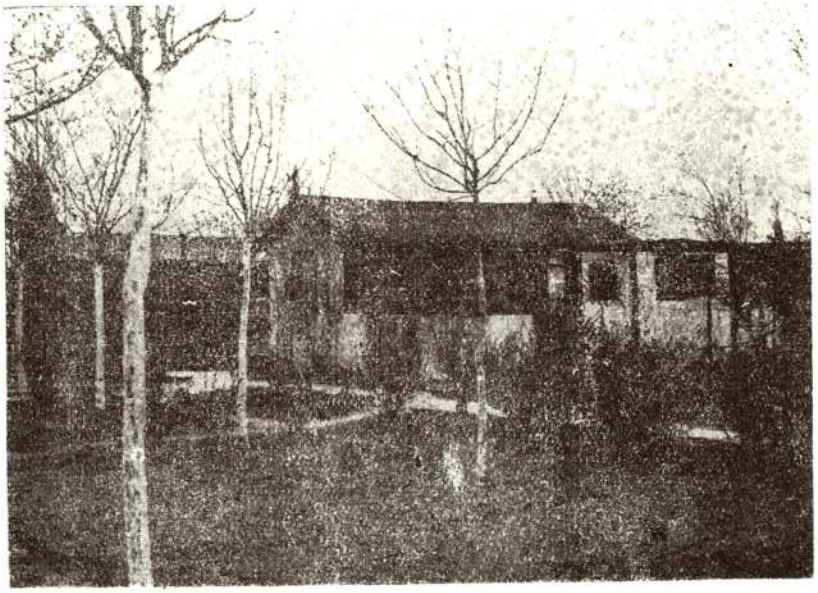


多くは一戸當りの宅地割を三〇〇―六〇〇平方米位の大さに區分してその大部分を畑と果樹園に設計し中央の奥の方に小さな小屋がある。これが即ちラウベ（Laube）であつて小舍と云ふ樣な意味のものであるラウベンコロニーと云ふ名もこれから出たものである。小さいものは2米×3米位のもので我國で云へば純然たる九尺二間の藁屋住まひに相當する。

この小舍の中にベッドと臺所があつて日中は成るべく戸外の畑で暮す樣にして屋内では生活せぬのである。畑は周圍に色々の果物の苗を植え中央は成るべく野菜園としてその間に點々と花畑をも混ぜて居る。隅の方には堆肥小舍や（日本で云へば糞壺）小供の遊び場が配され日のさす西方の窓ぎはに

は藤棚と云つた格の日蔭棚が作つてある。今代表的のプランを示せば圖の如くである。（前頁）

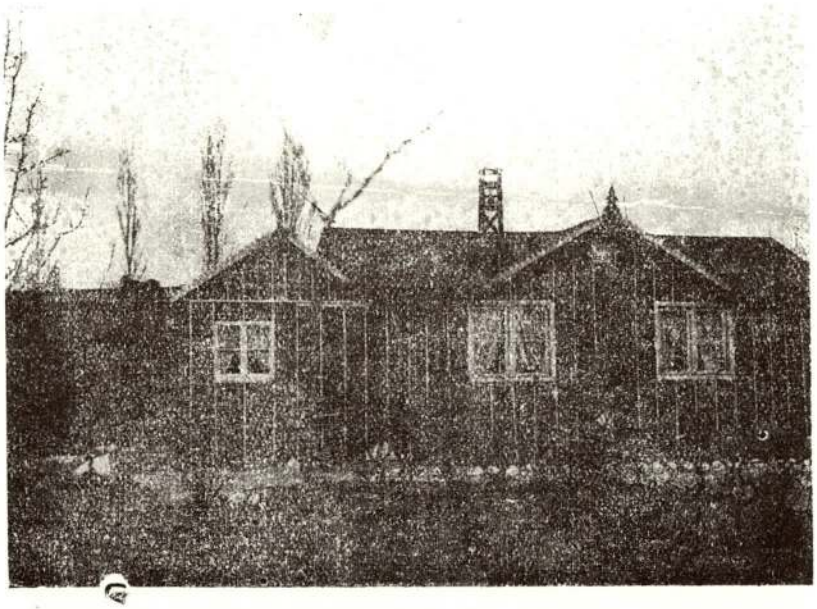
伯林郊外ブランケンフエルトにある（Blankenfeld）
シュレーベルガルテンコロニー　（一）



三　シュレーベル氏

このコロニーの發案者であるシュレーベル氏は一八〇八年十月十五日獨逸ライプチツヒに生れ一八六一年十一月十一日に死んだ人であるが最初國民衛生及國民體育と云ふ如き方面に活動した人である。教育者間には彼を「遊戯の父」として賞讃して居たが下層階級の婦人の改善と云ふ如き事にも大いに盡した人である。氏は一八三〇年頃より活動を開始したが主として都會に於ける下層住民の健全なる生活を指導すべき色々の社會事業に指を染めた。

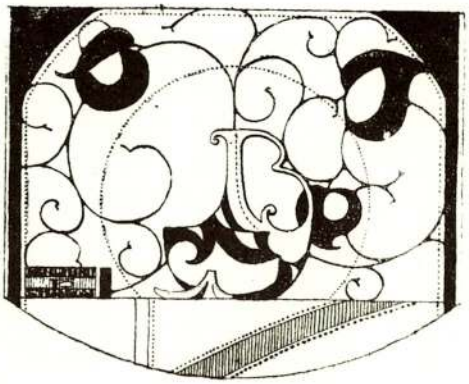
同　園内の小舍（Laube）　（二）



即ち下層民に健全な精神と健全な身體とを打ち込んで都市生活を眞に愉快なものにする爲にガルテン、コロニーを案出したのである。その後果樹園藝業者や蔬菜花卉の園藝團體が彼のこの趣旨を贊同して大いに助力した爲に各都市にこの種の組合が出來て今日では獨逸國のみでも數萬のシュレーベル式ガルテンを見出す事が出來る。この種のものは今日では獨逸のみならず白耳義、佛蘭西、端西、墺國等にも澤山の贊同者が出來て各都市の郊外に見受けるように成つて居る。

歐洲大戰後の兵士が一時職を失つて困つた時等もこのガルテンコロニーを彼等に供給して衣食の安定を與へ徐ろに職を得る事を可能ならしめ又彼等の家族に耕種養畜に對する趣味を惹き起さしめて土着の心を強め得たのである。職工の如きも工場の苦熱に一日の勤めを終つた夕方等熱心に植物の培養と云ふ如き無邪氣な娯樂に耽つて一日の疲勞を癒して居る。スラムに於ては絶對に得られぬ如き「人間の眞の樂しい生活がこの小舍に於て得らるゝ」と云つて居る如くこのガルテンコロニーは外見こそ貧相であるが内容は味はいあるものと言はれてゐる。

エベネツサハウワード氏の案出したガーテンシテーの思想が今日世界の都市住宅に大なる影響を及ぼして居る事を見ても將來このガルテン、コロニーの思想は相當に都市の住宅問題の中に考慮さるゝに至るであらう。（完）



アパートメントハウス建築の新傾向

會員　葛野壯一郎

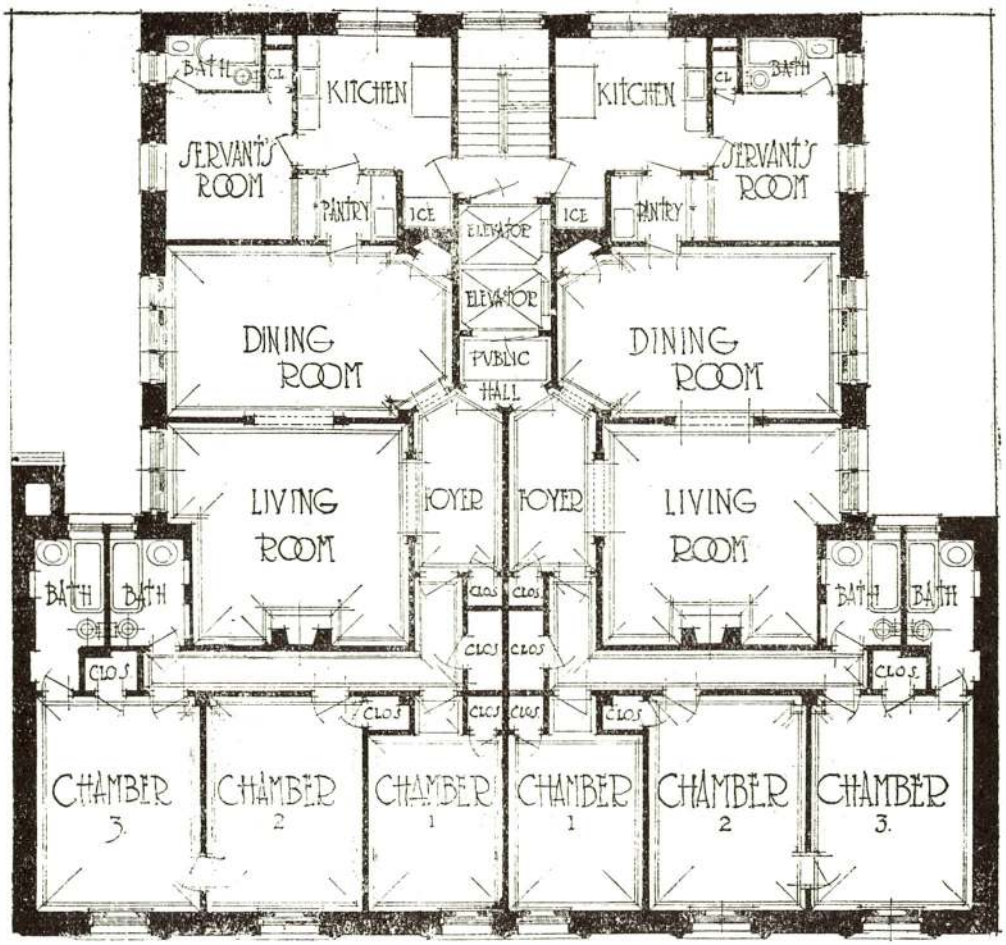
建築學會で編纂された建築語彙に依ると――アパートメント・ハウスを割貸家――フラットを平割住宅――と譯して居る、隨分難かしい譯字のやうに思はれるが、其の意味から云ふと、斯うでも云はなければ仕方が無いかも知れない、アパートメント・ハウスと云ふのは、互に隔離された幾組かの住宅が一つの建物に包含せられたものであつて、アパートメントと云ふ字義其のものは、幾つかの部屋か一組となつて、他から隔離された貸間、と云ふことである、之に反して、フラットと云ふのは、建物の各階にそれ〳〵違つた家族が住んで居る――即ち階に依て居住者を異にするのがフラットである、斯う云ふ意味から、アパートメント・ハウスの方を割貸家と譯し、フラットの方を平割住宅と譯されたものと考へる、而して今日ではどちらかと云ふと、アパートメント・ハウスと云ふのが殆ど總稱のやうになつて居て、フラットに屬するものも皆アパートメント・ハウス――アパートメント・ハウスと呼ばれて居るやうてある、恰度日本の棟割長屋のやうなものまでも矢張りアパートメント・ハウスと呼ばれた例を見受ける、我國でも特に斯やうな割貸家とか、平割住宅とか云ふ難かしい譯字で呼ばないで、今日では大體アパートメント・ハウスで通用して居るやうである。

◎

第一圖に示すものは、紐育に於けるアパートメント・ハウスの一例であるが、丁度一つの床に二組の家族が住んで居る譯であつて、中央から左右に仕切られて居る、此の例などは餘り大きくない最も普通のものである。

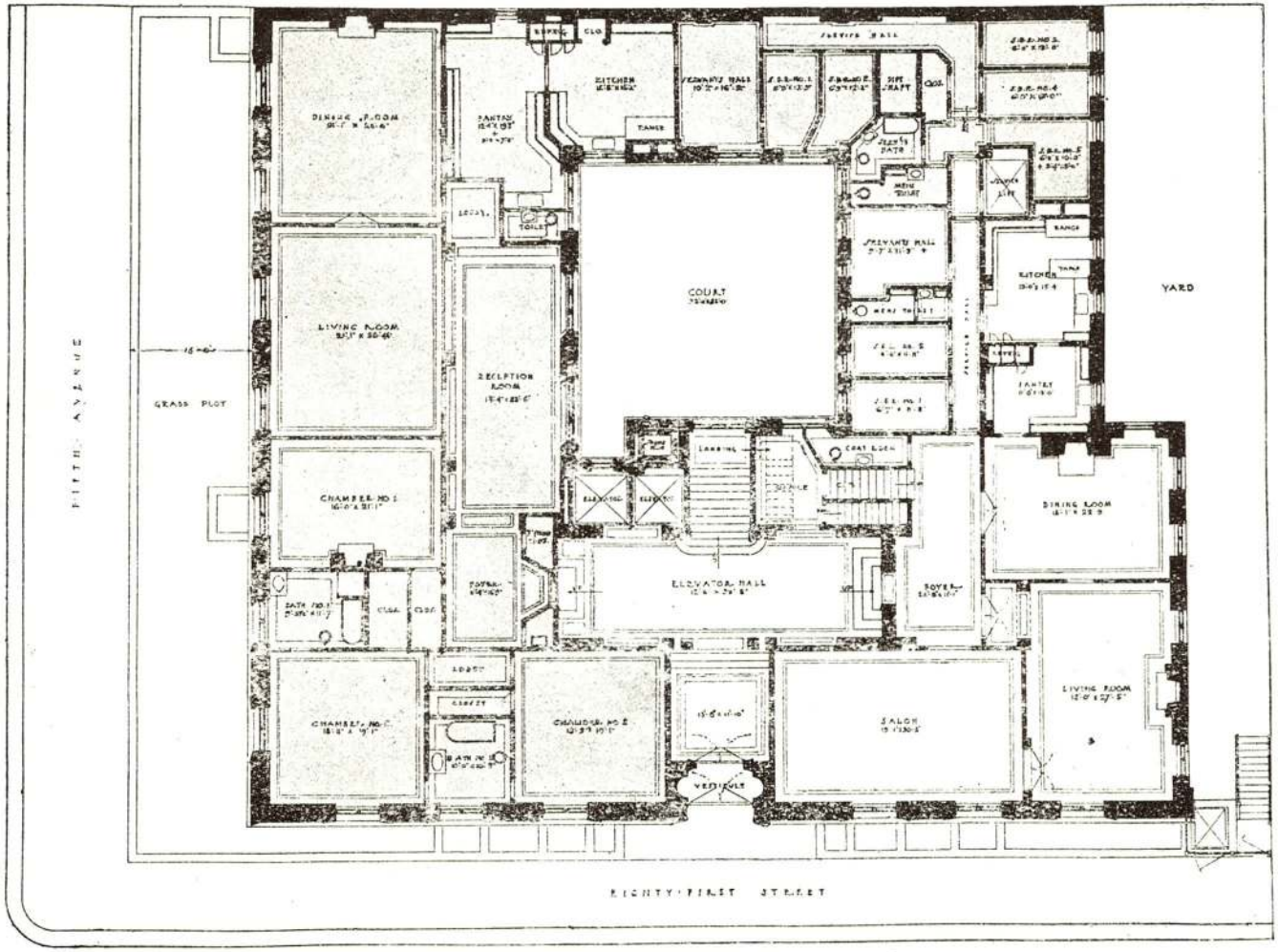
又アパートメント・ハウスの中でもデユーブレックス・アパートメント・ハウスと呼ばれるものがある、是は一組の住宅

第一圖



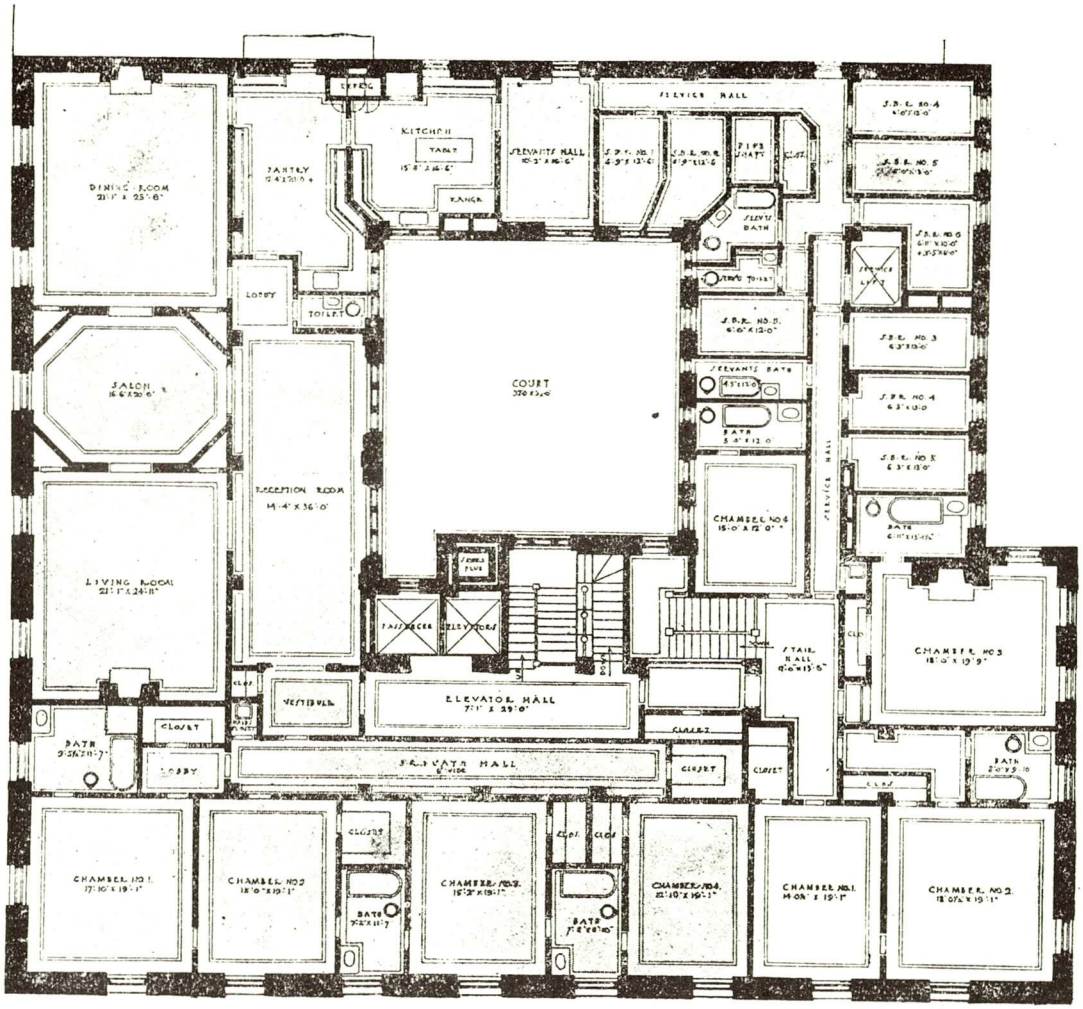
が一平面の床でなく、下の床と上の床とに跨つて設けられ、其家專用の階段まで附てゐて下の方の床には居間とか食堂とか臺所、其の他さう云ふ種類の間があり、上の方に屬する部分に寢室を設けて居る——第二圖甲乙に示すものは其の一例であつて、是も紐育に於ける一つのアパートメント・ハウスの代表的のものであるが、圖で見るやうに、少し色の掛かつた部分は、其の一つの階に寢室なり、居間、食堂のやうな、總てのものを含んでゐるが、白い部分の方には、一階だけでなく、下の階と重なり合つて、それで一軒の住宅を成してゐる譯である、即ち此の式に依ると、普通一階に二組の住宅があるとすれば、五階建ならば、十組の家がある譯であるが、是では二階で三組であるから、七組より住宅が無いことになる、此の例に依て見らるゝやうに、斯う云ふ種類のアパートメントと云ふものは普通日本人が日本で想像するやうな共同住宅と云ふ意味の貧弱な種類のものではなくして非常に澤山な部屋があり、又其の部屋は非常に大きくて、堂々たる立派な邸宅に相當するものである、贅澤なものになると、此の例ではないが、他の例に依ると、上の階にまで突拔けた立派にダンシング・ホールなどゝして使用されるやうな大きなホールまで備へて居

第　二　圖　（甲）



向廊建築の新傾向

第　二　圖　(乙)



る例なぞもある。

そこで少しくアパートメント・ハウスの建築に付て最近の傾向と云つたやうなものを二三擧げて見たいと思ふ。

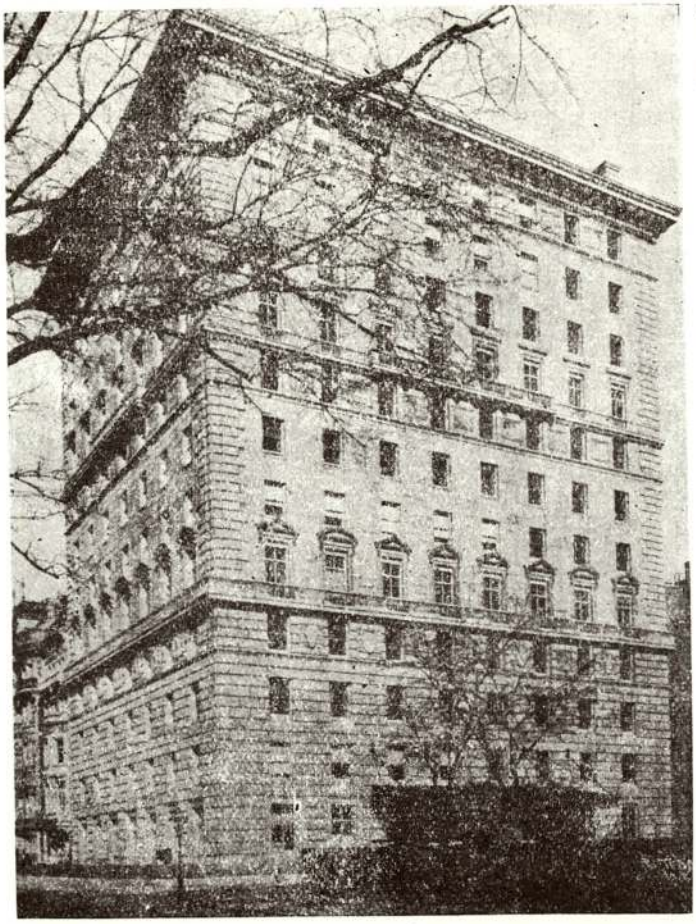
其の一はコッテーヂ・フラットと稱するものである、是は普通の長屋建風のコッテーヂが前述のやうなフラットのシステムになつておつて、階下の居住者と階上の居住者が全然異つて居る、一軒の家に二組の家族が住んで居る種類のものである、此の種類のアパートメントとしての最も面白い一例は加奈陀のオンタリオ州トロント市に經營されたものがそれである、是は丁度今から十年餘り以前の建築ではあるが、社會政策的の意味を豊富に有つた非常に面白いものである、日本の都市の住宅問題の解決に對する一資料として相當價値あるものと信ずる、殊に其の面白いのは、經營方法が市の保障と民間の住宅會社の努力とに依て、大變順當に、又理想的に運ばれたと云ふ點である、最初は住宅會社それ自身が單獨にやる積りであつたのが、市と

の交渉が成立ち、恰度斯う云ふ種類の住宅に關する法案の出來た當時であつたので、旁々そこに共同して仕事をして行く好いチャンスを與へられたのである、二三障礙はあつたやうだが、併しさう云ふ點も無事に解決が付て、一つの成功した計畫として、非常に面白いものである。

第一回の計畫には三十八戸の住宅を建て、其の中の三十二戸まではフラット式であつて二階と階下とが別の居住者で占められたもので、あとの六戸が一戸建一家族で占められた種類のものとなつて居る。

第二回目の計畫では百十八の住居が建てられた、是は總てコッテーヂ・フラットのシステムであるが、一棟の建築が二戸建乃至九戸建であつて、毎戸階下と階上と異つた家族の居住に充て、各自の地下室をば有つて居ることになつて居る、構造は煉瓦建であつて、セメント・ベースメントがあり、木製のヴエランダ及びバルコニーがあり、屋根はシングル葺である、各部屋の採光なり通風の充分なことは申すまでもなく、内部の仕上はジョージヤ・パインであつて、居室の部分は色着けをなし、其の他の部屋は木地其の儘の色である、而して床は堅木張となつて居る、先づ斯う云ふ程度のもので毎ブロックにヒーテイング・プラントがあつて、各戸は蒸氣暖房に依て暖めることになつて居り、又浴室や洗濯用の温水支給の設備が出來て居る、瓦斯電燈の設備、窓の日よけと云ふやうなものまで整へられ、臺所にはエナメルの掛かつた「ながし」と洗濯用のタップまで備へ付けられて居る。

第三圖

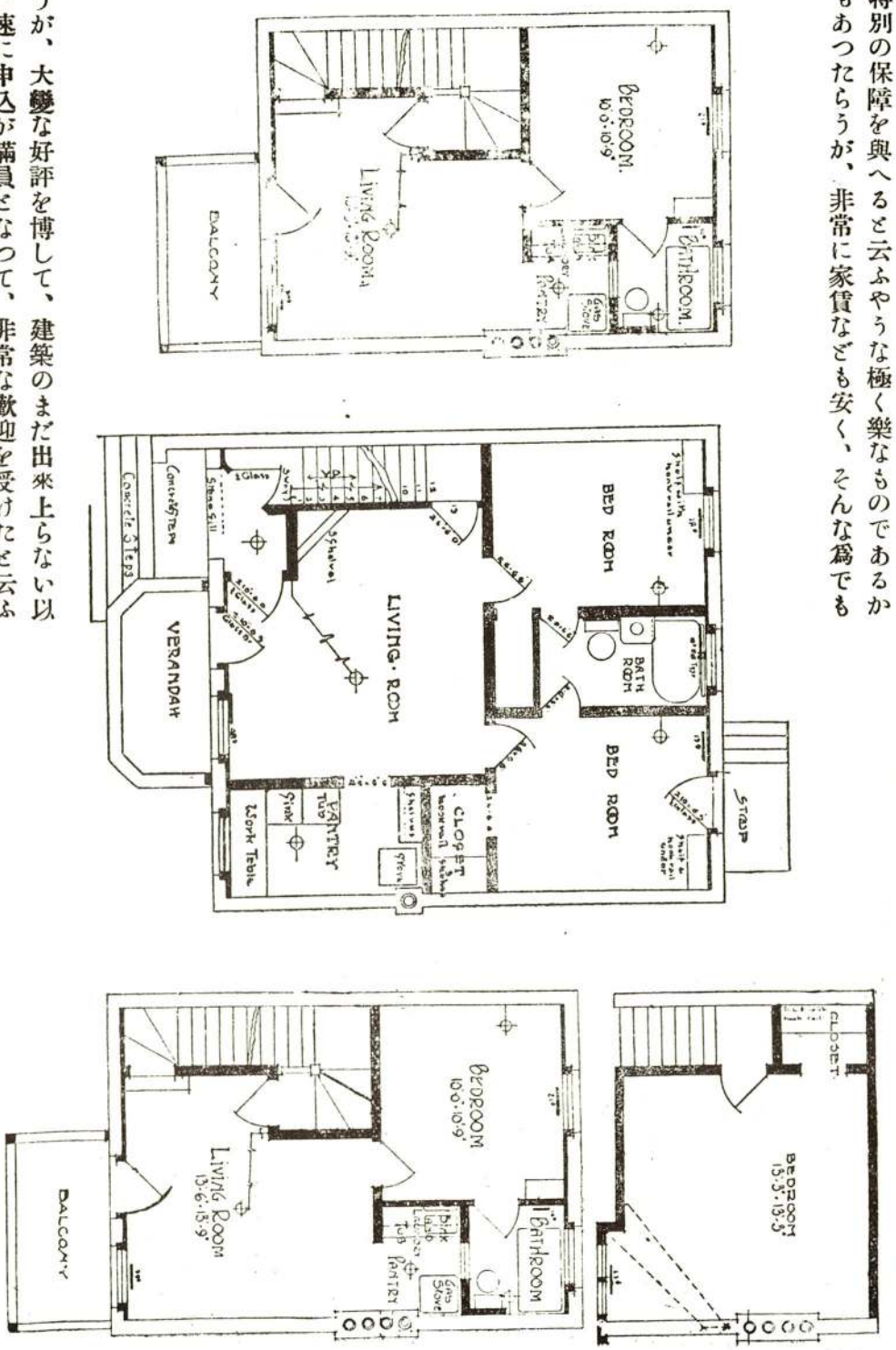


第四圖の甲と乙は此のコッテーヂ・フラットに於ける標準の間取を示すものである、一番小さなものでも、廣やかな一個の居間、小さなパントリー・キッチエン・一個のバスルームを備へて居る次のものは寢室が二つになつてゐて、臺所も稍々大きくなつて居る、二階の部分に屬するもので、寢室を屋根裏に取つたものもある、詰り寢室が三個になつて居る。

建築も總てその土地の勞働者向として經營されたもので、

會社それ自身も營利の見地から離れて經營して居る、併しながら特別の保障を與へると云ふやうな極く樂なものであるからでもあつたらうが、非常に家賃なども安く、そんな爲でも

第四圖（甲）



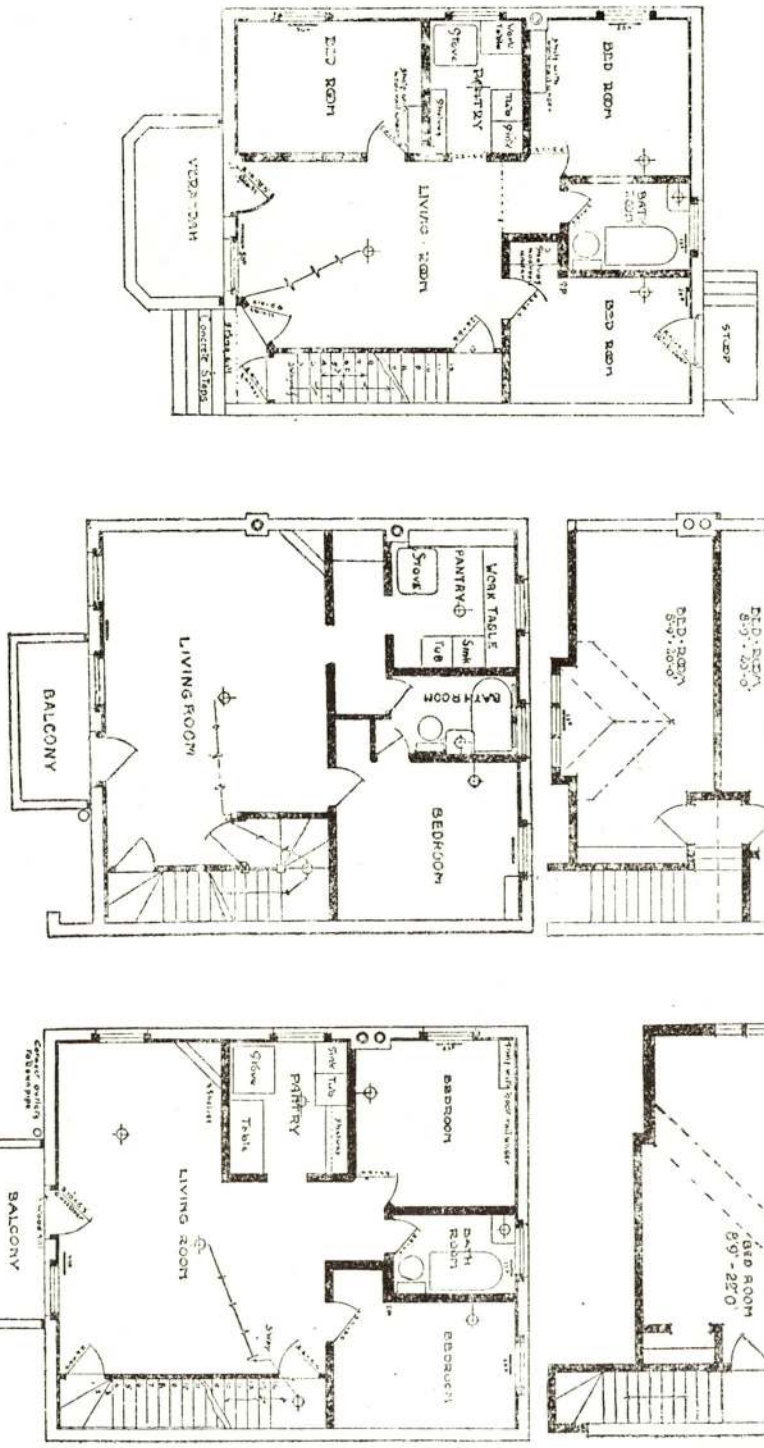
今日我國の都市に於ける住宅の改良事業が一つの研究材料となつて居るが、此のトロント市のコッテージ・フラットのあらうが、大變な好評を博して、建築のまだ出來上らない以前に、速に申込が滿員となつて、非常な歡迎を受けたと云ふことである——第五圖は其の外觀を示して居る。

べて見る價値の充分あるものゝ樣に感じられる。

アパートメント・ハウスに對する新傾向の第二としては、

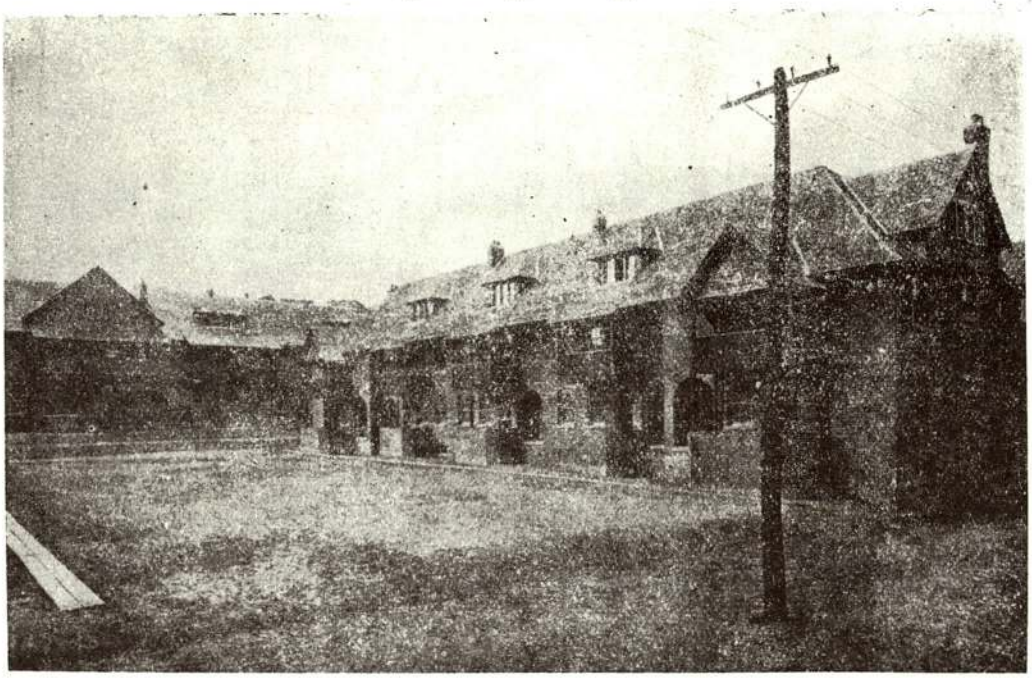
耐火的郊外アパートメント・ハウス——即ちファイア・プルーフ・サバーバン・アパートメント・ハウスと稱するものである、

第四圖（乙）



アパートメント・ハウスと云ふと、都市の中にのみ限られて居るものゝやうに考へるのが普通であるが、是は都市から離

第五圖



れた郊外地で、空氣も良く、景色も佳い所に、都會地に於けると同じ樣な構造設備を有つたアパートメント・ハウスが造られると云ふことである。

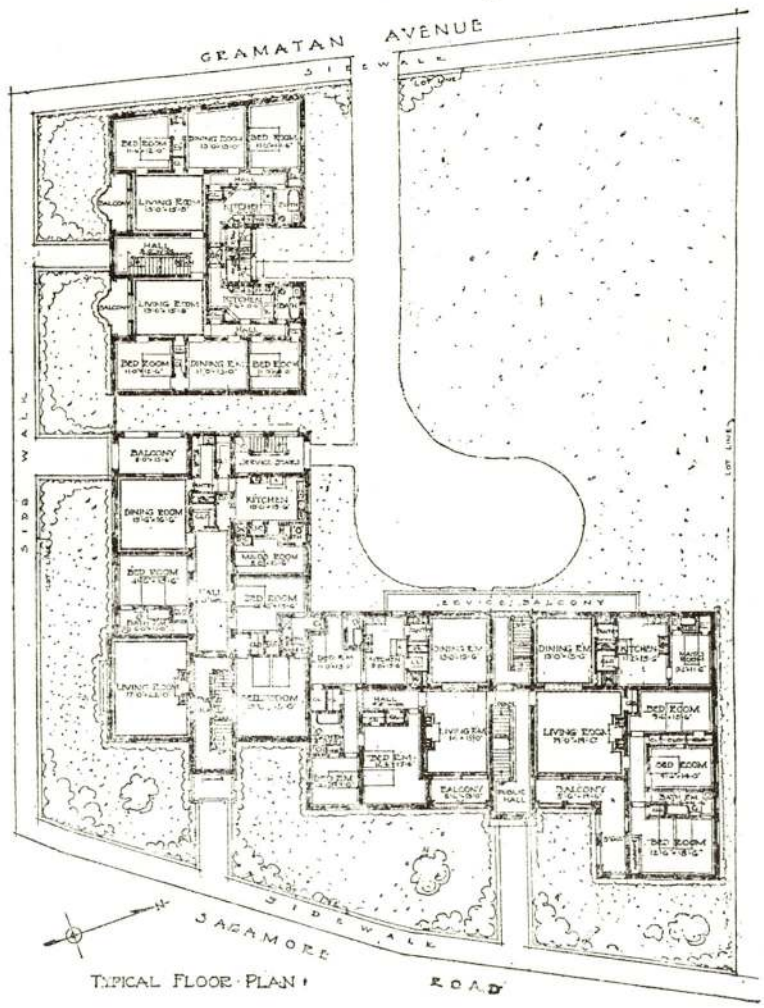
其の一例としては、グラマタンコートと稱する紐育市の近郊グロンキシビルにあるものが最も好いやうに考へる、是も十年餘り前に初めて出來たものであつて、是等の建物は都會に於けるアパートメントで得られるだけの愉快と、便利とに加へるに、清らかな田舍の空氣と景色を以てし、完全な衛生的裝置などをも備へた上に申分の無いものである、郊外生活を考へる人に取つて、郊外に一つの獨立した住宅を設けると云ふことは可なり色々な面倒が伴ふ、さう云ふ面倒なしに郊外の生活を味ひたいと云ふ人に對しては大變便利で、重寶なものであると考へられて、是亦一般の非常な歡迎を受けまだ建物の出來上らない中に、全部申込濟になつたと云ふことである。

此のグロンキシビルと云ふ所は非常に景色の佳い所で、附近にホテルなどもあつて、斯う云ふ經營には最も適當な場所であつた、郊外地であるから、自然都市に於けるものとは違つて、周圍も廣やかに、萬事が寬りして居る、是は第六圖で見られるやうに角地面であつて、角の所に一軒の大きな住ゐを置き、其の左右に二戸づゝ合計一階に五組の住居が組合されてゐる譯である、そしてベースメントは家の「番人の部屋」になり、又各自の部屋の物置なり、暖房其の他必要の裝置に使はれ、ベースメント以上が平均五階建になつて居るやうである、構造は壁はホローターイルで張り、窓や入口の上は鐵筋の梁を架け、床も亦ホローターイルを應用した鐵筋コンクリー

トで、總てが耐火的に出來て居る、其の點に於て居住者は安心して住める譯である、外觀はスパニッシュ・ミッション・スタイルであつて、白いスタッコ塗の壁に、赤瓦の屋根を有つた非常に感じの好いものである、又內部の仕上の如きもそれ〴〵非常に注意されたもので、郊外に於けるアパートメント・ハウスとして、充分成功したものと稱されて居る。

斯う云ふ經營も我都市の住宅問題の解決策として矢張り充分參考に資する價値があらうと思ふ、大阪の近郊の如きも一個の住宅を設けやうとすれば、地價の高いことは勿論、色々な面倒がある、便利で、眺望が佳くて、申分の無いやうな土地を經濟的に斯う云ふ風な經營がされるならば、餘程便利を感ずる次第ぢやないかと考へる。

第六圖

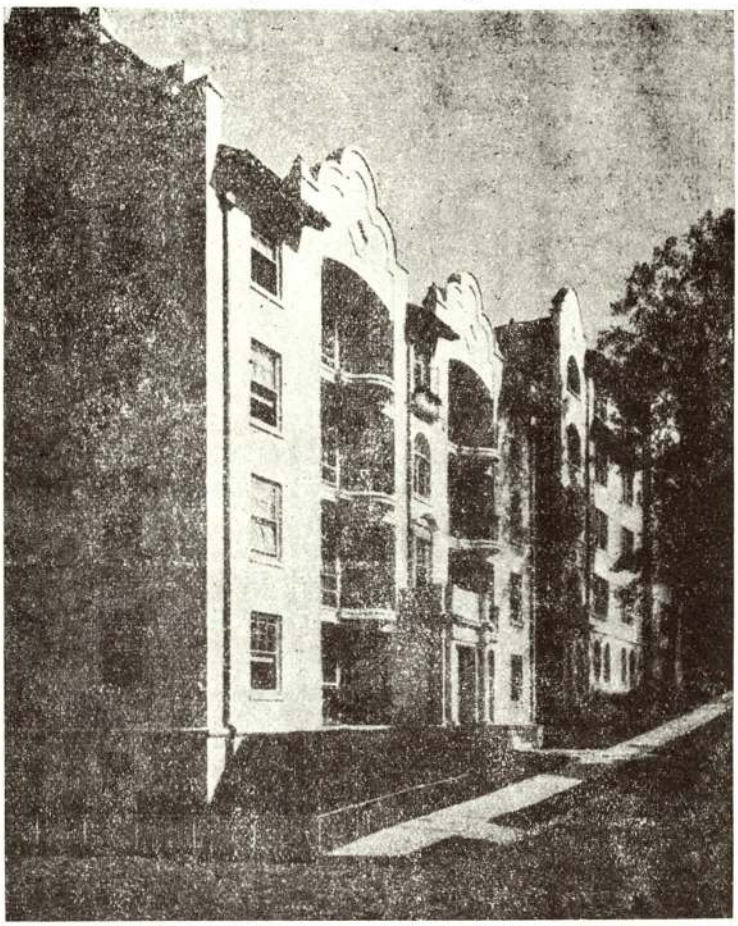


更に第六の新しい傾向としては、ソンルーム・アパートメント・ハウスと稱せらるゝものゝ出現である、是は四五年前から漸く始められたものであつて從來のアパートメント・ハウスとは大分に考の違つたものである、實は紐育や市俄古に於けるアパートメント・ハウスと云ふものは、前にも述べたやうに、どちらかと云へば、部屋數の多い贅澤なものである、迚も日本の都市に於けるアパートメント・ハウスの參考にはなり惡いやうに考へるが、此のソン・ルーム・アパートメント・ハウスと稱するものは、それ等のものとは全く面目を異にし、日本に於ける此の種類のものに對しても充分參考となり得るものと考へる。

此のワン・ルーム・アパートメント・ハウスの起つた理由は、歐洲大戰後著しく建築費が騰貴した、其の結果從來のやうな式のアパートメントを造るには非常な經費を要する。自然家

賃も高くなる譯で、一般の負擔に堪へ得られないと云ふ理由から、出來るだけ部屋數も少くして、それで間に合ふものを造らう、斯う云ふ動機に由つたものである、從來のアパートメント・ハウスと云ふものに付て見ると、六室一組から十四室

第七圖

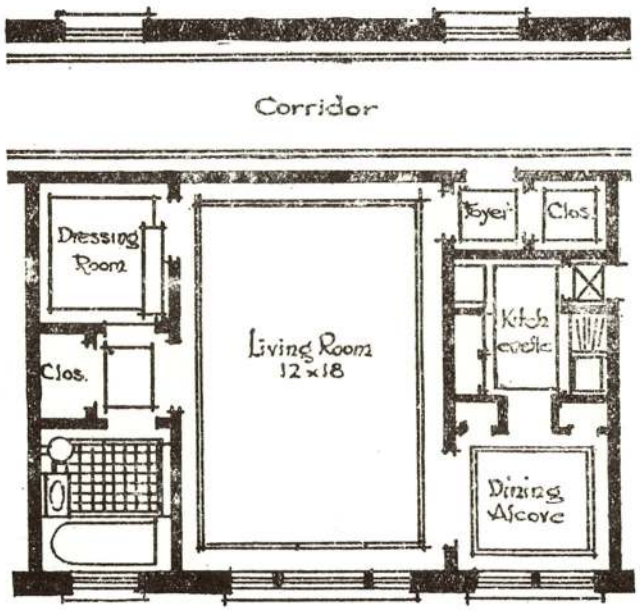


一組位までであつて、それに四個或は五個のバスが附くのが先づ一般の風であつた、所が建築費の方では倍額を要するやうなことに急に變つて來た——是は亞米利加の例であつて、日本では約三倍である——それにも拘らず、借手の方の收入としては從來と變らない、否變らない所ではなく、寧ろ從來よりも低下する、斯う云ふ事情になつて來ると、自然部屋數でも減らさなければ、他に方法が無いことになる、此の動機は何れの國に於ても當然考へられなければならないものであると思はれる、今日では一番大きなものが八室であつて、五室六室を以て最も普通なものとして居る、而もそれが更に段々と部屋數が減つて來て、四室、三室、二室となり、最後に一室主義のアパートメント・ハウスの出現を見ると云ふ風に變つて來た譯である、而して部屋數が減れば減る程其の用途と云ふものが擴大し、それに對する特別の設備と云ふものが非常に重要なものとなつて來た譯である、從來考へられて居つた六室本位のアパートメントと云ふものは、どう云ふ部屋であるかと云ふと、一個の居室、一個の食堂、二個の寢室、其の他臺所、女中部屋之に加ふるに、一個乃至二個の浴室を備へることを以て定規としたのである、所が歐州大戰後是等の標準の部屋の中から先づ第一に無くなつたものは女中部屋である、女中部屋を置くと云ふことは一つの時代錯誤と考へられて來たし、事實女中と云ふものが無くなつたのである、又之に續いて食堂と云ふものが一個の贅澤物視せられるやうになつて來た、それは斯う云ふアパートメントを借りる人の多數と云ふものは、家で飯を食はない、大抵外で食事をする習慣が盛になつて來た、家では唯簡單な朝飯、或は晝の小食位

に止つて居る、それが爲に食堂を不要視するやうになり、又臺所と云ふものが著しく縮小されることになつたのである、新婚早々の少勢な家族は勿論のこと、子供を有つて居る家族にしても、其の子供達を大抵學校の寄宿舍へ放り込んでしまふ、さう云ふ關係から寢室と云ふものが是亦餘り數多く要らないやうになつて來た、又泊り込のお客樣と云ふやうな者が今日では殆ど無くなつて居る、それはどんな時間でも交通機關が發達して、どんな時間にでも、自分の家へ歸へれるのであるから、態々他の家を煩して、泊り込むやうな人が無くなつた、其の爲に客用の寢室などをば無駄に用意する必要が全然無いのである、息子や娘が休日に家庭に歸つたとしても、それは便宜居室を寢室に代用することに依て寢室の不足は優に補はれるのである、殊にアパートメントの居住者は夏分などは海岸なり、何處か他の方面に行くのであつて、總ての人の揃ふやうな時には尙更さう云ふ必要が無いことになつて居る、又更に他の理由は、家庭に於て宴會をすると云ふやうな機會が非常に少くなつてしまつた、總てさう云ふことが社交的に外で行はれる、斯ういふ色々な事情の變化から最早六室のアパートメントは寧ろ贅澤であつて、今では一個の居室、一個の寢室、一個の臺所を備へた三室本位で充分間に合ふことになつて居る、この三室本位のアパートメントを更に壓縮し、新しい考案や設備を加へたものが一室本位のアパートメント・ハウスとなつて現はれたのである。

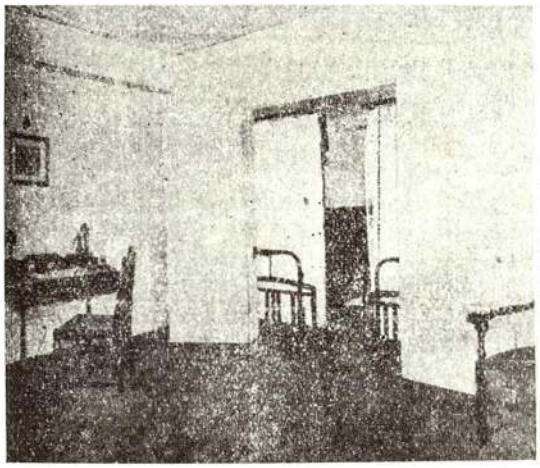
此の一室本位のアパートメントは最新亞米利加で極く小さなシテイに出現したのであるが、それが段々と大きな都市にも弘つて行く傾向が現はれて居る、又之を專門にして居る會社が出來て居つて、各地に斯う云ふ型のアパートメント・ハウスを造り、恰度チエーン・ホテル・プランと同じ意味で、それを連鎖的に經營する、我國にも昨今サエーン・ストアなどゝ云ふやうなものがあちこちに設けられて、連鎖的な商店經營が行はれるやうであるが、此の一室本位のアパートメントが同じ原則の連鎖的方法で、全體を綜合して經營して行くと云ふやり方を採つて居るのも面白い一つの新傾向のやうに考へる確に參考とする値打のあるものではないかと思ふ。

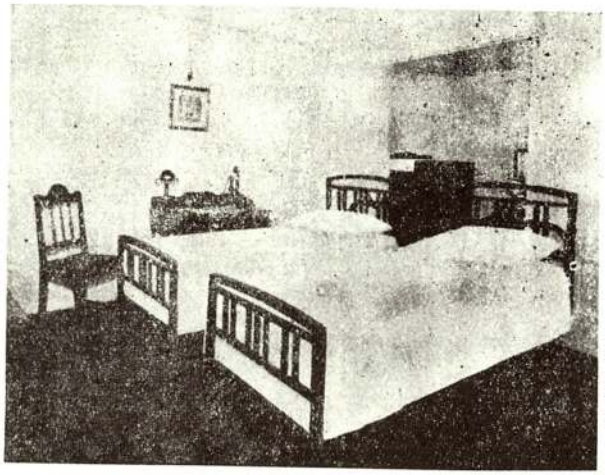
第八圖



第八圖に示すものは此の一室本位のアパートメントの間取

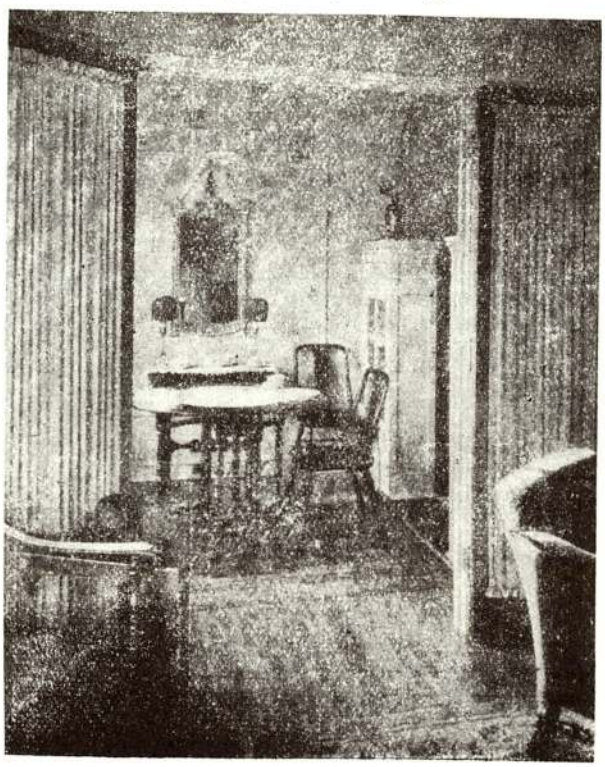
第九圖





の一例であつて、幅十二呎、奥行十八呎と云ふ廣さの居室が中心となつて居る、小さな玄關口があつて、其の玄關口から入るやうになつて居る即ち廊下から直接でなしに、大變靜で氣持が好い譯である、此の居室が晝間は居室であるけれども、夜分になると、其の左の隅にある小さな化粧室の戸を開けることに依り、其の戸の蔭に仕込まれてある組立の寢臺をば部屋に擴げて是が寢室と早變りするのである、化粧室は相當な大きさを有つて居つて組立寢臺が有ると無いとに拘らず、十分化粧罎筒や鏡を置いて、其の目的に使用せらるゝだけの餘裕を有つたものである、化粧室の下の方に浴室があつて、其の化粧室と浴室との中間に相當廣さのある衣裝戸棚が造り付けられて居る、又玄關口の脇にも大きな物入がある、物入としては此の二つで十分な餘地が用意されて居ることになつて居る、居室の右の隅の所に食堂即ちダイニングアルコーブと小臺所（キツチエネット）がある譯である、居室と食堂との仕切は第十圖で見られるやうに、カーテンを張つた手輕な扉が附て居り、ダイニングアルコーブと小臺所の間は造り附の食器戸棚で仕切られて居る、食堂には四人掛のテーブルを置き、更に折込の部分を擴げれば、六人までは坐れるだけの設備を有つて居る、電熱の裝置が直ぐ手許に取付けられ、食堂でパンを燒き、珈琲の仕度をしたり、直ぐ手許で出來るやう

第十圖



な至極手輕なものになつて居る、小臺所は是亦頗る理想的に出來たものであつて、白いエナメルの掛かつた「ながし」がある、臺所の眞中に立つて居れば、手の屆く範圍で何も彼も少しも歩かずに臺所の仕事が出來るやうな仕掛である、其の他掃除道具の戸棚、アイロンの鐵板なり、總て臺所として必要なものか備へられ、瓦斯の料理釜が設けられて居る、而も是等のアパートメントがチヤンと設備をしてでも貸されゝば、又設備なしでも、借主の希望に依て、どうでもなるやうな仕掛である。

設備の大體は先づ居室に要する一組の家具と、大小の敷物鏡臺、食卓、小椅子、給仕用の卓子、先づ是位なものさへ整へば、それで萬事の用が足りる譯で、亞米利加の相場にして一千弗位で間に合ふと見られて居る、此の一千弗と云ふのは亞米利加の習慣として一室に一千弗位を費すのが普通である例へば四室のアパートメントならば、四千弗、斯う云ふ標準であるのであるから、斯う云ふ點に付ても非常に經濟的な譯になる。

此の建物の經營者は又其の居住者に對して色々な便宜を與へて居る、女中のする仕事なども、經營者の方で引受けて呉れることを希望すれば、引受けて呉れるし、食事の用意、家の掃除、さう云ふことまでも、賴めば、して呉れるやうな仕掛である、又大きな冷藏室を有つて居つて、其處へ或種類の食料品の冷藏の委託も出來るやうになつて居る、又ベースメントには食料品の店があつて、ベースメントへ下りて行けば、直ぐさう云ふ買物の用が足りる、此の食料品店は喫茶店並に料理店をも兼ねて居るのであつて、料理したものをも其處で買ふことが出來る、所謂仕出であつて、電話を掛ければ直に下から食事を運んで呉れる、斯う云ふやうな便利まで備つて居る、尙ほ階下には共用の應接室のやうなものがあつて各自の部屋を煩すことなしに、其處で一家の客に接するやうな便宜もあり、屋上にはルーフ・ガーデンがあつて、隨時に屋上に出て、靜に休むことも出來る、そして斯やうな便利があるにも拘らず、家賃の方から云ふと、普通の三室本位のアパートメントの雜と半分位で濟むと云ふことである。

先づ是等がアパートメント・ハウスの最も新しい傾向として、從來のそれとは全然趣きの違つたものの一例であるが、現在並に將來に向つて追々と著しく發達をするものではないかと思ふ、我日本の都市の事情に付て考へて見ても、普通アパートメント・ハウスと呼ばれて居る種類の六室以上八室のものは餘り適例でなく、參考にはならないと思ふ、寧ろそれより以下の三室乃至今の一室本位のやうなものが經濟的に滿足な解決を與へて呉れるのではなからうか、大阪にはまだアパートメント・ハウスと稱する種類の建築が出來てないやうであるが、東京方面には二三出來て居るやうに聞いて居る、自分はそれ等のものゝ實際をまだ見る機會を得て居らぬので果してどう云ふやうな趣意の下に出來て居るか、又今日是がどう云ふ風に利用されて居るか、其の邊の事情を一切知らないのであるが、兎に角今後我都市の住宅問題の解決として、是非ともアパートメント・ハウスの發達に俟たなければならぬことは明な話である、それに對しては今述べたやうな大略三つのシステム——即ちコツテーヂ・フラットの式、簡單に云へば、長屋建を階上階下に居住者を分けて、耐火構造とする式、次に郊外アパートメント・ハウスの式、是は中流或はそれ以上の人達の必要に對して、滿足の解決を與へるものと信ずる、更に第三の頗る經濟的能率の高い一室本位のアパートメント・ハウス——斯う云ふ三つのものゝ現れがあるのではないかと私は信ずるのである。

科學とその應用

═地震と建築═

工學博士　佐野利器氏談

耐震構造の要項は地震の破壞力を出來るだけ牽制することゝ、又たなるべく建物をして强大な抵抗力を呈せしめる樣に構造することであつて、この二つの要點を滿足せしめるために、建築の材料と構造とに注意を拂はねばならぬ。かの石造煉瓦造りの如きは自分自身の大なる重量によつて、地震の破壞力に抵抗することが出來なくなるのである。そしてその破壞力に抵抗する樣に建立することがむづかしいのである。

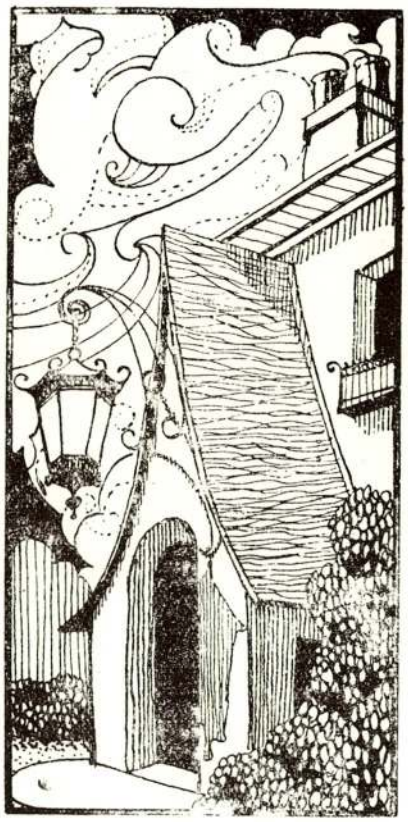
これに反して木造の家屋は破壞力の本となる所の重量が小であるから、これに抵抗する樣にたてることは比較的容易である。この點に於いては木造は甚だ有利の如く思はれるが、又一方地震の後には大抵火災の起ることを考へねばならぬ、地震の損害は寧ろ震後に起る火災のためであつて、この點を考へると木造は危險であると言はねばならぬ。

そこで結局、鐵筋コンクリートを以て最も理想的の構造とせねばならぬ。この構造は重量は大となるが地震の破壞力に抵抗する樣に造ることが割合に容易である特點があつて震後の火災に際しては木造よりも安全である。

併し木造物と雖も潰れゝば悉く燒けるといふわけでもなく、たとひ傾斜しても潰れなければ火災の憂ひも必ずしもあることなく、それ故にこれを十分耐震的に建てゝ置けば震害を少なくする事が出來るのである。日本の現狀では多く木造であるから、この木造をして最も有効に耐震的にするには先づ地質の堅實な所を選び、且つ家屋の重量を輕減しなければならぬこのために屋根を出來るだけ輕くし瓦よりも石綿盤の方が重量が少く、即ち瓦の三分の一か四分の一しかないから、今後は瓦ぶきは成るべく止める樣にしたい。

又家屋の抵抗力を强めるために筋違ひ方杖等を多く用ひ、前者は柱を二つ三つに割つたものを用ひるがよいそしてボールトで柱に締めつけておく、後者は大きな梁と柱との間に用ひるべきものである。この兩方の物を使用する費用は全建築額の五パーセントを越ゑないもので、これ等を使つたゝめに家は數倍の强さを增すものである尙かゝる建て方は、ひとり地震に耐へるのみならず、暴風に際しても家のぐら〳〵することが少ないのである。

故に筋違ひ、方杖等は木造家屋に絕對に必要なものと言ふべきである。それから現今の小學校の校舍は何れも小住宅と同じ樣式に建てられ、最も地震にせい弱であるから、大にその建築法を改良すべき必要がある。震災の輕減問題については、未經驗者はその恐るべきことを知らないため、兎角聞き流すことが多いが、耐震家屋については何人も注意すべき重大な問題である。（東京國民）



理想的文化住宅
アパートメントに就て

大阪市立都島工業學校生徒　小山秀雄

◎

『九尺二間に手鍋さげて』と申しますと可なり『ローマンチック』にも聞えるが一般に『アパートメント』と云へば餘り感じよくは響かないものであります。が然しながら此の住宅の考究は都市の發展と共に決して忽にすべからざる重大問題と信ずるので有ります。

否それが進歩發達こそ現在の都市住宅問題の解決の一助として我國民性に比較的一致し得る可能性ある唯一の集合住宅建築ではないかと考へるのであります。

◎

我國の過去數年間に於ける都市の著しき發達は其の一般住宅を漸次郊外へと逐ひ各都市共に最近に於ける郊外住宅の發展は非常なもので個人經營は勿論或は公共團體により或は營利會社により盛んに建設さるゝにも拘はらず其の樣式は依然として舊來の陋習に捉はれ徒に尨大なる地所を占むるにあらずんば徒に低級味を帶び其の間甚だ改善のあとを見る事が少ないのであります。

凡そ都會人が強ひて其住居を郊外に求むるには種々の理由があるのでに有りませうが要するに經濟的立場が主なる原因で郊外住宅を一つの別莊的氣分を以て見る一部人士は別として都會に働き都會に生きる少くとも中流以下の勤勞階級に於いては各自相應の住宅が市內或ひは其の附近に求め得らるゝならば、凡ての點より考案して強ひて郊外に居所を定むる必要は毛頭無いと信ずるのであります、而も近來の目醒しき都市の發達は昨の郊外も今日の都市と化し住宅は密集し地價は騰貴し更に郊外へと延んとして止まないのが今日の趨勢であるかの如く考へられるのであります。

然しながら其郊外住宅地なるものが無制限に擴張され得る

ものでない事は明かなる事實でどの程度まで擴張し得る可能性があるかは各都市の狀況地勢等によつて自ら多少の差異はあるであらうが何れにしても其都市の中心地から多く共一時せ間以内で到達し得らるゝ範圍にあるにあらざれば郊外住宅としての價値は極て薄いものであると云はなければなりまぬ

從つて郊外住宅としての價値は交通機關の發達に負ふ處が甚大で歐米の各都市が之れが發達に及々たるは今更論ずる迄も無く我國に於ても東西二大都市に於いて計畫されつゝある高速度鐵道の如きも此等郊外と都市中心地との距離の短縮に外ならないのであります。

然しながら現在の智識即ち現在の科學の力を以てして其の交通機關による距離短縮にも亦限度ある以上郊外住宅としての價値ある土地に限りある事は明かなる事で現在の趨勢を以てしては都市の住宅問題として早晩來るべき運命は或る程度迄之れを豫想するに難くないのであります。然らずともより近きより便利なる所に其居所を求むる事は都會生活としての能率增進上最も望ましき事で之れが爲めには先づ住宅のみならず凡ての新設に於て徒に平面的に膨大なる從來の都市から出來得る限り組織的に縮少且つ充實したる都市の建築を計るが刻下の急務である事は社會一樣に認むる處で、爲に都市計畫は高唱され、區劃整理は行はれ、各都市は競つて大ビルデイングの建設に餘念なきに關らず、獨り此種の住宅のみ、未だ舊形を脫し得ないのは如何なる理由か、吾人は一般社會人士と共に研究すべき重要なる問題と考えるのであります。而も要は地所を空間と共に如何にして最も有利に活用するかと云ふ事でありまして、それが爲には、平面的にも立體的にも極度迄充實せしむる事が肝要で、昨今盛んにアパートメントの論ぜらるゝ所以なのであります。

◎

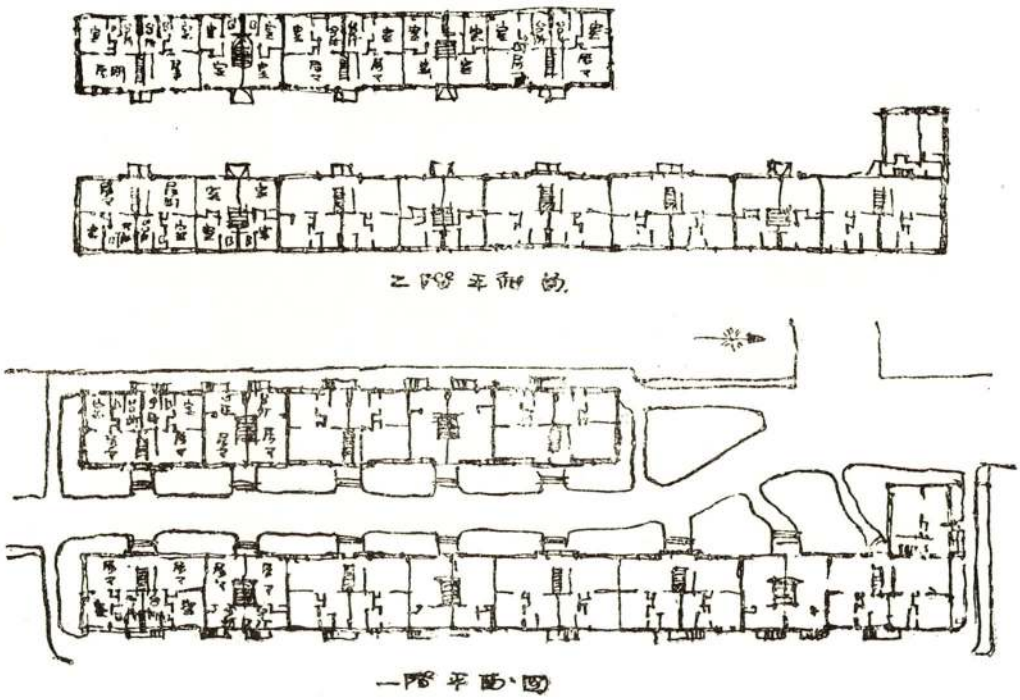
而しながらアパートメレトハウスは譯して蜂窩住宅とも唱ふるが如く、一つの建築の中に幾組かの家族が共住し得る組織でありまして、原則として、數家族から住ひ得る大規模のものもありますが、何れにしても、其の最も特徴とする處は住宅のコンデンスにあつて、且つ容易に都市としての必要條件たる耐火構造となし得る事及入口玄關廊下等の共用は其等に要する面積を其の他の居間、臺所、寢室等の主要部に比して驚くべき縮少を成し得る點でありまして、此種建築物の實例に見るに其等に要する面積は、全面積の七パーセント乃至九パーセントにて充分に足り得るのであります。

◎

而も尙、電話機、昇降機、暖房及び換氣設備共あらゆる文化的の設備の共用により比較的安價に施設し得るのみならず使用人の節約等經濟能率共に多大の効果を擧げ得るのであります。

故に二三の缺點は免れぬにしても此の種の住宅建築としては現在に於いて最も發達したるものと云はなければならぬにも拘らず、我國に於ては餘り其の發達を見ないのは未だそれが要に迫られないと云ふよりも、寧ろ、其國民性がかゝる生活樣式に慣れるべく餘りに彼等と生活狀態に於て差異がある

第一圖



二階平面圖

一階平面圖

ではないかと思推するのであります。それは永年歴史的に作り上げられたる國民道德に大いに起因するもので、何等か特殊の或共通の目的上に共存し得る家族以外には早急に之が普及の可能性あるか否か判斷に苦しむもので、茲に寧長屋建築即ち從來の長家式住宅の改善發達を推奬する謂所であります

即ち近時發達せんとする『理想住宅アパーメント』即ち長屋住宅は一戸一家族主義に近似して、比較的に我國民性に一致し易く、而も『アパートメント』の有する特徵をも相當に加味し得て、よく耐火建築たり易く、尙且つ暖房其の他の衛生設備等をも充分に共用し得る可能性があるからであります

然らば、如何にして、此の種の建築を最も能率よく最も氣持ちよく最も經濟的に改善發達せしむるかは我々建築家のみならず一般人士の考究に俟つ所が甚だ大で、歐米に於ても近來此の種の住宅建築が盛んに研究され建設に向ひつゝある傾向が見受けらるゝのでありまして、最近雜誌に散見したる長家住宅の平面を借りて此の種建築の一助とも思惟し且收穫との比較ともする次第であります。

即ち第一圖は米國のハーバート大學の結婚せる學生の爲に設計されたる長家住宅の平面で、其の所在地カムビレッヂ郊外の人口がカムブレッヂボストン間の地下鐵道の完成により最近著しく增加したる爲め、此等學生の住宅難の補助を目的として特に建られたるものと思ふのであります。

即ち全部二階建で其の平面は二種の樣式よりなり、一つは我長屋式に一家族一玄關主義が採用され簡單なる玄關の外に居間と臺所とを有する一階と二つの寢室とよりなる上下四室

を以て單位とし、各階に二家族宛四家族共住し得る『アパートメント』の樣式を混用したるものではありますが、相當興味のある新らしきものと思ひます。

◎

第二圖は『オランダの首府ヘーグ』に於ける長家屋住宅の一例で住ひの機械と迄評せられたる、此の種の建築としては、可成細心の注意と苦心とが拂れたる平面でありまして、各居間と臺所の外に三つの寢室からなるものとの都合五室單位と四室單位との三種類を極めて巧妙に配置したもので、やはり二階建でありますが上下各階立派に一戸の形式を備へて、各戸獨立の入口を有する點など、唯に平面的區劃のみならず立體的にも頗る有效に取り扱はれたる好例で、我が東京に於ける『アパートメントハウス』と最もよき比較るなるものであります。

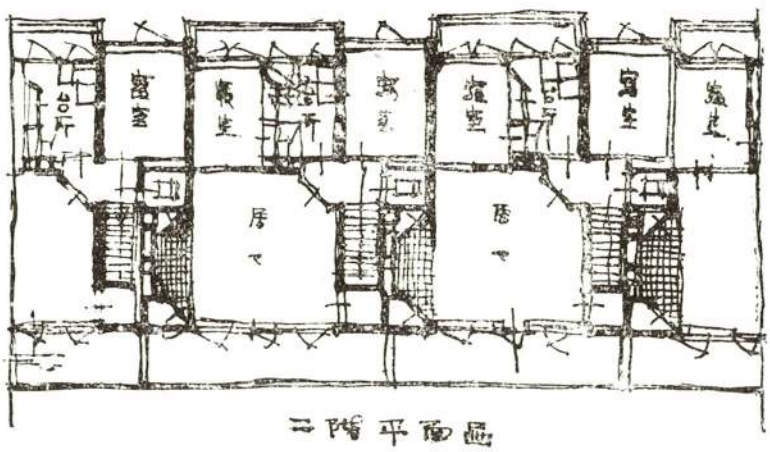
次に現今東京に於いて盛んに建設されつゝある『アパートメント』について其の一部分を述べようと思ひます。

× × × ×

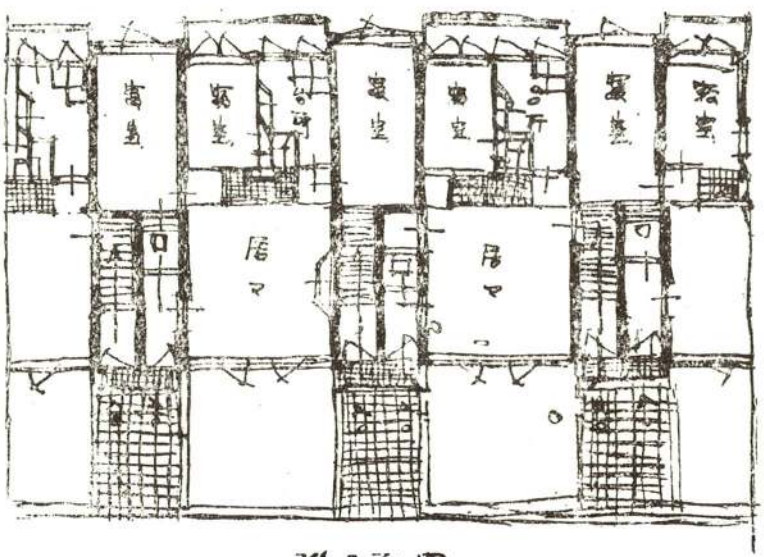
同潤會アパートメントに就て

○青山アパートメント

第二圖



二階平面圖



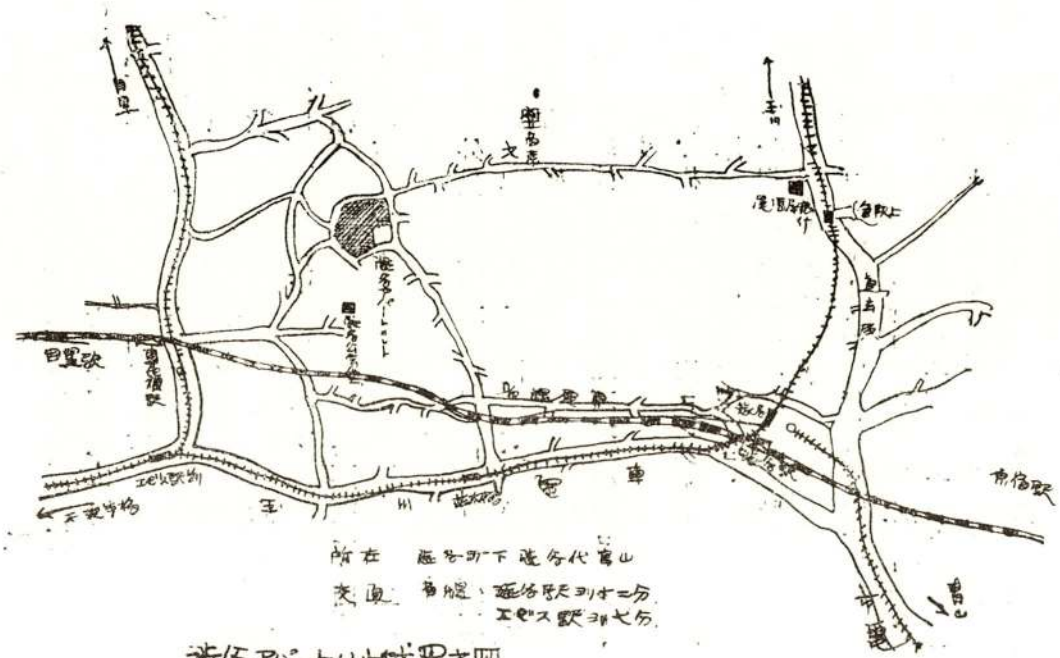
一階平面圖

○位置＝千駄ヶ谷隱田寺町一番地（明治神宮表參道右側）
○敷地面積＝一千八百八十五坪
○建設戸數＝一三八戸（一戸當所要敷地面積十三坪十二）
○構造＝鐵筋コンクリート三階建

○延坪＝一千五百七十三坪七四
○工費＝五十五萬九千八百餘圓
（電氣瓦斯水道下水等ヲ含ム）
○竣功期＝第一期七十二戸（大正十五年九月）
第二期六十六戸（昭和二年二月）
○設備概要
（一）表入口＝ネームプレート掲示板
（二）戸口＝郵便受、ネームプレート
（三）玄關＝傘立、下駄箱、帽子外套掛、鏡付化粧棚、洗面器
（四）居室＝窓掛床ハ一吋半厚ノコルク張ノ上ニ莫蓙二枚重敷込、神佛棚、煖房用瓦斯、吊床
（五）臺所＝米櫃、蠅帖、庖丁立、棚數個、流し、調理臺炭入、ダスーチユート、瓦斯
（六）便所＝各戸別水洗式
（七）屋上＝洗濯物、物干
○家賃＝六疊、四疊半、三疊（二間）
二十六圓以上三十圓以内（四八戸）
六疊、六疊（二間）
二十圓以上二十三圓以内（三十戸）
○敷金＝二ケ月分
○貸付＝決定濟
○中ノ郷アパートメント
○位置＝本所區中ノ郷業平町八十八番地
（淺草驛東曳舟川添ヒ）
○敷地面積＝一千八十七坪
○建設戸數＝百〇二戸（一戸當面積坪十〇坪六合）
○延坪＝一千〇〇八坪八合
○構造＝鐵筋コンクリート三階建
○工費＝三十一萬餘圓
○竣工期＝大正十五年九月
○設備概要＝青山アパートメントと同じ
○家賃
（一）住宅（六疊、四帥半）二間
十六圓以上十八圓以内（三十六戸）
六疊、三疊（二間）
十三圓以上十五圓以内（五十六戸）
（二）店舗＝四疊半、三疊、土間三坪
十九圓以上二十一圓以内（十戸）
○貸付＝決定濟
○柳島アパートメント
○位置＝本所區柳島元町（帝大セツツルメント向側）
○敷地面積＝一千五百十五坪
○建設戸數＝百九十二戸（一戸當所要敷地面積七坪八合）
○構造＝鐵筋コンクリート三階建
○竣工期＝第一期六十八戸　大正十五年十月（豫定）
第二期百二十六戸　昭和二年四月中（豫定）
○設備概要＝大體青山と同じ
○家賃
（一）住宅＝六疊、三疊（二間）
十三圓以上十五、圓以内（百三十八戸）
四疊半、三疊（二間）

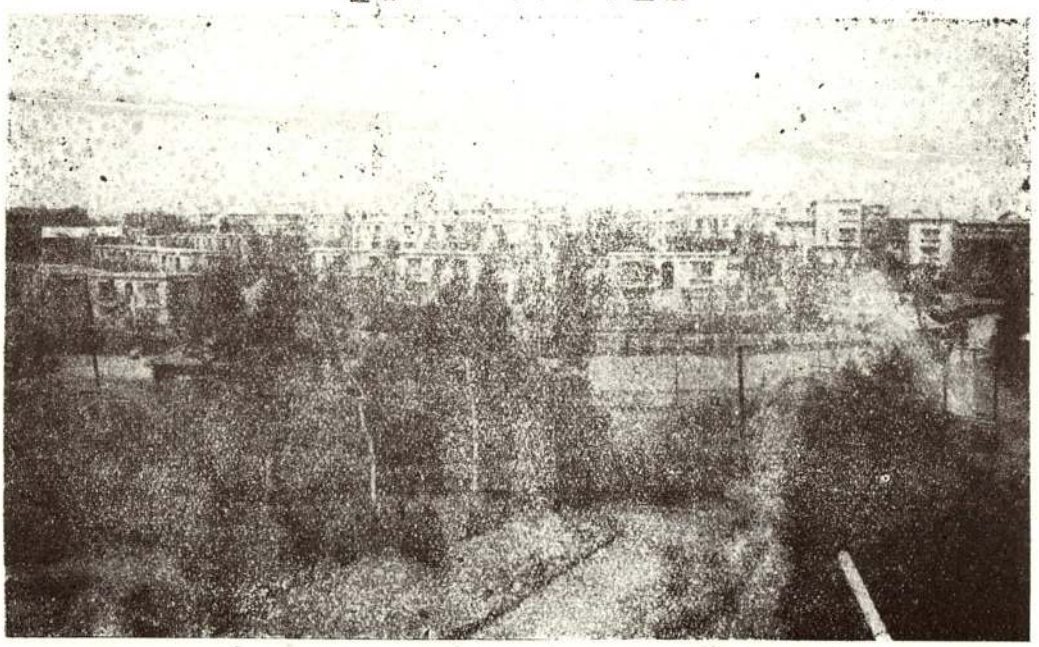
十一圓以上十三圓以内（三十六戸）
（二）店舗＝四疊半、三疊、土間三坪
區劃整理による前面道路完成の月まで十六圓均一
區劃整理による前面道路完成の翌日より二十圓以下十四圓以上（二十二戸）
○貸付＝貸付九月末日まで申込受付
澁谷アパートメント
○位置＝澁谷代官山（元青山女學院跡）
○敷地面積＝五千五百八十五坪
○建設戸數＝三百二十戸（豫定）
○竣功期＝大正十五年十二月（第一期）
第二期昭和二年三月
○間取＝獨身者向、六疊及び八疊
六疊、四疊半、三疊
八疊、四疊半、三疊
八疊、三疊
六疊、四疊半、四疊半
店舗
○家賃＝
東土アパートメント
○位置＝深川區東大工町
○敷地面積＝四千四百坪
○建設戸數＝六百五十二坪
○竣工期＝第一期（昭和二年三月）
第二期第三期未定

山下アパートメント
○位置＝横濱市山下町
○敷地面積＝千二百七十四坪
○建設戸數＝百六十四戸
○竣工期＝昭和二年三月
平沼アパートメント
○位置＝横濱市平沼町
○敷地面積＝七百三十四坪
○戸數＝百十八戸
○竣工期＝未定
澁谷アパートメント工事概要
○建築戸數
世帶向住宅　二一八戸
獨身者向住宅　七六戸
商店　三戸
食堂　一戸
倶樂部室　一戸
管理事務室　一戸
計　三〇〇戸
○建築延坪數　三、一〇三坪
○總室數　五七九室
○總工費　九九七、二一八圓
内譯　建築費　八四二、〇五四
土工費　六二、〇〇〇
植樹費　一五、九三二
雜工事費　七七、二三二



渋谷アパートメント位置之図

渋谷アパートメント全景



○建築費一坪當　二七一圓強
　但し土工費其の他をも加うるには　三二二圓弱
○工事着手年月　大正十四年十一月
　同竣功年月　昭和二年三月
　同月數　十七ケ月
○工事請負人　大阪橋本組
○敷地坪數　六〇五二坪弱
　（前所有者財團法人青山學院）
○敷地價額　三七五一九四圓
　一坪當價額　六二圓
○備考
　前記の外目下浴場、理髪店、商店二戸及住宅三戸建設中此の請負金額六萬二千圓本年七月竣功の豫定

構造及び仕様概要

基礎　本建築主體基礎は割栗石地形鐵筋コンクリート造とす

主體構造　柱、桁、梁等總て鐵筋コンクリート造り外壁は五寸厚、間壁は四寸厚、鐵筋コンクリート造にして各仕切は大體木造木摺壁とし階段は厚さ六寸鐵筋コンクリート打とす。

屋根　鐵筋コンクリート造陸屋根とし防水層三層張りの上ヨシダコンクリート打の上防水モルタル塗四半目地切り仕上げとし一部は防水層上部に「アスファルト」鏝塗りの上砂利撒布をなせり。

庇　各庇は鐵筋コンクリート造りの上端防水モルタル塗り下端人造石塗りとす。



一部の内室トメントアパート谷澁

壁面　外部は各號型式に應じ色變りの着色人造石洗出し塗りとし內部は白色及卵子色漆喰塗り仕上げとし便所內部腰壁は白色藥掛タイル張とす。

床　各階居室床　鐵筋コンクリート上端に（但し一部木製分床共）コルク張り玄關廊下臺所食堂等床モルタル仕上げとし各階便所床は木造及タイル張り仕上げとす。

窓出入　各階窓米杉製硝子障子換氣小窓付とし內部襖、板戶、開戶等は日本杉及米杉製とす。

防火戶　各戶別片開き扉は骨組及び下地木製枠共其上を亞鉛引鐵板張りとし鋲繋打ち半田鐵付をなし上部に厚二分網入硝子障子を嵌め込み各渡部下扉及枠は田島式「スタンダードスチールドーア」を嵌め込みとす。

設備　照明及炊事用として電燈瓦斯及水道設備をなし特に臺所用として米櫃蠅張、調理臺、竈炭入、及塵芥投入筒を備へ洗面所には洗面器及鏡付化粧棚を付け又下駄箱、傘立、帽子掛、郵便受入箱、窓掛氏名札を設け各戶別水洗式便所裝置をなし三建立「アパートメント」には屋上に洗濯場を設け物干竿及び洗濯盥を用意せり、又獨身者には寢臺及瓦斯重寶臺を備付け商店には食堂及娛樂室の設備あり。

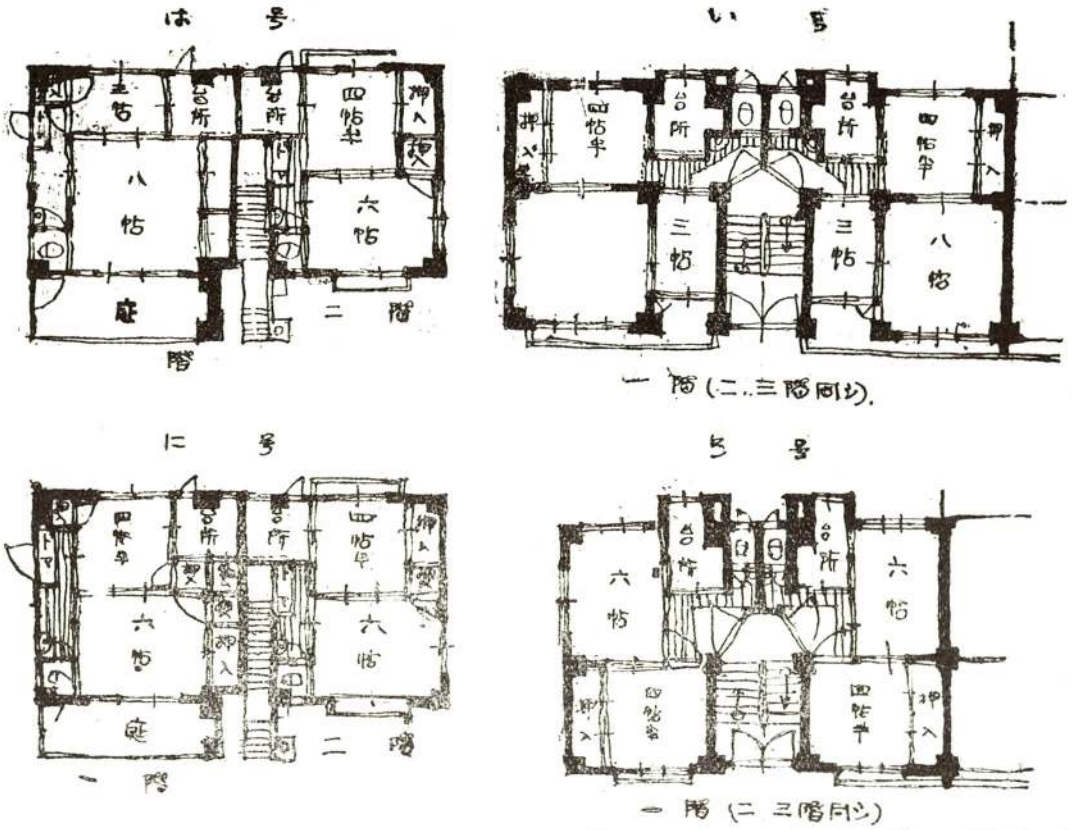
青山アパートメントに就て



澁谷アパートメントあをぎり通り住宅

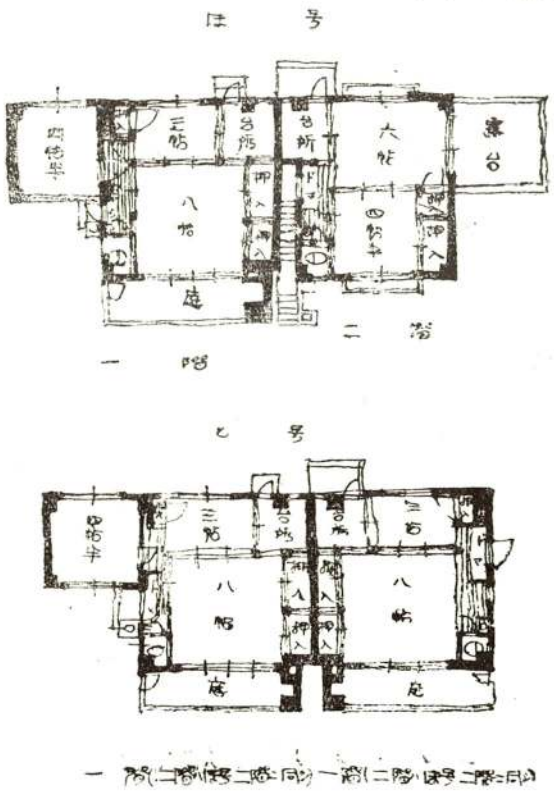
青山アパートメントは、內務省內、同潤會の經營になり、柳島、澁谷等と同樣、同會の經營する新しい試みのものである。

アパートメント經營と云ふ事は現在に於て充分の設備と便



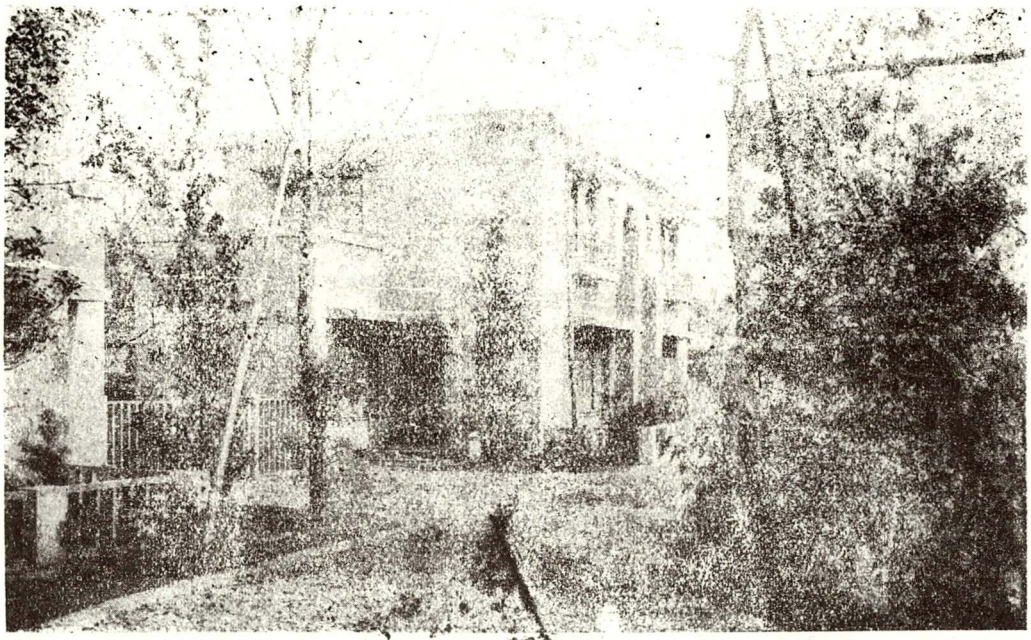
宜とを計つて眞に生活改善の實を擧げるものとしては、營利を目的としなければならぬ、個人經營等では殆んど不可能な事である。

眞に生活改善の社會的必要性を理解して立つ文化普及會や資金に於て一大勢力を持つ同潤會等において初めて出來得る仕事と云はねばならない。



◎

最近同潤會に於いては震災直後の一時的郊外バラック長屋に代ふるに今度は永久性の鐵筋コンクリート造の中流社會の要求する生活源を以てすべく、昨年は柳島及青山の一部を完

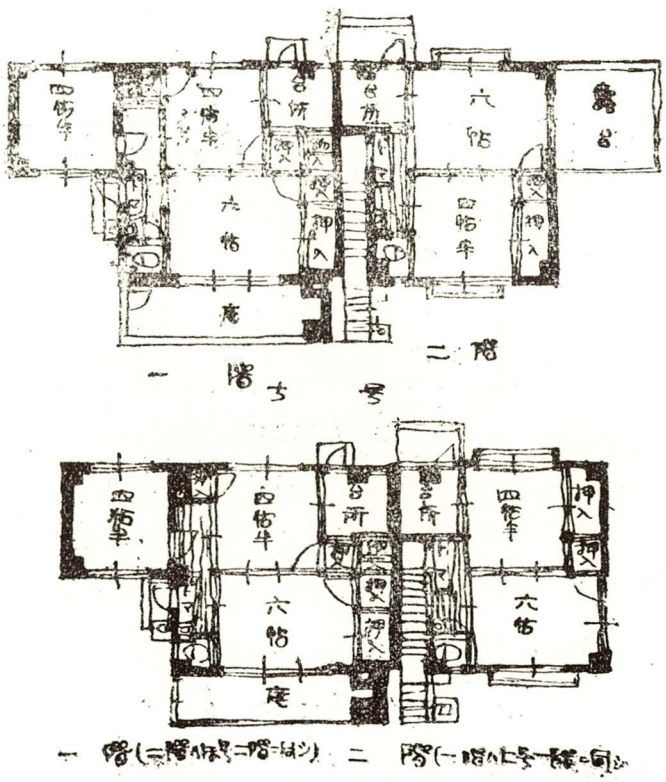


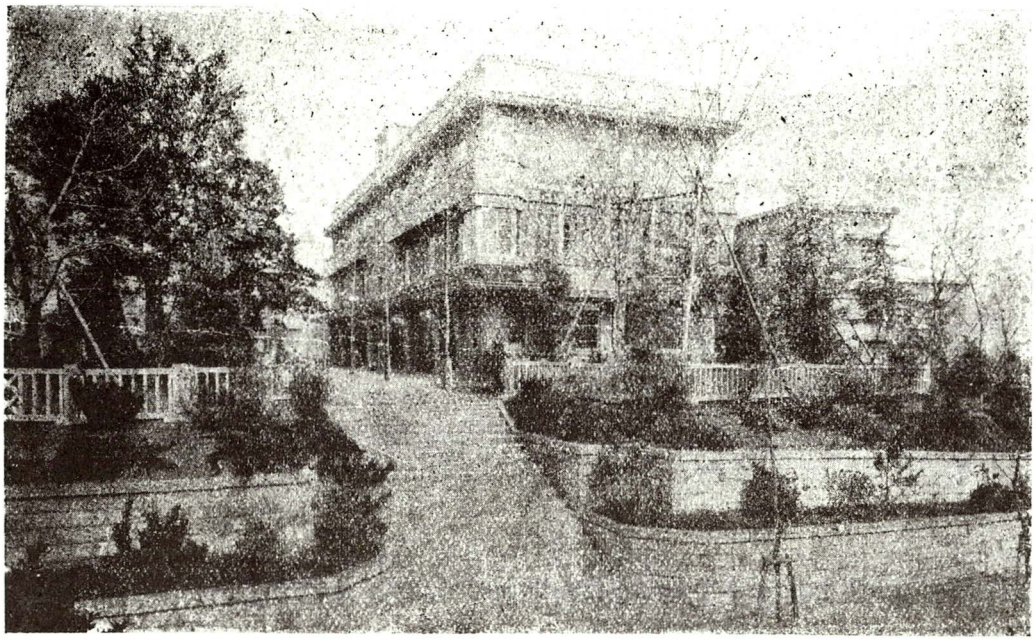
（工施組本橋阪大）　宅住りかけ通すトメントパート谷灘

成し今又灘谷及青山の殘部が竣工しようとしてゐる。其の設備も現在の中流生活を基準に取つてあるので和樣折衷式で日本在來の生活習性を失せない樣に勉めてゐる。

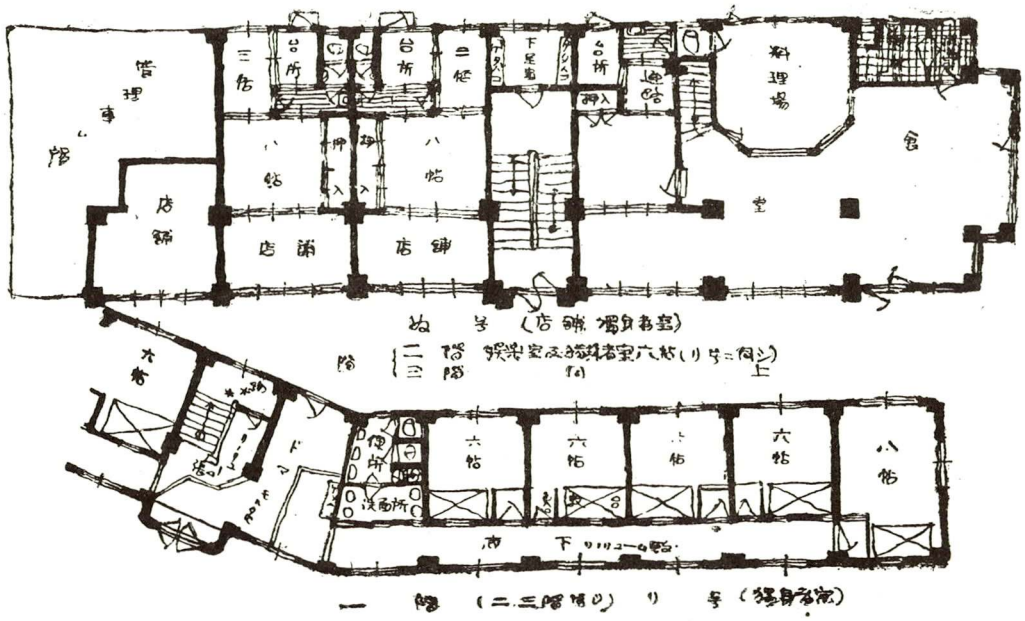
建築の大要は前述の樣でありますが稍詳述しますれば各ブロツグは各三層で平面は一階に四個のアパートメントを持ち各二つのアパートに入る可き玄關が有り、之から左右、各アパートに、ドアーを持つて入れる樣になつてゐる。

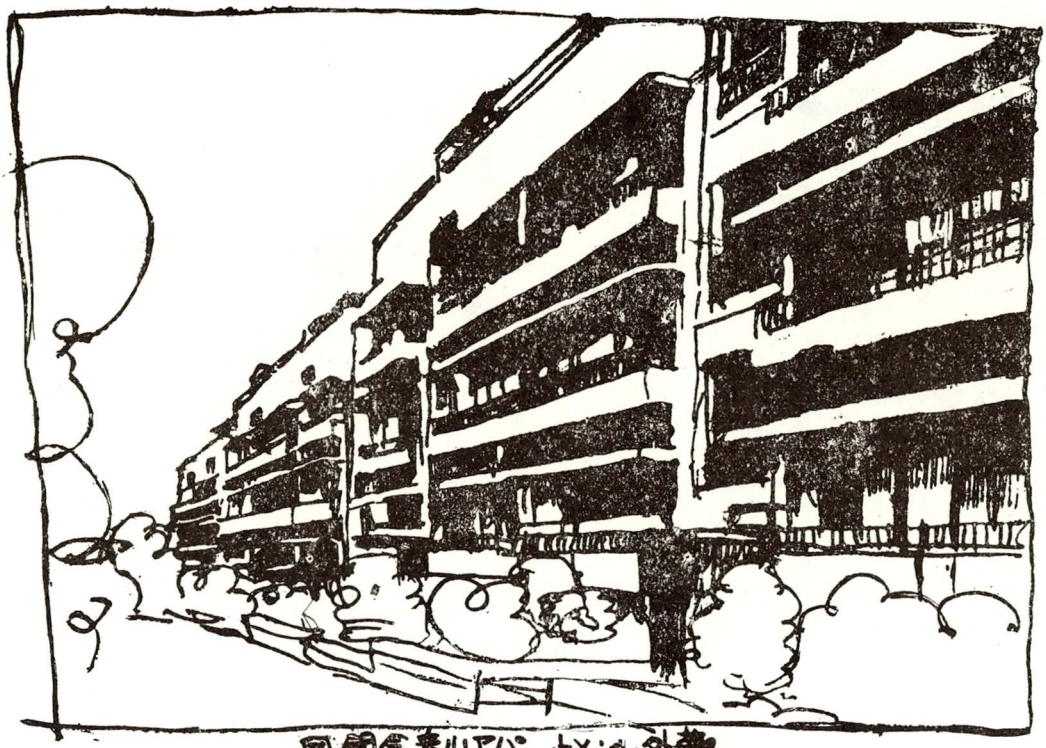
玄關の上は即ち階段であつて二階、三階の各アパートえ通





澁谷アパートメント商店及娯樂場　（工施組本橋阪大）

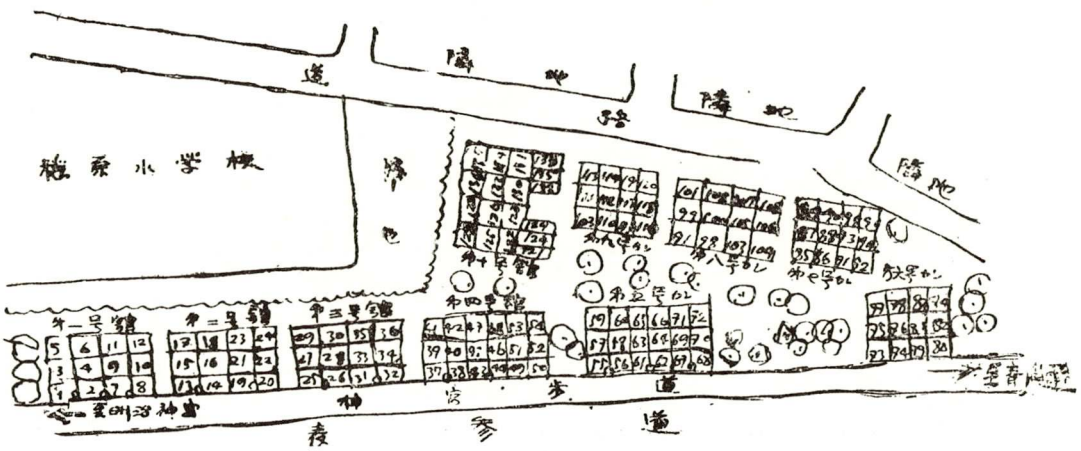


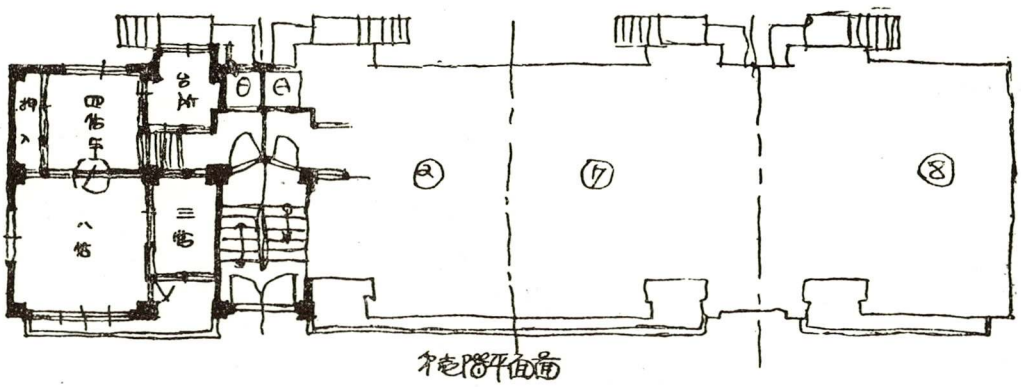


同會員青山アパートメント外觀

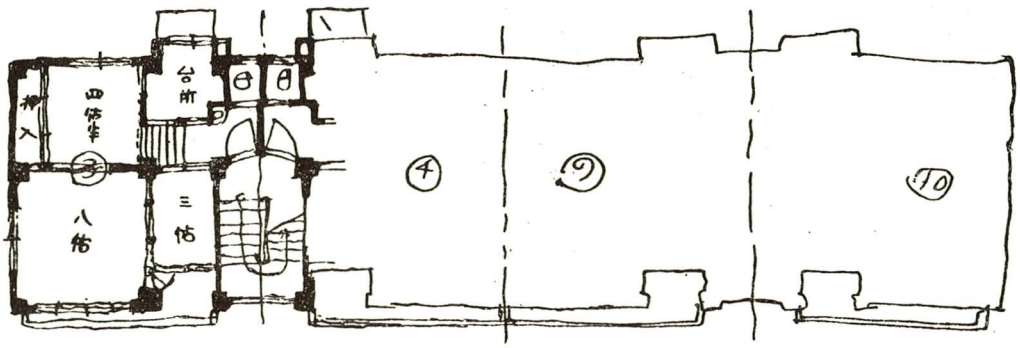
同會のアパートメント

青山アパート戸番號圖

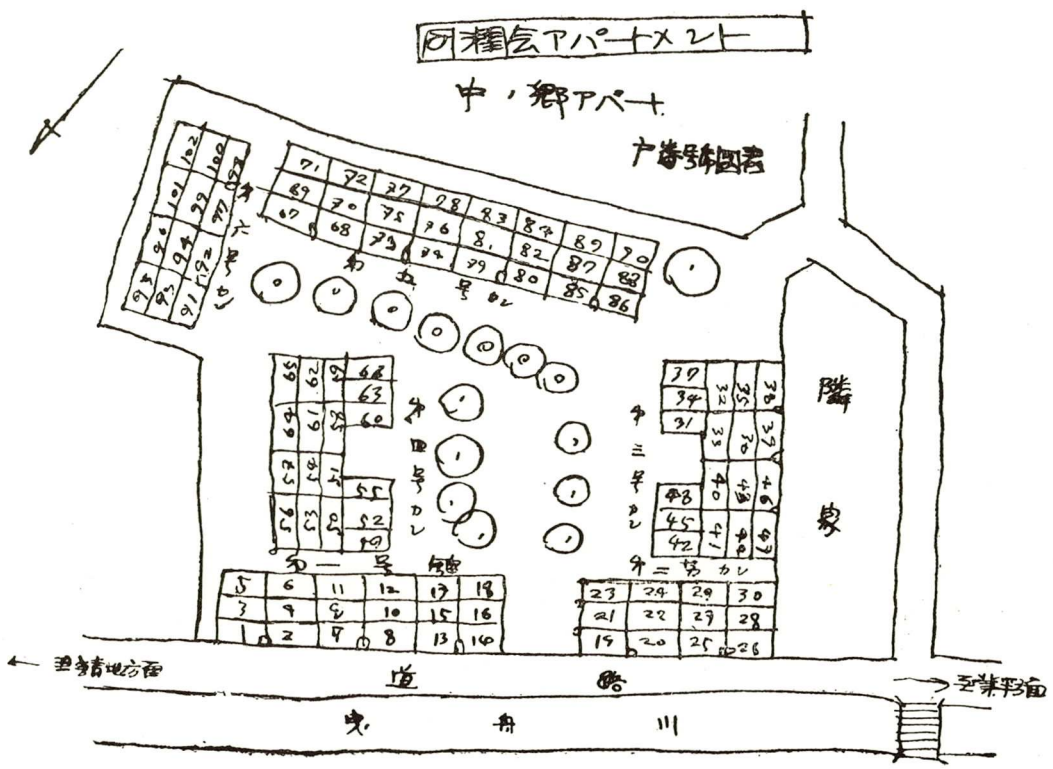


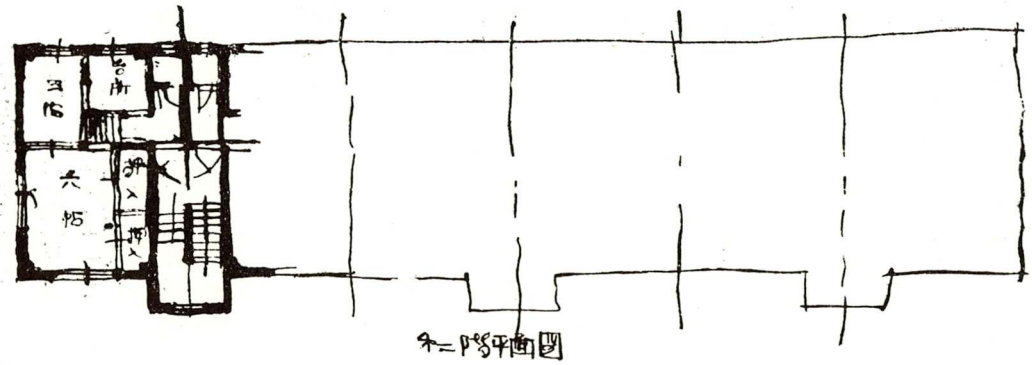


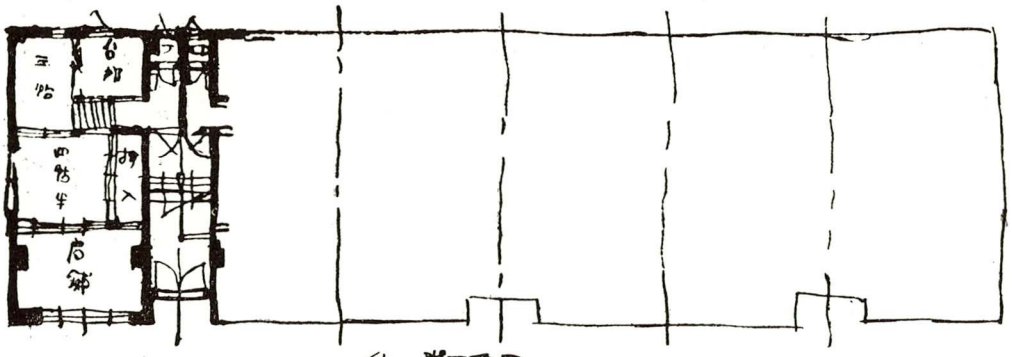
第壱階平面圖



第二階平面圖







ずる。階段から各アパートの入口のドアー迄は凡て外部と同物に履物の儘行かれる様になつて居る臺所は、四、五′×七、五′位の大きさであるが米をとぎ飯を炊く在來の生活でも決して不便はなさそうである。

臺所から出る塵芥は流しの側にある「ダストチユーブ」に依つて、一階の塵箱に溜り之から取去られる様になつてゐる。各アパートは三種別有つて（前記概略の如し）内部は疊ではないが床に一寸餘厚のコルクを張り、上に疊表連結の莚を敷いてあり何れのアパートも居室の一つには一間半深さ三尺の押入が附けてあり、又中及大のアパートには、三尺の床の間がついて居る。其れ故居住者に依り、ベットを置くとも又は日本式の蒲團を敷く事も出來る。窓は、引違いで窓上に一尺五寸、窓臺外に同じ位の肘掛がコンクリートで出來て居るから窓外へ手拭を掛けたり、鳥籠を吊したり又は植木鉢をならべる位の事は出來る。

便所は、汽車の便所式の新しい試みで、大便器一個マタギ式で前方半分が一段床が高くなつて居るのであるが汽車のより廣く三′、二五×四′、五の大きさであるから充分であらうと思ふ。

浴室は六戸共有で三階の階段を上つた上即ち屋上に、一般住宅の浴室位のものが設けられてある。屋上はバラペットを高くして、數個の洗盥灌と物干場とがある。バラペットが高いから、外部から洗濯物も見ないし、又此の邊は各室の眺望も相當に良いから屋上を庭園にする必要もらからうと思ふ外部は氣持ちのよい復興色でモルタル洗出しの仕上げで、軒と窓臺の深い突出が日本式の良い感じを與へる。靑山アパートメントには此の各層四戸三層即ち十二戸を一ブロックとする數十のブロックが、松樹の間に隣立してゐる。

現在建設中のものが完成すれば中流住宅難にかこつ人々は一大福音に浴すわけであります。（了）

（本篇は今春關東方面へ修學旅行の際調査したるもの、報告書である）

宇土やぐらの大改築で

建築史上の貴重な資料

幾年前に　大改築を行つたか判らなかつた熊本城宇土櫓が、本月七日德永組の手により櫓を解體する際、五層樓の垂木に『享保五年八月二十一日』と銘記しあつたのを發見し之に依つて今から百五十年前中御門天皇の御代に大改築した史實が判明した、其後第六師團當局でも斯かる得難き建築上の參考資料が現はれたからには

まだ〳〵　他に何か出てくるに相違ないといふので出來るだけ資料を集めるやうに命じてゐたが、去る十八日腐朽した、大柱、梁、床板の中から二尺五寸眞ツ角の材木が出て來たので、よく〳〵見ると、其れには七人の大工の名があつた、即ち長八、平次郎、三次郎、喜六、喜七藤七、長六と殘されてあるのを發見したのであるが、姓の無い點からして疑ひもなく百五十年前に

大改築を　した大工の名前である事が確實に實證されるので尙之と共に去る二十三日全部の解體を終へていちばん下の地下室の石垣の間からネコギを發見したので調べると之には墨痕鮮かに『文政九戌年九月吉日』と書出しで次に御棟梁兼友彌右門、安田巳右門、町大工德助外四名（略）仕手方、社分寺町源吉外十二名（略）とあるから年號を繰つて見ると今から百七年前仁孝天皇　の御代にあたり此方は大改築後四十三年目に小修理を行つたものであると判明した、尙此外にも明治十年役當時薩軍から發射した彈丸の破片數十個が人の出入さへ自由に出來なかつた地下室にゴロ〳〵してゐるのを始めて發見した外、地下室と第一層との間に幅二寸一分長さ五寸七分といふ極めて小さい竹の皮製草履が發見された、が草履の格好と年代からして或は

小西時代　殿中において上穿きに使用したもの、如く思はれるが、何れにしても今回の根本的大改築によつて多數の參考品が發見された事は今迄ハツキリしなかつた建築史實の上に、大光明を與へたもので貴重なる收穫と云ふべきである。

法律第十四號

不良住宅地區改良法

第一條　公共團體ハ不良住宅密集シ衞生、風紀、保安等ニ關シ有害又ハ危險ノ虞アル一團地ニ付本法ニ依リ改良事業ヲ行フコトヲ得

公共團體前項ノ規定ニ依リ改良事業ヲ行ハントスルトキハ主務大臣ニ申請シテ地區ノ指定ヲ受クヘシ

第二條　主務大臣特別ノ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請ニ依ラスシテ地區ノ指定ヲ爲シ其ノ地區ノ屬スル公共團體ニ對シ本法ニ依ル改良事業ノ施行ヲ命スルコトヲ得

第三條　主務大臣前二條ノ規定ニ依リ地區ノ指定ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一　地區ノ區域

二　改良事業施行者

第四條　前條ノ公告アリタルトキハ事業施行者ハ一年以内ニ改良事業方法ヲ定メ主務大臣ニ認可ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ認可アリタルトキハ事業施行者ハ三月以内ニ事業ニ著手スヘシ

事業施行者第一項ニ規定スル期間内ニ改良事業方法ノ認可申請ヲ爲サス又ハ第二項ニ規定スル期間内ニ事業ニ著手セサルトキハ主務大臣ハ地區ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第五條　事業施行者ハ地區内居住者ヲ一時收容スルニ必要ナル設備ヲ設クヘシ

特別ノ事情アルトキハ事業施行者ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ設備ヲ設ケザルコトヲ得

第六條　事業施行者ハ地區内ニ於ケル土地ノ區劃形質ノ變更、道路下水ノ施設、地上物件ノ除去其ノ他地區改良ノ爲必要ナル事業ヲ行フヘシ

第七條　事業施行者ハ地區内居住者ニ充ツヘキ住宅ヲ其ノ地區内ニ建設スヘシ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ地區外ニ之ヲ建設スルコトヲ得

前項住宅ノ數ハ地區ノ指定アリタルトキ現ニ其ノ地區内ニ居住スル者ノ世帶數ヲ下ルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　改良事業ヲ施行シタル公共團體ハ前條ノ規定ニ依リ建設シタル住宅ノ管理方法ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業施行者ニ對シ其ノ事業ノ施行ノ爲支出スル經費ノ二分ノ一以内ヲ補助ス

第十條　本法ニ依ル改良事業施行ノ爲必要アルトキハ事業施行者ハ地區内ノ土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

第十一條　前條ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニシテ改良事業トシテ行フ建物ノ建設及公共ノ用ニ供セザル

モノハ第六條ノ事業ノ完了後之ヲ賣却スヘシ

前項ノ事業ノ完了ハ主務大臣ノ認定ヲ受クヘシ

第十二條　前條ノ規定ニ依ル土地ノ賣却ハ左ニ揭ケル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ競爭入札ニ依リ之ヲ行フヘシ

一　改良事業施行ノ爲收用セラレタル土地ノ全部又ハ一部ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

二　改良事業施行ノ爲收用セラレタル土地ニ關シ其ノ土地收用ノ際權利ヲ有シタル者（擔保權者ヲ除ク）又ハ其ノ相續人

三　改良事業施行ノ爲收用セラレタル土地ノ上ニ存シタル建物ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者

前項ニ揭ケル者一人ナルトキハ隨意契約ニ依リ賣却スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ賣却スルコトヲ得サル土地ノ賣却ニ付テハ一般ノ競爭入札ニ依ルヘシ

第十三條　第五條ノ規定ニ依ル一時收容設備ノ爲特別ノ必要アルトキハ事業施行者ハ地區附近ノ土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ使用スル土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ハ主務大臣決定シ之ヲ公告スヘシ

第十四條　本法ニ依ル改良事業施業ノ爲必要アリト認ムルトキハ行政廳ハ地區內ノ建物其ノ他ノ工作物ノ所有者ニ對シ其ノ移轉ヲ命シ又ハ其ノ占有者ニ對シ立退ヲ命ズルコトヲ得

行政執行法第五條及第六條ノ規定竝ニ之ニ基キテ發スル命令ハ行政廳ガ前項ノ規定ニ依ル命令ヲ强制スル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　第十條又ハ第十三條第一項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外土地收用法ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依ル土地收用法ノ適用ニ付テハ建物其ノ他ノ工作物ハ之ヲ土地ト看做ス

第十六條　第十條又ハ第十三條第一項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ付テハ第一條第二項若ハ第二條ノ規定ニ依ル主務大臣ノ地區ノ指定又ハ第十三條第二項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ決定ヲ以テ土地收用法第十二條ノ規定ニ依ル事業ノ認定、第三條又ハ第十三條第二項ノ規定ニ依ル公告ヲ以テ土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ト看做ス

第十七條　第十四條ノ規定ニ依リ移轉又ハ立退ヲ命セラレタル者其ノ移轉又ハ立退ニ因リ損害ヲ受ケタルトキハ事業施行者ハ其ノ通常受クヘキ損害ニ限リ之ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依ル補償金ハ收用審査會之ヲ決定ス

第十八條　第十四條ノ規定ニ依リ行政廳ノ爲シタル處分ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十九條　第十七條第二項ノ規定ニ依ル收用審査會ノ決定ニ對シテ不服アル者ノ出訴ニ付テハ土地收用法第八十二條第一項及第二項ノ規定ヲ適用ス

第二十條　公益法人ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ本法ニ依リ改良事業ヲ行フコトヲ得

本法ハ第二條ノ規定ヲ除クノ外前項ノ認可ヲ受ケタル法人ニ之ヲ適用ス但シ第一條及第八條ノ規定ノ適用ニ付テハ同條中公共團體トアルハ前項ノ認可ヲ受ケタル法人トス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（參照）

明治三十三年六月二日公布法律第八十四號行政執行法抄錄

第五條　當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基ツキテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ヲ强制スル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコト

二　强制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ强制スヘキトキハ命令ノ規定ニ依リ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

行政官廳ハ第一項ノ處分ニ依リ行爲又ハ不行爲ヲ强制スルコト能ハスト認ムルトキ又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非サレハ直接强制ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　第三條及第九條ノ費用及第五條ノ過料ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第一項ノ費用及過料ニ關スル繰望支辨收入ノ所屬其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治三十三年三月七日公布法律第二十九號土地收用法抄錄

第十二條　土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ內閣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　內閣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類竝起業地ヲ公告スヘシ

第八十二條　第一項及第二項

收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

○内務省告示第二百七十四號

東京都市計畫河川ノ改修及其ノ事業執行年割左ノ通決定スルノ件昭和二年三月三日内閣ノ認可ヲ得タリ

昭和二年三月八日

第一　東京都市河川改修ノ件左ノ通定ム

名稱	區域	延長(約)	幅員(約)
渋谷川	天現寺ヨリ宮益橋上流ニ至ル	米 二、七三〇	米 米 一〇乃至三

第二　前項ノ計畫ハ都市計畫事業トシテ昭和二年度ヨリ昭和五年度迄四箇年度ニ繼續執行スルモノトシ其ノ年割左ノ通定ム

河川改修事業執行年割

昭和二年度	約八分七厘
昭和三年度	約三割二分六厘
昭和四年度	約二割八分五厘
昭和五年度	約三割二厘

○内務省告示第二百七十五號

昭和二年三月八日内務省告示第二百七十四號東京都市計畫渋谷川ノ改修事業ヲ執行スヘキ行政廳ハ東京府知事トス

右都市計畫法施行令第三條ニ依リ指定ス

昭和二年三月八日

○内務省告示第二百七十六號

大正十一年十二月二十三日内閣認可東京都市計畫目黒川改修事業中左ノ通變更スルノ件昭和二年三月二日内閣ノ認可ヲ得タリ

昭和二年三月八日

大正十一年十二月二十三日内閣認可東京都市計畫改修事業中左ノ通改ム

一東京都市計畫事業河川運河ノ部

四等第二類　第三目黒川長約四千三十九間　幅員十四間

東京府荏原府目黒町地内府縣道第一號東京厚木線ニ架スル大橋ヨリ海ニ至ル

但シ大橋ヨリ蛇崩川合流點ニ至ル長約八百三十九間ハ幅員六間四尺蛇崩川合流點ヨリ田樂橋ニ至ル長約二百五十八間ハ幅員六間現在陸地護岸線ヨリ埋立地護岸線ニ至ル長約九十五間ハ幅員二十間

○内務省告示第二百七十七號

大正十五年三月六日内務省告示第二十二號東京都市計畫路街ノ改修事業ハ大正十五年度ヨリ同四年度迄四箇年度ニ繼續執行スルコトニ更メ其ノ執行年割ヲ左ノ通定ムルノ件昭和二年三月二日内閣ノ認可ヲ得タリ

昭和二年三月八日

街路ノ改修事業執行年割

大正十五年度	約七割八分三厘
昭和元年度	約一割三分二厘
昭和二年度	
昭和三年度	約三厘
昭和四年度	約八分二厘

○内務省告示第二百七十八號

大正十五年三月六日内務省告示第二十六號横濱都市特畫河川改修事業ハ大正十四年度ヨリ昭和三年度迄四箇年度ニ繼續執行スルコトニ更メ大正十五年度ヨリ昭和三年度ニ至ル執行年割左ノ通定ムルノ件昭和二年三月二日内閣ノ認可ヲ得タリ

昭和二年三月八日

河川改修事業執行年割

大正十五年度	約四割五分四厘
昭和元年度	
昭和二年度	約四割五分四厘
昭和三年度	約八分八厘

○内務省告示第二百七十九號

大正十年五月十三日内閣認可東京都市計畫事業街路ノ部一業大路第三類第三號路線ヲ左ノ通變更スルノ件昭和二年三月二日内閣ノ認可ヲ得タリ

昭和二年三月八日

一等大路第三類第三　幅員十二間（中央車道九間左右歩道各一間半）

四谷區内藤町八十七番地地先東京市區改正設計第二等線ヨリ鐵道線路下ヲ過キ近衛第四聯隊裏ヨリ千駄ケ谷町字竹ノ下ヲ經テ赤坂區青山南町四丁目東京市區改正設計第二等線ヲ横切靡區舜町ニ至リ電車軌道ニ沿ヒ天現寺橋ヨリ四ノ橋北詰ニ至ルノ路線

○内務省告示第二百八十號

大正十四年八月十一日内務省告示第百三十九號告示中第二項東京都市計畫街路ノ新設、擴張事業執行年度割左ノ通改ムルノ件昭和二年三月二日内閣ノ認可ヲ得タリ

昭和三年三月八日

大正十年五月十三日内閣認可東京都市計畫事中左ノ街路ノ新設、擴張ハ大正十四年度ヨリ昭和四年度迄五箇年度ニ繼續執行スルコトニ更メ大正十五年度ヨリ昭和

四年廣ニ至ル年度割左ノ通定ム

一等大路第三類第二號路線

一等大路第三類第三號線中起點ヨリ千駄ヶ谷町府縣道第百八十三號千駄ヶ谷赤坂線ニ至ル區間及天現寺橋ヨリ四ノ橋北詰ニ至ル區間

一等大路第三類第十號路線中市部區間

二等大路第一類第七號路線

二等大路第一類第十二號路線中市部區間

二等大路第二類第一號路線中千駄ヶ谷町字北ノ脇三百三十八番地ヨリ大字代々木八十九番地地先明治神宮ニ至ル區間

二等大路第二類第十五號路線

二等大路第三類第三號路線中市ヶ谷臺町九十三番地三十一號地地先ヨリ向七十五號地地先ニ至ル區間

二等大路第三類第五號路線

街路ノ新設擴張事業執行年度割

大正十五年度　約二割三分七厘

昭和元年度　約二割一分九厘

昭和二年度　約二割一分三厘

昭和三年度　約二割一分三厘

昭和四年度　約一割七分五厘

○内務省告示第二百九十三號

大正十三年七月四日内務省告示第四百二十四號東京都市計畫小公園ノ新設及其ノ事業執行年割中第七號橋本公園ヲ削ルノ件昭和二年三月二十四日内閣ノ認可ヲ得タリ

昭和二年三月二十八日

○内務省告示第二百九十四號

大正十三年三月二十日内務省告示第百三十一號東京都市計畫土地區劃整理施行區域中及大正十三年四月一日内務省告示第百七十一號東京都市計畫土地區劃整理施行區域中ヲ變更シ及大正十三年七月四日内務省告示第四百二十四號東京都市計畫小公園ノ新設及其ノ事業執行年割中第七號橋本公園ヲ削ルノ件ヲ廢止ス

昭和二年三月二十八日

○内務省告示第二百九十五號

大正十三年三月十一日内閣認可東京都市計畫並都市計畫事業及其ノ執行年割中幹線街路第十八號路線、同第四十七號路線、同第四十八號路線及大島川ノ改修ヲ左ノ通改ムルノ件昭和二年三月二十四日内閣ノ認可ヲ得タリ

昭和二年三月二十八日

幹線街路ノ部

番號	路線（起終點及經過地）	延長（約）	幅員	
			深（零點下）	度
一八	芝口一丁目ヨリ虎ノ門ニ至ル	一、二四三米	三米	
四七	木場町ヨリ辨天前河岸ニ至ル	七三米	一八米	
四八	宮本町ヨリ濱松町一丁目ニ至ル	四〇三米	二七米	

運河ノ改修ノ部

番號	名稱	區域	延長（約）	幅員 深（零點下）	度
三	大島川	平富町二丁目地先平久川ヨリ諸町地先隅田川ニ至ル	一、三〇〇米	四〇米	一八米

○内務省告示第二百九十六號

東京都市計畫千住町下水道及其ノ事業執行年割左ノ通決定スルノ件昭和二年三月二十四日内閣ノ認可ヲ得タリ

昭和二年三月二十八日

東京都市計畫千住町下水道左ノ通定ム

第一　東京都市計畫千住町下水道

一　下水排除區域ハ東京府南足立郡千住町ノ内荒川放水路以南荒川堤防以北ノ大部（第一期事業ニ屬スル區域ヲ除ク）及荒川堤外地ノ内大字千住中組ノ一部ニ於テ總面積約五十萬六千坪トス

二　下水排除量ハ汚水量ハ千住町荒川放水路以南ノ人口ヲ約七萬四千人ト豫想シ一人當一日平均六立方尺ヲ十二時間ニ排泄スルモノトシ雨水量ハ三十分間三十二粍五トシテ之ヲ定ム

三　下水排除方法ハ合流法ニ依リ雨水及汚水ヲ同一

管渠ニ收容シ自然流下ニ依リ荒川ニ排出ス

四　下水管渠ノ構造ニ付テハ總テ暗渠式トシ排水量ノ多寡ニ應シ土管、鐵筋「コンクリート」管及「コンクリート」矩形暗渠ノ三種ヲ併用ス

五　地勢ニ依リ下水排除區域ヲ熊谷道北部排水區、熊谷道南部排水區及荒川堤外地排水區ノ三區ニ分割ス

各區ノ區域面積及下水道延長左ノ如シ但シ實際工事ノ情況ニ依リ多少ノ增減ヲ見ルコトアルヘシ

熊谷道北部排水區

區域　荒川放水路以南熊谷道以北

面積　約三十一萬二千坪

下水道延長　約一萬四千九百七十三米

熊谷道南部排水區

區域　熊谷道以南荒川堤防以北

面積　約九萬五千坪

下水道延長　約三千五百七十一米

荒川堤外地排水區

區域　荒川堤外地

面積　約九萬九千坪

下水道延長　約四千八十一米

（圖面省略）

第二　前項ノ計畫ハ之ヲ都市計畫事業トシテ昭和二年度ヨリ昭和六年度迄五箇年度ニ繼續執行スルモノトシ其ノ年割左ノ通定ム

下水道事業執行年割

昭和二年度　約二割二厘

昭和三年度　約二割三厘

昭和四年度　約二割一分七厘

昭和五年度　約二割二分四厘

昭和六年度　約一割五分四厘

○內務省告示第二百九十七號

昭和二年三月二十八日內務省告示第二百九十六號東京都市計畫千住町下水道事業ヲ執行スヘキ行政廳ハ東京府南足立郡千住町長トス

右都市計畫法施行令第三條ニ依リ指定ス

昭和二年三月二十八日

○內務省告示第二百八十三號

廣島都市計畫區域內左ノ區域ニ昭和二年四月十五日ヨリ市街地建築物法ヲ適用シ之ヲ同法施行令第三十一條ノ規定ニ依リ指定ス

昭和二年三月十一日

一、廣島縣安藝郡　牛用村、矢賀村、仁保村ノ一部（猿猴川以西）

一、同　安佐郡　三篠町

一、同　佐伯郡　己斐町ノ一部（字才崎谷、東、平原、上堤、才崎新開、中堤、西、田中、橫田、中鄉、大歲、土井、影平、高林、大影、濱、石龜、七九、下堤、梅屋、關、一本松、天保、戶島、山崎新開、吉田村ノ一部（大字古江）、草津町

○內務省告示第二百九十二號

橫濱都市計畫土地區劃整理施行地區第三地區ノ換地處分ヲ爲シタリ

追テ同地區內ニ於テ特別都市計畫法施行令第二十八條第一項ノ規定ニ依リ補償金ノ交付ヲ受クヘキ權利ヲ有スル者ハ昭和二年三月二十四日ヨリ同二十八日迄ノ間ニ復興局橫濱出張所ニ申告ヲ爲スヘシ

昭和二年三月二十四日

（圖面省略）

○內務省告示第二百九十八號

大正十三年四月一日內務省告示第百七十一號東京市計畫土地區劃整理ニ依リ街路ノ新設、改修竝運河ノ改修ノ件街路ノ新設、改修ノ部中第十七整理施行地區ニ於ケル土地區劃整理ニ關シ左ノ通改ムルノ件及大正十三年三月十一日內閣認可東京都市計畫竝都市計畫事業及其ノ執行年割中幹線街路第十七號路線其ノ他ノ位置ヲ改ムルノ件昭和二年三月二十九日內閣ノ認可ヲ得タリ

（圖面省略）

昭和二年三月三十一日

街路ノ新設、改修ノ部

		新設	改修	計	幅員	延長（約）
三	米	一九、八〇三			米	
六		一〇九、一三三	八三、四四〇	一九二、五七三		二四、一五九米
七			三七〇	二、九六六		三、三三六
八		七一、三〇一		一〇四、二〇六		一七五、五〇七
九			九八	五八六		六八四
一一		一七、二二二		七一、四六二		八八、六八四

○內務省告示第二百十九號

大五十三年四月一日內務省告示第百七十一號東京市計畫土地區劃整理ニ依ル街路ノ新設、改修竝運河ノ改修ノ件街路ノ新設、改修ノ部中第四十八整理施行地區ニ於ケル土地區劃整理ニ關シ左ノ通改ムルノ件及大正十三年三月十一日內閣認可東京都市計畫竝都市計畫事業及其ノ執行年割中補助線街路第百十一號路線、同第百十二號路線其ノ他ノ位置ヲ改ムルノ件昭和二年三月二

十九日内閣ノ認可ヲ得タリ（圖面省略）

昭和二年三月三十一日

術路ノ新設、改修ノ部

		延長（約）		
幅員	新設	改修	計	
米 三	二〇、七七〇 米	四、六八一 米	二五、四五一 米	
四	一五、六七七	九、二九〇	二四、九六七	
六	一〇九、六七三	八四、七一一	一九四、三八四	
八	七二、二一三	一〇四、〇三〇	一七六、二四三	
一一	一六、六八三	七一、二四三	八七、九二六	

○内務省告示第三百號

大正十四年八月十一日内務省告示第百四十號東京都市計畫東京市下水道（速成）事業執行年割中大正十五年度昭和元年度以降ヲ左ノ通改ムルノ件昭和二年三月二十九日内閣ノ認可ヲ得タリ

昭和二年三月三十一日

大正十五昭和元年度	約三割四分六厘
昭和二年度	約二割六分
昭和三年度	約一割四分四厘
昭和二年度	約一割四分八厘
昭和三年度	約一割三分七厘
昭和四年度	約一割一分七厘
昭和五年度	約一割一分六厘
昭和六年度	約一割一分三厘

○内務省告示第三百一號

大正十年五月十三日内閣認可東京都市計畫事業中東京府知事ノ執行スヘキ街路ノ新設及擴張事業ノ執行年割中大正十五年度以降ヲ左ノ通改ムルノ件昭和二年三月二十九日内閣ノ認可ヲ得タリ

昭和二年三月三十一日

大正十五昭和元年度	街路ノ新設及擴張事業執行年度割約一割一分二厘

○内務省告示第三百二號

大正十三年三月十一日内閣認可東京都市計畫竝都市計畫事業及其ノ執行年割中補助線街路第十二號路線ノ延長「約一、一四三米」ヲ「約一、一九〇米」ニ改ムルノ件昭和二年三月二十九日内閣ノ認可ヲ得タリ

昭和二年三月三十一日

○内務省告示第三百三號

大正十三年七月四日内務省告示第四百二十七號横濱都市計畫土地區劃整理ニ依ル街路ノ新設、改修中第六整理行地區ニ於ケル土地區劃整理ニ關シ左ノ通改ムルノ件及大正十二年十二月二十九日内務省告示第七百九十八號横濱都市計畫運河改修中帷子川附屬共同物揚場ヲ改ムルノ件昭和二年三月二十九日内閣ノ認可ヲ得タリ（圖面省略）

昭和二年三月三十一日

	延長（約）		
幅員	新設	改修	計
米 四	二、七一一 米	三、一八一 米	五、八九二 米
六	二五、六七九	一〇、六五一	三六、三三〇
八	九、三九〇	一〇、五二三	一九、九一三
一一	三、九九六	一九、二〇八	二三、二〇四
一五	二九〇	二、一九八	二、四八八

○内務省告示第三百四號

大正十五年五月十三日内閣認可東京都市計畫事業街路ノ部一等大路第三類第二十號路線ノ一部ヲ圖面ノ通變更スルノ件昭和二年三月二十九日内閣ノ認可ヲ得タリ（圖面省略）

昭和二年三月三十一日

津都市計畫區域左ノ通決定ノ件認可ス

一、津　市

一、河藝郡　一身田郡、栗真村

一、安濃郡　新町、安東村、神戸村、藤水村

右公告ス

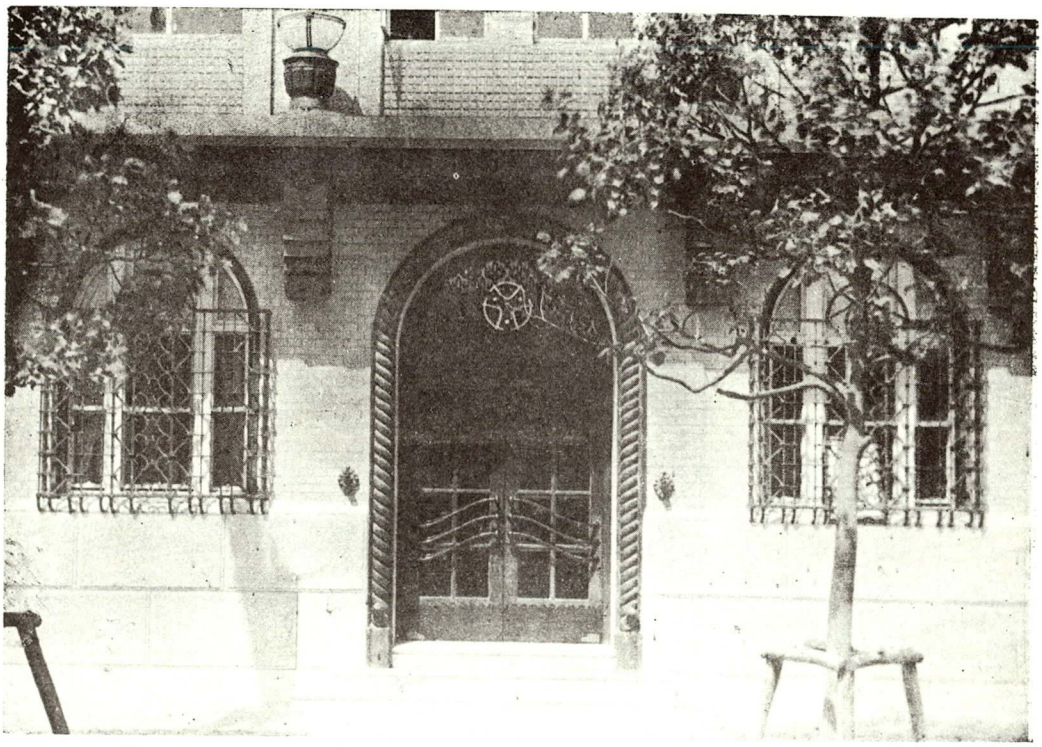
昭和二年三月八日

瀨川式
スペシャルバランサッシ
東京建鐵に於て多年研究中なりし同サッシは今回漸く其完成を見廣く一般建築界に發賣の由にして保健、能率、優美、耐久、良き感じ等に付き多大なる注意と努力を拂はれて居る。

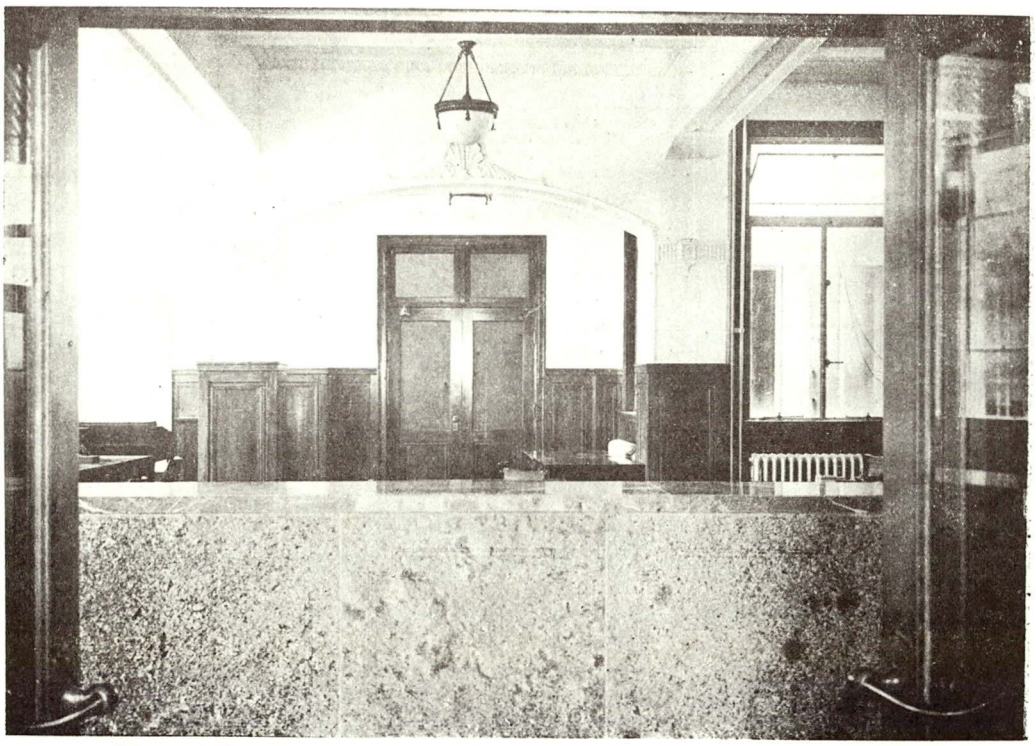


京都・共同火災保險株式會社支店

設計並監督　柳下實建築事務所
工事負請　杉山茂太工務店



京都・共同火災支店・玄關

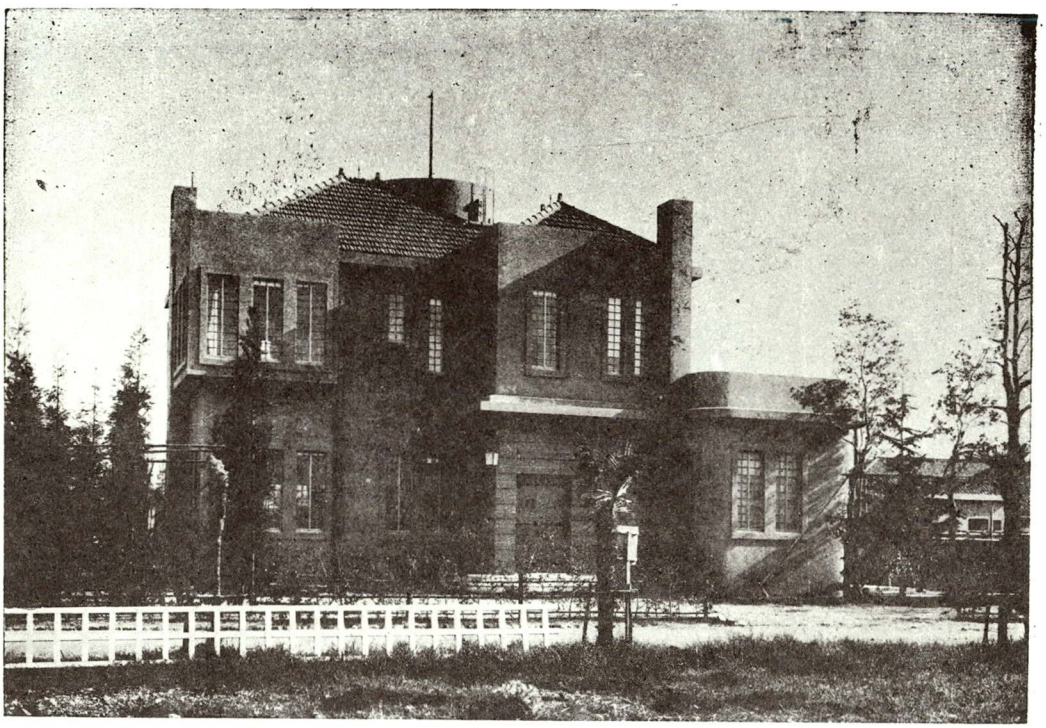


京都・共同火災支店・客溜

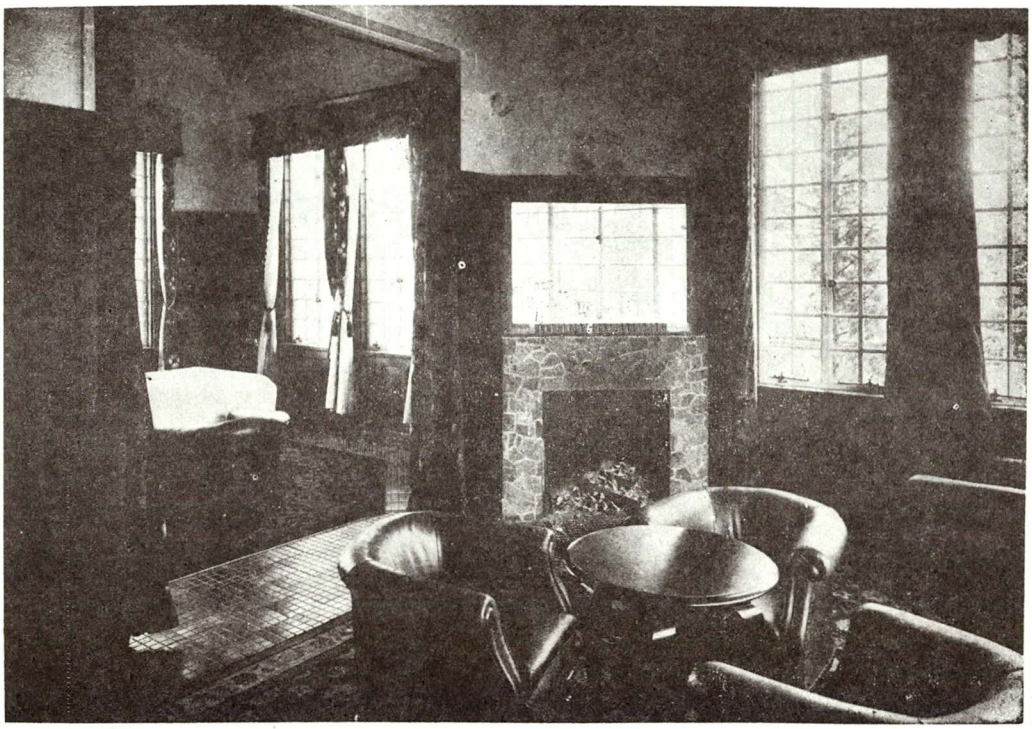


別府・白洲家別邸

工事設計及監督　村上徹一建築事務所



別府・白洲家別邸・正面



別府・白洲家別邸・居間

共同火災保險株式會社
京都支店新築工事概要

位置
京都市下京區元三組饅頭屋町六百十七番地

敷地
七十四坪三合四勺

建坪
五十四坪九合五勺

延坪
百九十三坪八合八勺

内譯

地階	二十一坪五合
一階	五十四坪九合五勺
二階	五十四坪九合五勺
三階	五十四坪九合五勺
塔屋	三坪八合二勺
ペントハウス	三坪六合六勺

着手及竣工期
起工　大正十五年六月二日
竣工　昭和二年四月末日

工事期間
三百三十三日

建築樣式
近世式

階數
地階共四階にして屋上塔屋「ペントハウス」付き

建物高サ
地盤より軒蛇腹上端まで　四十五尺五寸
同　塔屋蛇腹上端まで　五十七尺

各階諸室の配置
地階　汽罐室、ポンプ室、便所、社員食堂、宿直室、淨化槽
一階　營業室、應接室、金庫室、便所
二階　大、中、小貸室、湯沸場、便所
三階　二階と同樣
屋階　「ペントハウス」、物置

構造大要　鐵筋混凝土構造

基礎
根切は地盤より深さ十四尺五寸の砂利層まで堀下げたる總堀にして割栗石搗き固めの上高さ三尺四寸の鐵筋混凝土土地形とす。地下室なき部分は深さ六尺五寸の土混り小砂利層まで堀り下げ前記の施工を行ひしものなり。

柱、梁、並に周壁
全部鐵筋混凝土造りにして外部は地盤より五尺三寸の一階窓下まで北木産花崗石貼りとし其の上部蛇腹下まで黃色斑點ある「タイル」貼りとし蛇腹は黃褐色「テラコッタ」貼りとす
但し北側の大部西側の一部は人造石洗ひ出し着色「モルタール」仕上げとす

床及屋根
各階床は鐵筋混凝土を以て構成し「シングル」混凝土を施し「リノリウム」敷きとす但し一階表玄關及客溜及階段室は「モザツイツクタイル」貼りとす、裏玄關、各階便所は「タイル」貼り地下室は「モルタール」塗の仕上げとす尙屋階は防水層を施し「シングル」混凝土を打ち「モルタール」塗り仕上げとす

内部壁
地階は巾木人造石研き出し仕上げ腰「モルタール」塗り上部は漆喰壁仕上げ一階は腰廻り米檜及「チーク」の羽目板張り「ワニス」塗り仕上げ上部壁は漆喰塗りとす但し玄關及客溜りは光華石及大理石貼り上部壁は漆喰塗仕上げとす、二、三階は漆喰仕上げにして付鴨居下迄は「ペンキ」塗り仕上げとす又各階便所は腰「タイル」貼り上部は漆喰仕上げとす。

内部天井
各階天井は漆喰仕げとし一部彫刻類は石膏製「ペンキ」塗り仕上げとす

外部窓及出入口

窓は總て「スチールサッシュー」を使用し尚五ヶ所の樞要部分には卷揚式防火「シヤッター」を付す、裏出入口、塔屋、「ペントハウス」の各出入口には木製銅板貼扉を取付く硝子は透明厚硝子又は網入を使用す

内部窓及出入口

總て木製にして開き戸又は引き戸なり

階段

表階段は一階より屋上に至るものにして鐵筋混凝土造りの上人造石研き出しとし一部巾木は光華石を用ゆ。

裏階段は踊場のみ鐵筋混凝土造りとなし他は鐵骨製にして地階より三階に至るものとす。

設備大要

電氣設備

電壓　一〇〇「ボルト」「サイクル」六〇

右電力を「ケーブル」にて西側二階に引き込み地階に導き總配電盤を經て立上り二、三階の分電盤に至り(二、三階別々に「メートル」器を付す)各階所用の位置に配電す之れに使用の配管は總て「シエラーダクトチユーブ」を使用せり。

設備としては電燈用、電熱用及動力用とす

暖房設備

本裝置は低壓蒸汽暖房裝置にして冬期の外氣華氏二十八度の時室内温度華氏六十五度に上昇せしむるものなり。

米國「アメリカン、ラヂエター」會社製「アイデアル、ウオーターチューブボイラー」一基を地階に設置し各放熱器(ピアレス型二栓式)を通じて各室に放熱するものとす。

衛生設備

便所は洗滌式とし汚物は淨化槽に導き處理し自働揚水機により屋外の暗渠に排出するものとす。

給水設備

飲用、雜用共市の水道より供給を受け各階に導き洗面所、便所洗ひ場等に給水す。

消火設備

市の水道管より地下室に導入し立上りて各階の消火栓に通ぜしむ尚建物表角には撒水栓付「サイアミツクス、コンネクション」を附し非常の際は消防署「ポンプ」と連結せしめ消火裝置に送水を補給し消火能力を補助強大ならしめ得る樣設備せり。

瓦斯設備

京都瓦斯會社より供給を受け地階、二階、三階の炊事用に使用するものとせり、「メートル」は地階、二階、三階の三ヶ所に設備せり。

電話電鈴設備

建物の西南部にある電柱より十三對鉛被紙「ケーブル」一條を二階に引き込み屋内に入りて湯沸場壁面にある保安裝置付十三對切替盤により二、三階に加入電話取付け豫定場所各四ヶ所及一階營業室に二ヶ所配線す又一階營業室にある加入電話機は地階宿直室に增設電話機を取付けこれと聯絡せり。

電鈴工事は裏入口と宿直室に連絡電鈴の鳴動によるものとせり。

避雷設備

塔屋より高さ二十尺の旗竿上に一基及煙突上十六尺五寸の竿上に一基計二基とす、以上の各突針は導線を以て地下恒水位以下三尺のヶ所に厚一尺五寸の木炭層内に埋設せる地中盤に連結せり。

塵芥處理設備

三階以下各階より塵芥を投下し得る塵突を設け溜桝に之れを受け入れ隨時處分す。

工事關係者

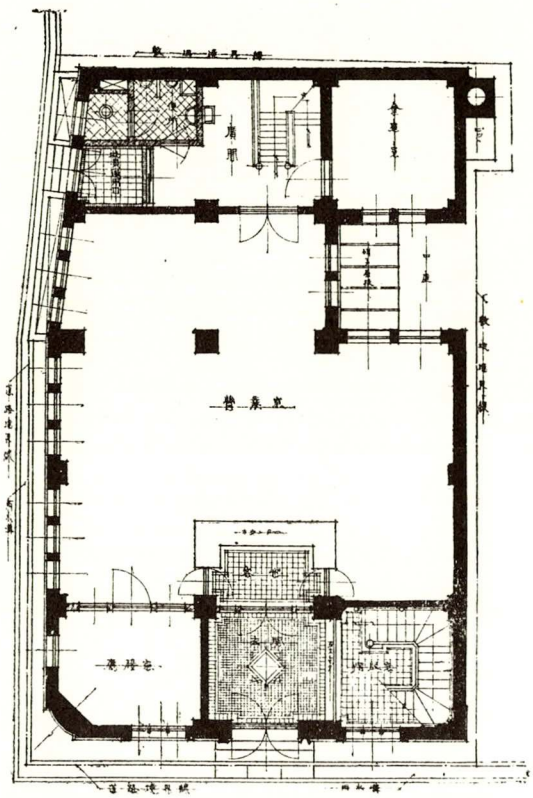
建築主　共同火災保險株式會社

設計並に監督　柳下實建築事務所

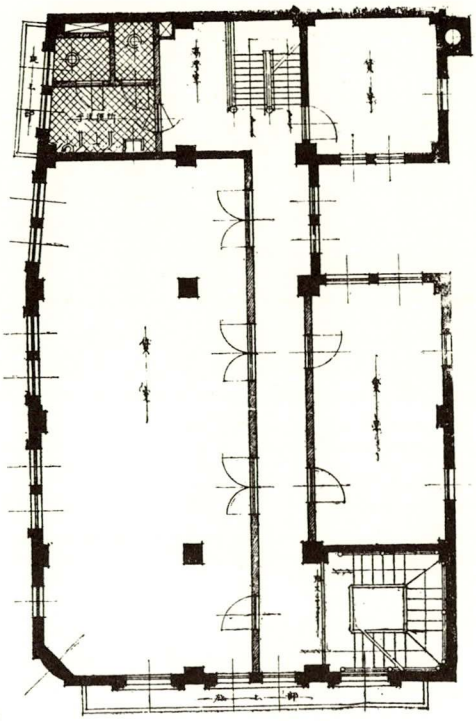
工事請負　合資會社東京杉山茂太工務店

＊　＊　＊

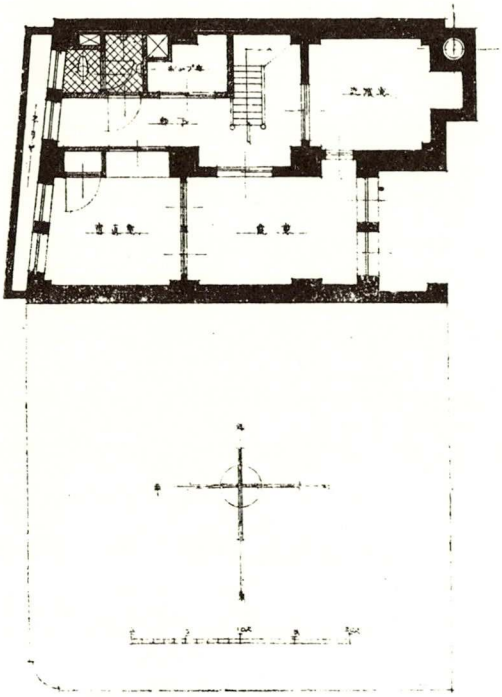
一階



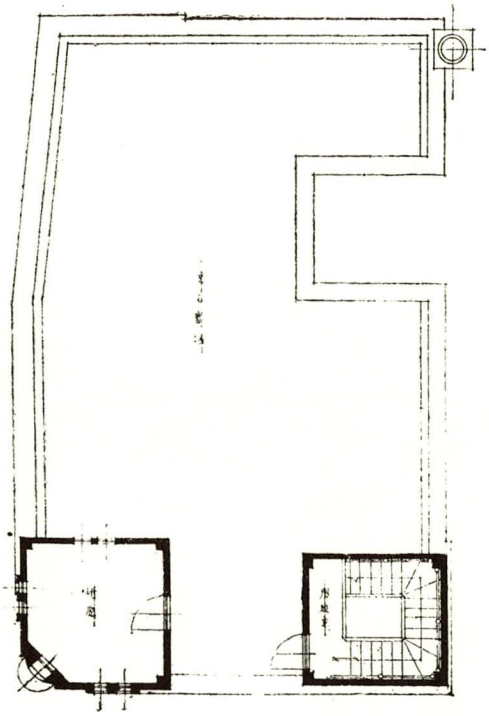
二、三階



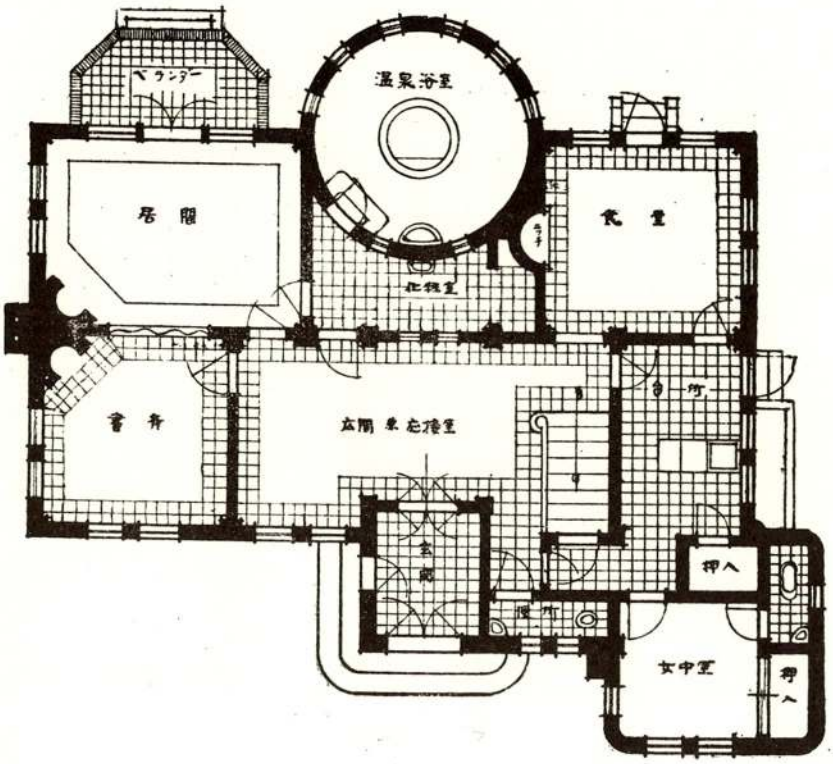
地下



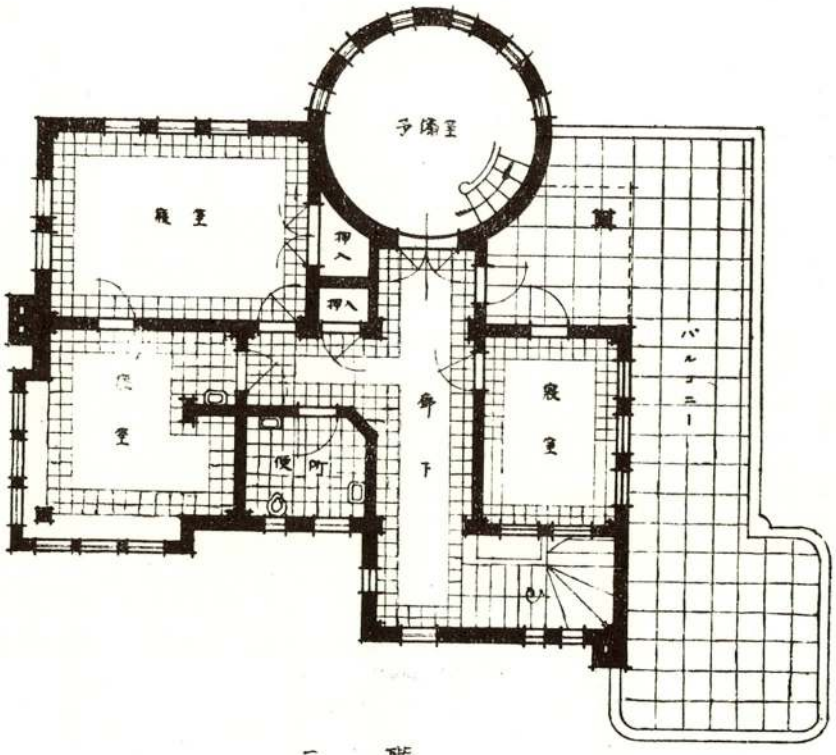
屋上



京都共同火災支店平面



一　階



二　階

別府一白洲家別邸一平面

別府白洲別邸新築工事概要

一、位　置　別府市北埋土地鶴水園内

二、敷地面積　四百坪

三、建　坪　本　館　四十四坪五合七勺
　　附屬家　九坪

四、延　坪　本館　九十坪一合一勺
　　内　譯
　　地階　十坪一合二勺
　　一階　四十四坪五合七勺
　　二階　三十坪五合二勺
　　三階　四坪九合

五、建築様式　獨逸風を加味せる近代式

六、階　數　一部地下室を設けたる二階建にして圓塔は三階

七、建　物　地盤より軒上端迄二十八尺
　　圓塔、バラペット上端迄五十尺

八、本館諸室の配置
　1、地階　ボイラー室兼物置
　2、一階　玄關、廣間兼應接室、溫泊浴室化粧室、居室、書齋、食堂、炊事場、便所、下女室、下便所、
　3、二階　主人寢室、夫人寢室、豫備寢室豫備室、便所、廊下、押入、バルコニー
　4、三階　展望室

九、構造大要
　1、基礎　割栗突固、鐵筋混凝土礎版地形
　2、壁體　全體、鐵筋混凝土造
　3、外裝　錆色人造洗出塗、居室ベランダ1別府産扁平石貼付
　4、内裝　居室、書齋、廣間兼應接室、高七尺楓ベニヤ板、ラック艶消仕上ゲ、食堂、下女室、白漆喰仕上、炊事場、腰セメントモルタル塗、化粧室便所、白色タイル貼、溫泉、腰人造研出塗、上部コルク粉白ペンキ仕上、各寢室及豫備室、展望室等白漆喰塗、水性ペイント塗白漆喰塗り、水性ペイント塗仕上、一部ペンキ仕上、溫泉室、天井モルタル塗、コルク粉、白色ペンキ塗玄關鐵平石張り、溫泉浴室人造石研出塗り、炊事場モルタル塗下女室疊敷、化粧室及各便所白色タイル敷、二階バルコニー別府産扁平石敷、展望室、豫備室リグノイド仕上
　5、天井　其他居室、寢室等各室周圍一尺二寸通り巾木共碁盤目濃褐色タイル敷の内方府板張
　6、床　各階手摺共鐵筋コンクリート造手摺人造研出仕上、踏面甌上共鐵平石張り
　7、階段　外部窓及出入口は政正合資會社製スチールサッシュ及スチール「ドーア」取付
　8、裏入口　下地土居葺防腐劑塗、マンガン入フランス型瓦葺き
　9、屋根

十、設備大要
　1、煖房　溫水循環式にて地下室の汽罐より各室放熱器に送湯す
　2、電燈電熱及電鈴　各室配線は床及壁中の瓦斯管内に納め隱蔽す
　3、給水及排水　便所、洗面所の排水は汚水淨化槽に導き後下水に放流し雨水、汚水等は土管に依り市下水道に連絡放流す

十一、工程
　1、起工　大正十五年六月
　2、竣工　昭和二年五月

十二、工事設計及監督　村上徹一建築事務所

十三、施工　直營

十四、附帶工事者
　1、電燈電熱電話電鈴工事　川北電氣企業社
　2、煖房水道衛生工事　須賀商會
　3、家具裝飾其他工事　高島屋呉服店

編輯後記

現代都市に於ける癌腫的缺陷は不良住宅の存在である、と同時に起る問題は都市住宅の問題であると信じますので本月號に於きましては主として此の方面に對して斯界の權威と資料とを纂編いたしました。

◆

尙本問題を離れて讀者諸士に提供すべき大朝社藤田進一郎氏の興味ある記事の寄稿がありましたが編輯上の都合で遺憾ながら九月號に讓ることにいたしました

◆

本年は特別の暑さを感じますのでお互樣に自分の身體さへも持扱ひ兼ねる折柄御多忙中御執筆を願ひました諸先生の勞を多とする次第であります

◆

來月號に於きましては「水と建築」に關しソレ〳〵各方面の諸先生に執筆方御承認を得て居ますから讀者と共に鶴首して九月號を待ち度いと思ひます

（編　輯　係）

暑中御見舞

本年は格別の暑氣でありますが讀者各位に於かせられては定めし御健在のことゝはお察しいたしまするが一層の御加養を希ふと同時に益々御健勝ならんことを切に祈ります

本誌定價表

冊數	定價	郵稅
一冊	七拾五錢	貳錢
十二冊	九圓	貳拾四錢

昭和二年七月卅一日印刷
昭和二年八月一日發行　（每月壹回一日發行）

大阪市東淀川區豐崎四通一ノ七
發行兼編輯人　薦田夏次郎
兼印刷人

大阪市東區內淡路町二丁目卅一番地
印刷所　大阪活版所

大阪市北區中之島二丁目二十五番地
江商ビルヂング
發行所　社團法人　日本建築協會
電話本局四二九二一番
振替口座大阪三九九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀四四〇番）
振替口座二二〇八四番

御購讀の向は本會直接又は特約店へ振替又は爲替にて前金御拂込被下度候

社團法人日本建築協會會報

會合

○臨時總會（第一回）

昭和二年六月二十三日自午後六時至同七時三十分

場所　大阪市中央公會堂中集會室

出席者

阪口君　中村君　岩尾君　片岡君
永田君　芝原君　平島君　島田君
渡部君　舟橋君　米倉君　中川君
坪井君　楠田君　酒井君　松室君
小野君　吉井君　白石君　松下君
兒玉君　左谷君　小川君　津田君
設樂君　松本（徹）君　杉浦君
和田君　山中君　小津君　波江君
中島君　岡村君　竹中君　加藤君
宮本君　德政君　篠原君　澁谷君
池田谷君　龍村君　木村君　高田君
大澤君　岩村君　渡邊（義）君
佐藤君

議案

一、追加豫算に關する件

各種委員會追加豫算案

一金一千圓也

內譯

第一部（法制）委員會　三一九、〇〇
第二部（敎化）委員會　三二六、〇〇
第三部（資料）委員會　一七五、〇〇
第四部（災害）委員會　一八〇、〇〇

（單位圓）

片岡會長議長席に就き出席者四七名にて定數に滿たざるに據り總會成立せず本夕は假決議と致したしと諮りそれに決す松室主記原案の說明に當り滿場異議無く原案通可決のことに假決議す

○臨時總會（第一回）

昭和二年七月四日自午後六時至同八時三十分

場所　江商ビルヂング集會室

出席者

松室君　八木君　坪井君　安部君
平島君　武富君　藤井君　片岡君
波江君　古宇田君　山脇君　和田君
永田君　高田君

議案

一、追加豫算に關する件

本案は去る六月二十三日開催の臨時總會に於て假決議されたるもの

片岡議長より案の說明あり追加豫算金壹千圓也可決確定せり

（豫算の內譯は前揭參照）

○例會

昭和二年六月二十日自午後七時三十分至同九時三十分

場所　大阪市中央公會堂中集會室

出席者

阪口君外四六名

討議

一、建築法規の改正に關する件

首題を議事とし更に左の各項に付て順次討議に入り左記決議要項を得

1、工業地域內特別地區の指定を促進するの必要なきや

必要とするは勿論なるも其地域、規模其他に關し具體案を提示するの要あり

2、袋地に對する建築線指定に關する件

袋地の狀況種々あるべきにより其各種に付研究の上成案を作るの要あり

3、道路巾に基く建築物の高さに關する件

道路を基準として建物の高さを定むるとき第一に其基準道路の幅員が合理的のものなるや否やを確むるの要あり依て之による建物の高さは從て現行法規の制限より變化あるべく之を現行法規により道路を標準とするときは幾分高さを增すことになるたしとの希望を述べし人もありたり

4、建築敷地境界線に面する建物の採光面積に關する件

採光面積に關しては窓硝子の中心線迄を幅として取るや否や其邊に付正確なる論據を立つることを要す

5、階段の數に關する件

階段の數に關しては建物の種類用途によりて夫々裁定するの要あり必ずしも建坪のみを標準となして其數を定め難きにより具體的に各種の建物に付其大さ、個數等を考究せざる可からず

○定例常務會

昭和二年七月十一日自午後五時三十分至同七時十五分

出席者　理事　宗君　日高君
常務　坪井君　松室君　阪口君
波江君　八木君

報告

一、六月分會計報告

二、建築學會主催建築展覽會に關する件

右開催に付中條同展覽會委員長より書面にて援助方並に出陳依頼ありたり

決議事項

一、七月例會に關する件

七月及八月例會は暑中に付休會のことに決定

（各委員會は委員長の意見により八月中休會のこと）

二、會員外委員囑託の件

第二部委員會の要求により左記の者を同委員會分科委員に囑託することに決定

大阪府社寺兵事課勤務
大阪府屬　松尾幾太郎氏
天王寺師範學校教諭
佐藤　佐氏
三、協會事務處理上に關する件
四、暑中執務時間短縮に付會告の件
五、會誌會報欄にて紹介の件
照明學會映畫脚本懸賞募集規程
六、名譽賛助員に推薦の件
工學博士渡邊譲氏を名譽賛助員に推薦することに決定
七、會員入退會の件
左記の人の入會を承諾すること
特賛
長井杏四郎君
左記諸君の退會を承諾すること
會員
宮崎　正夫君　小池　光義君
大塚　熊吉君　村田　哲男君
大工庄七郎君　笠原德太郎君
山口　正君　神尾　秀雄君
佐藤　榮吉君
普賛
井上伊佐武君　鈴木　定吉君
大橋　久市君　中川　將君
長谷部　功君　田中　直造君

○主記會

昭和二年六月二十八日自正午十二時至午後一時
出席者
松室君　坪井君　阪口君
協議事項
一、臨時總會再度開催に付日取の件
七月四日(月)午後六時開會のことに決定
二、同上終了後討議會開催の件
第一部委員會に討議問題出題方を囑し總會案内と共に通知のこと但し速急不可能の場合は取止めのこと
三、會誌編輯人變更に付會告の件
四、其他

○第二部委員會

昭和二年七月十八日自午後五時三十分至同八時三十分
出席者
古宇田君　小笠原君　松本(儀)君
酒井君　澁谷君　姫野君　安井君
議事
今秋當地に於て開催の建築學會主催講習會に關し其會場、會期、聽講人員、其他に付協議を重ねて散會す

○第四部委員會

昭和二年七月九日自午後六時至同七時三十分
出席者
池田(宮)君　中島君
議事
一、曩日研究問題として中島委員提出の木造家屋耐震構造範例作成の件に付打合せをなす
一、左記書類を蒐集すること
1、大阪市工場分布地圖（大阪市役所刊行）
2、木造小學校建築耐震上の注意（震災豫防調査會刊行）
3、丹後地方震後の家屋建築及修理に關する注意(同上)

○第四部委員會

昭和二年七月十八日自午後五時三十分至同八時
出席者
波江君　池田(宮)君　渡部君
永澤君　中島君　黒田君
議事
一、木造耐震構造に關し今日迄に蒐集したる材料に付種々研究したる後、今後の研究方法としては之を左記の通五部に分ち擔當者を定めて之を繼續し九月の委員會に持寄り討議すること
1、和風住宅之部
擔當者　中島君
2、洋風住宅之部
同　松本(儀)君　黒田君
3、學校建築之部
同　波江君　增田君
大野君
4、雨天體操場之部
同　永野君
5、事務所之部
同　八木君　渡部君
池田(宮)君
二、木造耐震構造に關し研究依囑の件
住宅建築に就て造詣深き會員松本（儀）君を煩して特に本件の研究方を委員長名にて依囑の事に決す

新入會者宿所

特賛
長井杏四郎君　兵庫縣武庫郡六甲村日尾一四四

轉勤轉居

會員
上谷　利夫君　兵庫縣武庫郡伊丹町伊丹二六
宇都宮邦士君　京都川上京區烏丸通押小路角日本勸業銀行京都支店新築工事場大林組烏丸出張所
馬野　七登君　仙臺市米ヶ袋上町八
中村吉太郎君　神戸市阪口通四丁目二二ノ一
戸塚　端君　府下中河內郡小阪町下小阪七〇三
勤先竹中工務店大阪本店
西村辰次郎君　西區土佐堀船町八
吉井俊太郎君　千葉縣船橋町五日市五九

一　岡山縣倉敷町西榮町五四
四ノ九
森本　順三君
勤先、藤木工務店倉敷出張所

堀本　義雄君　岡山市西田町一一中村邸
新築場藤木工務店出張所內

普　贊
山口縣萩町戎町八四
若宮　虎吉君
勤先　大阪阪本好久建築事務所

高橋　直喜君　東區北濱一丁目二六ノ一
田原三千男君　府下豊能郡豊中町南轟木二七九

篠原　實君　滋賀縣堅田町東洋紡績清水組事務所

清永倉　八君　福岡縣筑紫郡千代町福岡地方專賣局建築場大林組出張所

杉本　久俊君　西區新町南通三丁目日本セメント工業所內

佐藤　佐七君　札幌市北十四條西四丁目
樋口スミ方

高木　登君　北區曾根崎上三丁目梅田ビル大連ドロマイト工業會社大阪出張所

高松　秀行君　福岡市住吉町四八五高松九十三方

歸朝

特贊角尾篤彦君は昨年來室內裝飾研究の爲歐米視察の處六月末無事歸朝の由

住所不明者

左記諸君の現住所不明に付御存知の向は本會まで御通知を願ひます

普贊　伴仲　信次君
會員　野上　一郎君

逝去

名贊　大槻　龍治君　六月二十五日
會員　北村　萬治君　五月　四　日
普贊　古谷　雅一君　六月二十四日

右記會員諸君夫々下記の日に逝去せらる洵に痛悼の至りに堪へず本會は直ちに弔辭並に弔狀を捧げて弔意を表しました

寄贈雜誌

朝鮮と建築　每號　朝鮮建築會
セメント界彙報　每號　日本ポートランドセメント同業會
住宅　每號　住宅改良會
建築雜誌　每號　建築學會
工政　每號　工政會
經濟資料　每號　東亞經濟調査局
土木建築　每號　土木建築社
建築新潮　每號　洪洋社
大阪工業俱樂部　每號　大阪工業俱樂部
通俗衛生　每號　大阪府衛生會
帝國鐵道協會報　每號　其會
工業評論　每號　其社
電氣學會雜誌　每號　其會
鐵道軌道經營資料　每號　鐵道同志會
趣味ノ園藝　每號　關西園藝會
國際建築時論　每號　國際建築時論社
住　每號　住研究社
土木建築之日本　每號　其社
優生學　每號　日本優生學會
工業ト社會　每號　東京工業會
工業　每號　大阪工業會
滿州建築協會雜誌　每號　其協會
日立評論　每號　其社
庭園と風景　每號　日本庭園協會
圖書室月報　每號　東京市政調査會
大阪網島工業會誌　每號　其會
エンヂニヤリング　每號　其社
工業要錄　每號　其發行所
都市研究　每號　兵庫縣都市研究會
名古屋工業會々報　每號　其會
大阪　每號　大阪都市協會
生活　每號　生活改善同盟會
建設　每號　其社
都市問題　每號　東京市政調査會
新建築　每號　其社
京都の實業　每號　京都商業會議所
建築畫報　每號　中央建築會
其會
大分高商調査部研究資料彙報　每號
木材彙報　每號　大阪木材協會
駿工　每號　其會
建築時論　每號　其社
建築學研究　每號　其會
動力之節約　每號　工場能率增進研究會

役員

會長　理事　片岡　安
副會長　理事　宗　兵藏
副會長　理事　日高　胖
監事　橫濱　勉
監事　松本禹象
常務　坪井誠一
同　常務　松室重光
同　常務　阪口芳三郎
主計　常務　德政金吾
同　常務　吉井長七
同　常務　谷　民藏
同　編輯　常務　池田谷久吉
同　常務　波江悌夫
同　常務　野呂長四郎
同　常務　八木幸次郎

●第一〇集　第八号　掲載広告一覧（掲載順）

永柳商店
笹岡家具装飾店
日本鉄扉製作所
灰久本店
万年スレート
浅野スレート
日本ペイント製造
三井物産大阪支店
東洋コルク工業
日本エレベーター製造
東亜ペイント
関西ステインドグラス製作所
駒井商店
大阪電気分銅
東洋鉱粉所
大阪鉄板製造
大阪製鎖所
カールツアイス
東洋コンクリート
関西ペイント
橋本庭園工務所
東洋大理石

西村建築
東洋リノリューム
中村グラニット商会
森川組
飾磨化学工業
池田建築事務所
大阪建築相談所
橋本建築事務所
小笠原建築事務所
岡部建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所
横河工務所
片岡建築事務所
吉武建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
藤井工業所
国枝工務所
安井建築事務所
増田清建築事務所
設楽建築事務所

真水工務所
真水三橋建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
中外アスファルト
亀谷開作
竹中工務店
大塚鉄工所
中新
佐伯組
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
松村組
正木工務店
藤木工務店
日本鑿泉
内海工務店
日本塗装工業
銭高組
大林組
吉住和一郎商店

大阪鉄筋混凝土工務所
大阪窯業セメント
岡本工務店
鴻池組
有山組
駒井喜商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
ＳＯ商会
須賀商会
栄進社
大阪耐火リノリウム工業
田中昌司商店
内外エレベーター
内外土木建築材料
デゥエット商会
大阪鉄扉製作所
野沢幸三郎商店
高島屋呉服店
日本工剤
東亜鉄工所
KENSEI SHOKAI

大阪建材商会
三菱造船神戸造船所
佐久間建材工業所
玲光社
米本商店
三井物産
浅野物産
油脂化工社
阿部鉄工所
日本建築紙工
田村商会
日本スレート販売大阪支店
大平工業所
佐村木勝吉
日本セメント防水剤製造所
浅海商店
山本窯業商店
大阪窯業
伊丹商店
城口研究所大阪支店
木下謹三商店
トーペー、アンド、ダート、ペイント会社
矢橋大理石商店
日本メタルラス製造所

松本商店
桐田商会
王子製瓦
佐治タイル
宮田鉄工所
新田ベニヤ製造所
大和工業
島貿易
小野田セメント
東京建鉄大阪支店
建築金物商会